

Cosminexus V11 アプリケーションサーバ リファ
レンス 定義編(アプリケーション／リソース定義)

文法書

3021-3-J17-60

前書き

■ 対象製品

マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の前書きの対象製品の説明を参照してください。

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, Cosminexus, HiRDB, OpenTP1, uCosminexus, XDM は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Amazon Web Services, AWS, Powered by AWS ロゴ, Amazon Aurora, Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)は、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。

Microsoft, Azure, SQL Server, Windows, Windows Server は、マイクロソフト 企業グループの商標です。

Oracle(R), Java , MySQL 及び NetSuite は、Oracle, その子会社及び関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

UNIX は、The Open Group の登録商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

■ 発行

2024 年 9 月 3021-3-J17-60

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2020, 2024, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(3021-3-J17-60) uCosminexus Application Server 11-50, uCosminexus Client 11-50, uCosminexus Developer 11-50, uCosminexus Service Architect 11-50, uCosminexus Service Platform 11-50

追加・変更内容	変更箇所
記載内容は変更なし（リンク情報だけを変更した）。	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。



はじめに

このマニュアルをお読みになる際の前提情報については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」のはじめにの説明を参照してください。

目次

前書き	2
変更内容	3
はじめに	4

1 ファイルの概要 8

1.1	ファイルの種類	9
1.1.1	アプリケーションに含めて使用するファイル	9
1.1.2	サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル	9
1.2	属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先	11
1.3	ファイルの説明の記述形式	13
1.3.1	記述形式	13
1.3.2	文法で使用する記号	13
1.4	ファイル編集時の注意事項	15

2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) 16

2.1	アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容	17
2.2	アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細	67
2.2.1	アプリケーション統合属性の詳細	67
2.2.2	EJB-JAR 属性の詳細	75
2.2.3	Session Bean 属性の詳細	77
2.2.4	Entity Bean 属性の詳細	99
2.2.5	Message-driven Bean 属性の詳細	124
2.2.6	War 属性の詳細	140
2.2.7	Filter 属性の詳細	171
2.2.8	Servlet 属性の詳細	172
2.2.9	Connector 属性の詳細	174

3 J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル 207

3.1	アプリケーション統合属性ファイル	208
3.1.1	アプリケーション統合属性ファイルの指定内容	208
3.2	アプリケーション属性ファイル	211
3.2.1	アプリケーション属性ファイルの指定内容	211
3.2.2	DD との対応	213
3.2.3	cosminexus.xml との対応	214
3.3	EJB-JAR 属性ファイル	216

3.3.1	EJB-JAR 属性ファイルの指定内容	216
3.3.2	DD との対応	224
3.3.3	cosminexus.xml との対応	232
3.4	Session Bean 属性ファイル	234
3.4.1	Session Bean 属性ファイルの指定内容	234
3.4.2	DD との対応	250
3.4.3	cosminexus.xml との対応	256
3.5	Entity Bean 属性ファイル	260
3.5.1	Entity Bean 属性ファイルの指定内容	260
3.5.2	DD との対応	278
3.5.3	cosminexus.xml との対応	283
3.6	MessageDrivenBean 属性ファイル	288
3.6.1	MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容	288
3.6.2	DD との対応	297
3.6.3	cosminexus.xml との対応	302
3.7	WAR 属性ファイル	306
3.7.1	WAR 属性ファイルの指定内容	306
3.7.2	DD との対応	342
3.7.3	cosminexus.xml との対応	363
3.8	フィルタ属性ファイル	368
3.8.1	フィルタ属性ファイルの指定内容	368
3.8.2	DD との対応	369
3.8.3	cosminexus.xml との対応	370
3.9	サーブレット属性ファイル	371
3.9.1	サーブレット属性ファイルの指定内容	371
3.9.2	DD との対応	373
3.9.3	cosminexus.xml との対応	374

4 リソースの設定で使用する属性ファイル 375

4.1	Connector 属性ファイル	376
4.1.1	Connector 属性ファイルの指定内容	376
4.1.2	リソースアダプタの定義	395
4.1.3	リソースアダプタの設定	400
4.1.4	ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグレーションプロパティの定義	401
4.1.5	アウトバウンドリソースアダプタの定義	403
4.1.6	インバウンドリソースアダプタの定義	414
4.1.7	管理対象オブジェクトの定義	417
4.1.8	セキュリティパーミッションの定義	420
4.1.9	リソースアダプタの実行時情報	421

- 4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ 424
- 4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ 448
- 4.1.12 <property>タグに指定できるプロパティ 452
- 4.1.13 Connector 属性ファイルのテンプレートファイル 457
- 4.1.14 DD との対応 460
- 4.1.15 cosminexus.xml との対応 466
- 4.2 JavaBeans リソース属性ファイル 469
- 4.2.1 JavaBeans リソース属性ファイルの指定内容 469
- 4.3 メール属性ファイル 472

索引 474

1

ファイルの概要

この章では、アプリケーションサーバで使用するファイルの種類、記述規則、文法の記述形式について説明します。

なお、このマニュアルでは、アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、J2EE アプリケーションやリソースを設定する場合に、属性情報を設定するファイルについて説明します。

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、サーバに関する定義情報を記載するファイルについては、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「1. ファイルの概要」を参照してください。

1.1 ファイルの種類

J2EE アプリケーションの設定では、属性ファイルを使用します。なお、属性ファイルのファイル名は任意です。

このマニュアルでは、ファイルを次の二つに分類しています。

- アプリケーションに含めて使用するファイル
- サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

それぞれの属性ファイルについて説明します。

1.1.1 アプリケーションに含めて使用するファイル

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、アプリケーションに含めて使用するファイルについて説明します。

ファイルの種類

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

概要

アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタのアプリケーションサーバ独自の情報を定義するファイルです。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の詳細については、「[2. アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\)](#)」を参照してください。

1.1.2 サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

アプリケーションサーバで使用するファイルのうち、サーバ管理コマンドを実行する場合に、引数に指定するファイルについて次の表に示します。

表 1-1 サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル

ファイルの種類	概要	参照先マニュアル	参照先
アプリケーション統合属性ファイル	アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタの属性を一括して取得、編集する場合に使用するファイルです。	このマニュアル	3.1
アプリケーション属性ファイル	アプリケーションの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。		3.2

ファイルの種類	概要	参照先マニュアル	参照先
EJB-JAR 属性ファイル	EJB-JAR の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.3
Session Bean 属性ファイル	Session Bean の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.4
Entity Bean 属性ファイル	Entity Bean の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.5
MessageDrivenBean 属性ファイル	MessageDrivenBean の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.6
WAR 属性ファイル	WAR の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.7
フィルタ属性ファイル	フィルタの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.8
サーブレット属性ファイル	サーブレット/JSP の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		3.9
Connector 属性ファイル	リソースアダプタの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		4.1
JavaBeans リソース属性ファイル	JavaBeans の属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		4.2
メール属性ファイル	メールコンフィグレーションの属性を取得，編集する場合に使用するファイルです。		4.3

注1 「参照先マニュアル」に示したマニュアル名の「アプリケーションサーバ」は省略しています。

注2 バッチアプリケーションを実行するシステムの場合，使用できるのはこの表で示した属性ファイルのうち Connector 属性ファイルだけです。

1.2 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先

属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先について説明します。属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先を OS ごと（Windows および UNIX）に分けて表に示します。

表 1-2 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先（Windows の場合）

属性ファイル	DTD ファイルの格納先
cosminexus.xml（アプリケーション属性ファイル）	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\cosminexus_9_5.dtd
アプリケーション統合属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-application-all-property_9_0.dtd
アプリケーション属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-application-property_8_0.dtd
EJB-JAR 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd
Session Bean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-session-bean-property_9_0.dtd
Entity Bean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd
MessageDrivenBean 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-message-bean-property_7_6.dtd
WAR 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-war-property_9_0.dtd
フィルタ属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-filter-property_7_0.dtd
サーブレット属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-servlet-property_7_0.dtd
Connector 属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-connector-property_7_6.dtd
JavaBeans リソース属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-javabeans-resource-property_7_0.dtd
メール属性ファイル	<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%\admin\dtlds\hitachi-mail-property_7_1.dtd

表 1-3 属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先（UNIX の場合）

属性ファイル	DTD ファイルの格納先
cosminexus.xml（アプリケーション属性ファイル）	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtlds/cosminexus9_5.dtd

属性ファイル	DTD ファイルの格納先
アプリケーション統合属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-application-all-property_9_0.dtd
アプリケーション属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-application-property_8_0.dtd
EJB-JAR 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd
Session Bean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-session-bean-property_9_0.dtd
Entity Bean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd
MessageDrivenBean 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-message-bean-property_7_6.dtd
WAR 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-war-property_9_0.dtd
フィルタ属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-filter-property_7_0.dtd
サーブレット属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-servlet-property_7_0.dtd
Connector 属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-connector-property_7_6.dtd
JavaBeans リソース属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-javabeans-resource-property_7_0.dtd
メール属性ファイル	/opt/Cosminexus/CC/admin/dtds/hitachi-mail-property_7_1.dtd

DTD ファイルを使用するときの注意事項を次に示します。

- DTD ファイルの内容は変更しないでください。
- DTD ファイルをコピーして使用しないでください。
- サーバ管理コマンドを実行したマシン以外の環境で属性ファイルを XML エディタなどで使用する場
合、使用する環境に合わせて属性ファイルの URI 指定を書き直してください。

1.3 ファイルの説明の記述形式

ファイルの説明の記述形式について説明します。また、文法で使用する記号についても説明します。

1.3.1 記述形式

2 章以降、ファイルの説明を次の形式で記述します。

- 指定内容
属性ファイルの構成を示します。
- 各属性の詳細
属性ファイルに定義するタグの詳細について説明します。
- テンプレートファイル
属性ファイルのテンプレートファイルを示します。
- DD との対応
属性ファイルと DD との対応を示します。
- cosminexus.xml との対応
DD と cosminexus.xml との対応を示します。次のような場合に、参考情報として参照してください。
 - 既存の属性ファイルから cosminexus.xml に変更する場合
 - cosminexus.xml で設定した内容をサーバ管理コマンドで属性ファイルとして取得する場合

参考

すべてのファイルで上記の項目をすべて説明しているわけではありません。また、上記以外に、各ファイルの固有情報を記載している場合があります。

1.3.2 文法で使用する記号

文法は次の表に示す記号および構文要素を使用して記述します。

表 1-4 文法で使用している記号

記号	意 味
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」を意味します。 (例) A B A または B を指定することを示します。
[]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。複数の項目が横に並べて記述されている場合には、すべてを省略するか、記号 { } と同じくどれか一つを選択します。

記号	意 味
	(例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
{ }	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ、記号 で区切られている場合は、そのうちの一つを選択します。 (例) {A B C} A, B または C のどれかを指定することを示します。
...	記述が省略されていることを示します。 (例) ABC... ABC の後ろに記述があり、その記述が省略されていることを示します。
< >	この記号で囲まれている項目は、該当する要素やファイルなどを指定したり、該当する要素が表示されたりすることを示します。 (例 1) <プロパティ> プロパティを記述します。またはプロパティが表示されます。 (例 2) <ファイル名> ファイル名を指定します。
...	この記号の直前に示す記号を繰り返し、複数個指定できることを示します。 (例) <プロパティ>... プロパティは複数個、繰り返して指定できます。

表 1-5 文法で使用している構文要素

構文要素	定義
英字	A~Z a~z
英小文字	a~z
英大文字	A~Z
数字	0~9
英数字	A~Z a~z 0~9
記号	! " # \$ % & ' () + , _ . / : ; < = > @ [] ^ - { } — タブ 空白

注 すべての半角文字を使用してください。

1.4 ファイル編集時の注意事項

Windows でファイルを編集する場合の注意事項を次に示します。なお、システムドライブを C ドライブとして説明します。

定義ファイルを更新する場合

アプリケーションサーバが提供する定義ファイルは、管理者特権で更新する必要があります。管理者特権のないユーザが定義ファイルを更新しても、C:\Program Files 以下のディレクトリにある定義ファイルは更新されません。管理者特権のないユーザが更新したファイルは、次に示すディレクトリ以下に保存されます。

C:\Users<ユーザ名>\AppData\Local\VirtualStore

なお、アプリケーションサーバは管理者特権で起動されるため、管理者特権のないユーザが更新した定義ファイルの内容は無視されます。

Unicode の補助文字を使用する場合

アプリケーションサーバで使用する定義ファイルに、Unicode の補助文字は使用できません。

Unicode の補助文字を使用できない定義の例を示します。

- EAR, WAR, JAR, EJB-JAR, サブレット, JSP, クラス, メソッド, 引数, および変数の名称
- DD 内の各種定義
- そのほか, 各種定義ファイルの設定値

また、実行時の文字エンコーディングに変換できない文字をログファイルへ出力した場合、正しく出力されません。

2

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

この章では、アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) について説明します。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は、EJB-JAR, Session Bean, Entity Bean, Message-driven Bean, WAR, フィルタ, サーブレット/JSP およびリソースアダプタに関する、アプリケーションサーバ独自の定義情報を設定するためのファイルです。

2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は、アプリケーションサーバ独自の情報を取得、編集する場合に使用するファイルです。アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) には、設定値を変更した個所だけが記載されます。サーバ管理コマンドなどでデフォルト値を設定した場合、該当するタグがこのファイルから削除されます。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で定義する属性を次に示します。

- アプリケーションの属性
- EJB-JAR の属性
- Session Bean の属性
- Entity Bean の属性
- Message-driven Bean の属性
- WAR の属性
- フィルタの属性
- サーブレット/JSP の属性
- リソースアダプタの属性

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の形式および格納先を記します。

形式

xml 形式です。

格納先

<EAR のルート>/META-INF/cosminexus.xml

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の表中で定義する項目について説明します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
出現パターン	タグが出現する回数を示します。
内容	タグに定義する内容を示します。
指定可能値	タグに指定できる値を示します。
デフォルト	タグ、またはタグに指定する内容が省略されている場合に有効になる指定値を示します。デフォルト値がない場合は"なし"を記述します。
特定キー	DD およびモジュールを特定するためのキーであるかどうかを示します。凡例を次に示します。 D：DD の要素を特定するキーです。 K：モジュールを特定するためのキーです。 －：特定するキーではありません。

各タグの詳細、およびキーの省略、値の省略、ほかのタグとの依存関係については、「2.2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細」を参照してください。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) は次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。なお、DOCTYPE 宣言を編集する必要はありません。

```
<!DOCTYPE cosminexus-app PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Cosminexus 9.5//EN' 'file:///Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/cosminexus_9_5.dtd'>
```

cosminexus.xml の構成および指定内容について説明します。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
<cosminexus-app>	0 または 1 回	ルートタグ。	—	なし	—
ト <security-prop>	0 または 1 回	cosminexus-app のセキュリティの管理方法を指定します。	—	なし	—
ト <security-method>	1 回	セキュリティ設定を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • disable_methods_without_roles • map_methods_without_roles • no_security_for_methods_without_roles • no_security_for_all_methods	no_security_for_methods_without_roles	—
ト <default-security-role>	0 または 1 回	<security-method>に map_methods_without_roles を指定した場合のデフォルトセキュリティロールを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
ト <start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始および停止の順番を指定します。 開始した場合は昇順で開始処理が実行され、終了した場合は降順に停止処理が実行されます。	0～2147483647 の整数値を指定します。	10	—

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
ト	<scheduling-unit> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	0 または 1 回	キューの配置モデルを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Application • Bean	Application	－
ト	<scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報を設定します。	－	なし	－
ト	<queue-name> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	0 または 1 回	スケジューリングを行うキュー名を指定します。	英数字、およびアンダースコア「_」を指定できます。 指定できる文字数は 1～63 文字です。	アプリケーション名※	－
ト	<parallel-count> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。	1～127 の整数値を指定します。	1	－
ト	<queue-length> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	キューの長さを指定します。	1～32767 の整数値を指定します。	CTM デーモンで保持している CTM キューの生成時の長さ (-CTMMaxRequestCount オプションで指定した長さ)	－
ト	<managed-by-ctm> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携をするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	－
ト	<ref-libraries>	0 または 1 回	参照するライブラリ JAR を指定します。	－	なし	－
ト	<classpath>	1 回以上	参照ライブラリのクラスパスを指定します。	入力制限されません。	なし	－
ト	<method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回	メソッド時間監視機能の障害回復モードを指定します。	指定できる文字列を次に示します。	なし	－

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						<session>-<ejb-name> の設定値を指定します。 ejb-jar.xml を含まないアプリケーションの場合、@Stateless, @Stateful, または@Singleton の name の設定値を指定します。 name が指定されていない場合は、EJB 実装クラス名のパッケージ名を取り除いたクラス名を指定します。			
			ト <security-identity>		0 または 1 回	SessionBean のセキュリティアイデンティティを定義します。	—	なし	—
			└	<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	—	なし	—
				└ <user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	—	なし	—
			ト <resource-ref>		0 回以上	SessionBean から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
			ト	<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	—	なし	D
			└	<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
			ト <resource-env-ref>		0 回以上	SessionBean から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
			ト	<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称を指定します。	—	なし	D
			ト	<linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。	—	なし	—
				ト <resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						1 回	キュー名称を指定します。	入力制限されません。	なし	—
						1 回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
						1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
						1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスclamationマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前	なし	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			↳	<linked-to>	1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD 要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。	リンク解決はされません。	—
			ト	<lookup-name>	0 または 1 回	クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。 このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レズザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。	リソース名	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						指定できる文字数は1～255文字です。		
			ト	<optional-name>	0 または 1 回	リモートインタフェースの別名を指定します。 英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次の名前は指定できません。 - 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 - 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 - スラッシュ (/) またはピリオド (.) だけの名前 - スラッシュ (/) が連続している名前	別名は付きません。	ー

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
							文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中に改行がある場合はエラーとなります。 指定できる文字数は1～255 文字です。		
				ト	<local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名を指定します。 指定できる文字数は1～255 文字です。	別名は付きません。	－
				ト	<maximum-sessions>	0 または 1 回	セッションの最大数または Bean インスタンスの最大数を指定します。 Stateless Session Bean の場合、この設定値は無効になります。	0	－
				ト	<stateless>	0 または 1 回	Session Bean の種別が Stateless の場合に指定します。 <stateless>または<stateful>のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。	なし	－
				ト	<pooled-instance>	0 または 1 回	プール内のインスタンスを定義します。	なし	－
				ト	<minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.1」	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最小数を指定します。 ただし、プーリングの動作は最大数を指定することでカスタマイズできるため、このタグの設定値は無視されます。	0	－
				ト	<maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.1」	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最大数を指定します。 0（無制限）または 1 ≤ maximum ≤ 2147483647 の整数値。 また、<enable-scheduling>の値が true かつアプリケー	0	－

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
								ション属性 <managed-by-ctm>の値が true の場合は、指定可能範囲が異なります。 アプリケーション属性 <scheduling-unit>の指定値が Bean の場合： 0 または <scheduling>- <parallel-count>以上の整数値。 アプリケーション属性の<scheduling-unit>の指定値が Application の場合： 0 またはアプリケーション属性<scheduling>- <parallel-count>以上の整数値。		
				└	<instance-timeout>	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間（秒）を指定します。 0 を指定するとタイムアウトしません。	0～86400 の整数値。	0	—
				┐	<stateful>	0 または 1 回	Session Bean の種別が Stateful の場合に指定します。 <stateless>および<stateful>のどちらか一つを指定するか、もしくはどちらも指定しません。	—	なし	—
				┐	<maximum-active-sessions>	0 または 1 回	アクティブセッションの最大数を指定します。	maximum-sessions が 0（無制限）の場合、$0（無制限） \leq \text{maximum-active-sessions} \leq 2147483647$ の整数値。 maximum-sessions が 0（無制限）以外の場合、$1 \leq \text{maximum-active-sessions} \leq$	0	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
							maximum-sessions の整数値。		
				ト<inactivity-timeout>	0 または 1 回	再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間（分）を指定します。	0（無制限）または 1 ≤ inactivity-timeout ≤ 2147483647 の整数値。	0	—
				ㇿ<removal-timeout>	0 または 1 回	セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間（分）を指定します。	0（無制限）または 1 ≤ removal-timeout ≤ 2147483647 の整数値。	0	—
				ト<enable-scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	該当する Bean をスケジューラの Gate として使用するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
				ト<pass-by-reference>	0 または 1 回	pass-by-reference での EJB 呼び出しを行うかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
				ト<scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報を設定します。	—	なし	—
				ト<queue-name> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	0 または 1 回	スケジューリングを行うキュー名を指定します。	英数字、アンダースコア「_」を使用できます。 指定できる文字数は 1～63 文字です。	ejb 名	—
				ト<parallel-count> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。	1～127 の整数値。	1	—
				ㇿ<queue-length> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	キューの長さを指定します。	1～32767 の整数値。	CTM デーモンで保持している CTM キューの生成時の長さ（-CTMMaxRequestCount オプション	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
								で指定した長さ)	
					0 または 1 回	フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
					0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。	0～2147483647 の整数値。	10	—
					0 回以上	EJB メソッドに仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値（<description>タグを除く）が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—
					1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
					0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Local のすべて。	—
					1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
				└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	空白区切り文字、行区切り文字、および段落区切り文字以外を指定します。	なし	—
				└	<method-observation-timeout>	1 回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0～86400 の整数値。	0	—
			└	<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 － 「3.15.8」		0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—
				┐	<method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
				┐	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Local のすべて。	—
				┐	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	—	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
				└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	—	なし	—
				└	<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間（秒）を指定します。 0（ゼロ）を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。	0～2147483647 の整数値。	0	—
		┐			<entity>	0 回以上	EntityBean について定義します。	—	なし	—
		┐			<ejb-name>	1 回	ejb の名称を指定します。 なお、このキーは EntityBean を特定するためのキーとなります。 ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name>の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
		┐			<security-identity>	0 または 1 回	EntityBean のセキュリティアイデンティティを定義します。	—	なし	—
				└	<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	—	なし	—
				└	<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
		┐			<resource-ref>	0 回以上	EntityBean から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
		┐			<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				└	<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリ	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						ソースアダプタは指定できません。			
					0 回以上	EntityBean から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
					1 回	resource-env-ref の名称を指定します。	入力制限されません。	なし	D
					1 回	キュー名称を指定します。DD 要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
					1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
					1 回	キュー名称を指定します。	入力制限されません。	なし	—
					1 回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
					1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
					1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスclamationマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
								(¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前		
				L	<linked-to>	1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
				T	<lookup-name>	0 または 1 回	クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/EJBのルックアップ名>の<EJBのルックアップ名>に相当します。 このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。	英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), スト	リソース名	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						ローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。 指定できる文字数は 1～255 文字です。		
			<optional-name>	0 または 1 回	リモートインタフェースの別名を指定します。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~)	別名は付きません。	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
						ただし、次の名前は指定できません。 - 予約語の HITACHI_EJB（大文字・小文字を区別します）で始まる名前 - 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 - スラッシュ (/) またはピリオド (.) だけの名前 - スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。指定できる文字数は 1～255 文字です。			
			ト	<local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名を指定します。	指定できる文字に制限はありません。 指定できる文字数は 1～255 文字です。	別名は付きません。	—
			ト	<maximum-instances>	0 または 1 回	Enterprise Bean インスタンスの最大数を指定します。	0（無制限）または 1 ≤ maximum-instances ≤ 2147483647 の整数値。	0	—
			ト	<pooled-instance>	0 または 1 回	インスタンスプールのプロパティを指定します。	—	なし	—
			ト	<minimum>	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最小数を指定します。	0（無制限）または 1 ≤ minimum ≤ maximum。	0	—
			ト	<maximum>	0 または 1 回	プール内のインスタンスの最大数を指定します。	【maximum-instances が 0（無制限）の場合】0（無制限） ≤ maximum ≤	0	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
							2147483647 の整数値。 【maximum-instances が 0（無制限）以外の場合】 $1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-instances}$ の整数値。		
			ト	< caching-model >	0 または 1 回	キャッシングモデルを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • full-caching • caching • no-caching	caching	—
			ト	< entity-timeout >	0 または 1 回	EJB オブジェクトの存在時間（秒）を指定します。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。	0 ~ 2147483647 の整数値。	0	—
			ト	< pass-by-reference >	0 または 1 回	pass-by-reference での EJB 呼び出しをするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
			ト	< instance-timeout >	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合はタイムアウトしません。	0 ~ 86400 の整数値。	0	—
			ト	< front-ejb >	0 または 1 回	フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	—
			ト	< cmp-map >	0 または 1 回	Entity Bean のフィールドをデータベース上にマッピングします。	—	なし	—
			ト	< datasource-name >	1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先として開始されたリソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
			ト	< catalog-name >	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのカタログ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				ト	<schema-name>	0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのスキーマ名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				ト	<table-name>	1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのテーブル名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				ト	<read-only-access>	1 回	アプリケーションからデータベースへの書き込みを許可するかどうかを指定します。ただし、アプリケーションサーバでは指定しても無効になります。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	なし	—
				ト	<transaction-isolation>	0 または 1 回	トランザクション遮断レベルを指定します。 省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます（使用するデータベースおよび JDBC ドライバによって異なります）。	指定できる文字列を次に示します。 • none • read_committed • read_uncommitted • repeatable_read • serializable	なし	—
				ト	<concurrency-protection>	0 または 1 回	データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法を指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • primary-key	primary-key	—
				ト	<field-impl>	0 回以上	Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングを指定します。	—	なし	—
				ト	<field-name>	1 回	Entity Bean のフィールド名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				└	<column-name>	1 回	テーブルのカラム名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				└	<finder-impl>	0 回以上	ejbFindByPrimaryKey 以外の Finder メソッドの検索条件を指定します。	—	なし	—
				ト	<method-name>	1 回	Finder メソッドのメソッド名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				└	<where-clause>	1 回	テーブルの検索条件を指定します。	指定できる値はシャープ「#」以外です。	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			ト			<start-order>	0 または 1 回 J2EE アプリケーションの開始および停止の順番を指定します。 開始した場合は昇順で開始処理が実行され、終了した場合は降順に停止処理が実行されます。	0～2147483647 の整数値。	10	—	
			ト			<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「5 章」	0 回以上 EJB メソッドに仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—	
				ト		<method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
					ト	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Local のすべて。	—
					ト	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	入力制限されません。	なし	—
					└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合に、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
					└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力制限されません。	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
				└	<method-observation-timeout>	1 回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0～86400 の整数値。	0	—	
			└	<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 － 「3.15.8」		0 回以上	EJB（CMT）のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE42377-W）が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—	
				┐	<method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—	
					┐	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 • Home • Remote • LocalHome • Local	Home, Remote, LocalHome, Local のすべて。	—	
					┐	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	入力制限されません。	なし	—
					└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
					└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力制限されません。	なし	—
				└	<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間（秒）を指定します。	0～2147483647 の整数値。	0	—	

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						0（ゼロ）を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。			
		<message>			0 回以上	Message-driven Bean について定義します。	－	なし	－
			<ejb-name>		1 回	ejb の名称を指定します。 なお、このキーは Message-driven Bean を特定するためのキーとなります。 ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name>の設定値を指定します。	入力制限されません。	なし	D
			<security-identity>		0 または 1 回	Message-driven Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。	－	なし	－
				<run-as>	1 回	実行時アイデンティティを定義します。	－	なし	－
				<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	入力制限されません。	なし	－
			<message-ref>		0 または 1 回	リソースアダプタを指定します。	－	なし	－
				<connection-factory>	0 または 1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	－
				<connection-destination>	1 回	リソースアダプタについて定義します。	－	なし	－
				<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	－
				<queue>	0 または 1 回	キュー名称を指定します。	入力制限されません。	なし	－
			<resource-ref>		0 回以上	Message-driven Bean から参照するリソースを定義します。	－	なし	－
				<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力制限されません。	なし	D

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				└	<linked-to>	1 回 対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。	入力は制限されません。	リンク解決はされません。	—
				┐	<resource-env-ref>	0 回以上 Message-driven Bean から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
				┐	<resource-env-ref-name>	1 回 resource-env-ref の名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				┐	<linked-queue>	1 回 キュー名称を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
				┐	<resource-adapter>	1 回 リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<queue>	1 回 キュー名称を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				┐	<linked-adminobject>	1 回 管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
				┐	<resourceadapter-name>	1 回 リソースアダプタの表示名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<adminobject-name>	1 回 管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字（0～9，A～Z，a～z），および次の特殊文字を使用できます。 スペース（ ），エクスクラメーションマーク（!），ダブルクォーテーション（"），シャープ（#），ドル記号（\$），パーセント（%），アンパサンド（&），シングルクォーテーション（'），バーレン（()（）），アスタリスク（*），プラス（+），コンマ（,），ハイフン（-），ピリオド（.），コロンの（:），セミコロン（;），レスザン	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
							(<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単 価記号 (@), ブラケッ ト ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プ レイス ({ }), スト ローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前 は指定できません。 - 先頭または末尾にピ リオド (.) を付けた 名前 - ピリオド (.) だけの 名前 - アンダースコア (_) が連続している名前		
			↳	<linked-to>	1 回	JavaBeans リソースの表示 名を指定します。 DD 要素<resource-env- ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指 定された場合だけ有効です。	入力は制限されません。	リンク解 決はされ ないまま です。	—
			↳	<pooled-instance>	0 また は 1 回	プール内のインスタンスを 定義します。	—	なし	—
			↳	<minimum> 「機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ)」 — 「2.9.3」	0 また は 1 回	プール内のインスタンスの 最小数を指定します。	入力は制限されません。	1	—
			↳	<maximum> 「機能解説 基本・開発編 (EJB コンテナ)」 — 「2.9.3」	0 また は 1 回	プール内のインスタンスの 最大数を指定します。	1～2147483647 の整 数値。 0 が指定された場合は 1 とみなされます。	1	—
			↳	<front-ejb>	0 また は 1 回	フロント EJB（クライアン トが直接呼び出す EJB）か どうかを指定します。	指定できる文字列を次 に示します。 - true - false	false	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				ト	<start-order>	0 または 1 回 J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。	0～2147483647 の整数値。	10	—	
				ト	<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「5 章」	0 回以上	EJB メソッドに仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効となります。	—	なし	—
				ト	<method>	1 回以上	メソッドについて定義します。	—	なし	—
				ト	<method- intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。	—	なし	—
				ト	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。 アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。	—	なし	—
				└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
				└	<method-observation-timeout>	1 回	仕掛中メソッド監視用タイムアウト時間（秒）を指定	0～86400 の整数値。	0	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
		ト	<security-role>	0 回以上	セキュリティロールを定義します。	—	なし	—
		ト	<role-name>	1 回	セキュリティロール名を指定します。	入力制限されません。	なし	D
		ㇿ	<linked-to>	1 回	アクセスコントロールリスト (cjaddsec コマンドで定義したロール名) を指定します。	入力制限されません。	なし	—
		ト	<resource-ref>	0 回以上	Servlet から参照するリソースを定義します。	—	なし	—
		ト	<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称を指定します。	入力制限されません。	なし	D
		ㇿ	<linked-to>	1 回	対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。 クラスタコネクションプール (互換機能) のメンバリソースアダプタは指定できません。	入力制限されません。	なし	—
		ト	<resource-env-ref>	0 回以上	Servlet から参照するリソース環境変数を定義します。	—	なし	—
		ト	<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称を指定します。	入力制限されません。	なし	D
		ト	<linked-queue>	1 回	キュー名称を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。	—	なし	—
		ト	<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	—
		ㇿ	<queue>	1 回	キュー名称を指定します。	入力制限されません。	なし	—
		ト	<linked-adminobject>	1 回	管理対象オブジェクトを指定します。	—	なし	—
		ト	<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。	入力制限されません。	なし	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			└	<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスclamationマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前	なし	—
			└	<linked-to>	1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。	入力は制限されません。	リンク解決はされ ないまま です。	—
			└	<thread-control>	0 または 1 回	Web アプリケーションのスレッド制御の設定をします。	—	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
		「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.15」							
					1 回	Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数を指定します。 占有スレッド数以上の値を指定します。	1～1024 の整数値。	なし	－
					1 回	占有スレッド数を指定します。 Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下を指定します。	0～1024 の整数値。	0	－
					1 回	Web アプリケーション単位の実行待ち行列数を指定します。	0～2147483647 の整数値。	なし	－
					1 回	稼働統計の監視の設定をします。このタグ、 「機能解説 運用／監視／連携編」－「3.4」	－	なし	－
					1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数を監視します。	－	なし	－
					1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	－
					1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値（単位：%）を指定します。	1～100 の整数値。ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。	80	－
					1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。	0～99 の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。	0	－

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				└	<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の 実行待ちリクエスト数を 監視します。	—	なし	—
					┐ <enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の 実行待ちリクエスト数の 監視のしきい値イベントを 有効にするかどうかを指定 します。	指定できる文字列を次に 示します。 • true • false	true	—
					┐ <high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する 上限のしきい値（単位： %）を指定します。	1～100 の整数値。ただし、 <low-threshold> タグの指定値以上の値 である必要があります。	80	—
					└ <low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する 下限しきい値（単位：%） を指定します。	0～99 の整数値。ただし、 <high-threshold> タグの指定 値以下の値である必要 があります。	0	—
			┐	<resource-watcher>		0 また は 1 回	Web アプリケーション単位 のリクエスト実行待ち キュー格納数の監視に関す るプロパティを指定します。	—	なし	—
				┐	<watcher-threshold>	0 また は 1 回	アラートメッセージを出力 するしきい値を指定します。	1～100 の整数値。	80	—
				┐	<watcher-interval>	0 また は 1 回	監視間隔を指定します。	1～2147483647 の整 数値。	30	—
				┐	<watcher-enabled>	0 また は 1 回	Web アプリケーション単位 のリクエスト実行待ち キュー格納数の監視を有効 にするかどうかを指定しま す。	指定できる文字列を次に 示します。 • true • false	true	—
				└	<watcher-writefile- enabled>	0 また は 1 回	リソース使用状況をファイ ルに出力するかどうかを指 定します。	指定できる文字列を次に 示します。 • true • false	true	—
			└	<urlgroup-thread- control>		0 回 以上	URL グループ単位の同時実 行スレッド数制御の設定を します。	—	なし	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
			「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 － 「2.16」						
				<urlgroup-thread-control-name>	1 回	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名を指定します。 URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名は Web アプリケーション内で、一意な名称を指定します。	英数字、ハイフン「-」、アンダースコア「_」を使用できます。 文字の長さは 1～64 で指定します。	なし	－
				<urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回	URL グループ単位の最大同時実行スレッド数を指定します。	1～thread-control-max-threads の整数値。	なし	－
				<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	0 または 1 回	URL グループ単位の占有スレッド数を指定します。	0～urlgroup-thread-control-max-threads かつ thread-control-exclusive-threads 以下の整数値。	0	－
				<urlgroup-thread-control-queue-size>	0 または 1 回	URL グループ単位の実行待ちキューのサイズを指定します。	0～2147483647 の整数値。	なし	－
				<urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上	制御対象となる URL のマッピング情報を設定します。	－	なし	－
				<url-pattern>	1 回	制御対象となる URL パターンを指定します。 一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。 指定例を次に示します。 /soda/grape/* /foo/* /contents *.foo	入力は制限されません。	なし	－
				<stats-monitor> 「機能解説 運用／監視／連携編」－ 「3.4」	0 または 1 回	稼働統計の監視の設定をします。	－	なし	－

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
					└	<waiting-request-count>	0 または 1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視します。	—	なし	—
					┐	<enabled>	0 または 1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 • true • false	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
					┐	<high-threshold>	0 または 1 回	しきい値イベントを出力する上限しきい値（単位：%）を指定します。	1～100 の整数値。 low-threshold 以上でなければなりません。	80	—
					└	<low-threshold>	0 または 1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。	0～99 の整数値。 high-threshold 以下でなければなりません。	0	—
	┐	<http-request>				0 または 1 回	HTTP リクエストに関する各種設定をします。	—	なし	—	
		└	「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 – 「2.6」			1 回	リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 ただし、Servlet 仕様に準拠した設定（ServletAPI および web.xml）がある場合、無効となります。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。	入力は制限されません。	なし	—	
	┐	<http-response>				0 または 1 回	HTTP レスポンスに関する各種設定をします。	—	なし	—	
		└	「機能解説 基本・開発編 (Web コンテナ)」 – 「2.6」			1 回	レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 ただし、Servlet 仕様に準拠した設定（ServletAPI および web.xml）がある場合、無効となります。	入力は制限されません。	なし	—	

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
					JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。			
				0 または 1 回	JSP に関する各種設定をします。	—	なし	—
				1 回	JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。ただし、Servlet 仕様に準拠した設定 (ServletAPI および web.xml) がある場合、無効となります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。	入力制限されません。	なし	—
				0 または 1 回	Web アプリケーション単位の HttpSession 数の監視に関する情報を設定します。	—	なし	—
				0 または 1 回	使用可能な HttpSession の最大数を指定します。 -1 を指定した場合は無制限となります。	-1 ~ 2147483647 の整数値。	-1	—
				0 または 1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定します。	—	なし	—
				0 または 1 回	アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。	1 ~ 100 の整数値。	80	—
				0 または 1 回	監視間隔を指定します。	1 ~ 2147483647 の整数値。	30	—
				0 または 1 回	HttpSession 数の監視を有効にするかどうかを指定します。 ただし、<http-session-max-number>に 0 を指定	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						した場合、この指定に関係なく監視は無効となります。			
				<watcher-writefile-enabled>	0 または 1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
				<dbso> 「機能解説 拡張編」－「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能を設定します。	—	なし	—
				<enabled>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbso.enabled)	—
				<application-id>	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定します。	英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。 指定できる文字数は最大 16 文字です。	アプリケーションのコンテキストルート名から作成します。	—
				<attribute-data-size-max>	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。	128～10485760 の整数値。	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbso.attribute_data_size.max)	—
				<exclude-extensions>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定します。 複数の拡張子を指定する場合、コンマ「,」で区切って指定します。	次に示す文字を使って、512 文字以内で指定します。 • 英数字 • 括弧「()」 • エクスクラメーション「!」 • パーセント「%」 • ドル「\$」	J2EE サーバのプロパティ値 (webserver.dbso.exclude_extensions)	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
							- アンパサンド「&」 - シングルクォート「'」 - プラス「+」 - ハイフン「-」 - イコール「=」 - 単価記号「@」 - アンダースコア「_」 - チルダ「~」 - ピリオド「.」 - コンマ「,」		
					0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始時にスタートアップ時のロードが指定されている Servlet/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。 新規に作成した J2EE アプリケーションの初期表示値は、true となります。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
					0 または 1 回	J2EE アプリケーションの開始および停止の順番を指定します。 開始した場合は昇順で開始処理が実行され、終了した場合は降順に停止処理が実行されます。	0~2147483647 の整数値。	10	—
					0 または 1 回	Web アプリケーションのセッションパラメタを定義します。	—	なし	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー		
		ト	<cookie-config>		0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie を指定します。	—	なし	—	
			ト	<name>		0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie の名称、および URL のパスパラメタ名を指定します。	英数字 (0～9, A～Z, a～z) および次の特殊文字を使用できます。 エクスクラメーションマーク (!), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ストローク (), チルダ (~) ただし、名前の先頭にドル記号 (\$) を指定できません。	JSESSIONID	—
			└	<http-only>		0 または 1 回	Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けるかどうかを指定します。	指定できる文字を次に示します。 • true • false	false	—
			└	<tracking-mode>		0 回以上	トラッキングモードを指定します。	指定できる文字を次に示します。 • COOKIE • URL	なし	—
		ト	<filter>		0 回以上	Filter について定義します。 web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。	—	なし	—	
			ト	<filter-name>		1 回	Filter を特定するためのキーとなります。 web.xml の<web-app>-<filter>-<filter-name>の設定値を指定します。	入力は制限されません。	なし	D

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
			└	<method-observation-timeout>	1 回	リクエストの延長で呼び出されるフィルタの doFilter メソッドの監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0	—
			└	<servlet>	0 回以上	Servlet について定義します。 web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。	なし	—
			└	<servlet-name>	1 回	Servlet を特定するためのキーとなります。 web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>の設定値を指定します。	なし	D
			└	<run-as>	0 または 1 回	実行時アイデンティティを定義します。	なし	—
			└	<user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。	なし	—
			└	<method-observation-timeout>	0 または 1 回	リクエストの延長で呼び出されるサーブレットの service メソッド/JSP の _jspService メソッドの監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。	0	—
			└	<rar>	0 回以上	rar に関する情報を定義します。	なし	—
			└	<module-name>	1 回	リソースアダプタを特定するためのキーとなります。 次の条件に従って、設定値を指定します。 application.xml を含むアプリケーションの場合 アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通 application.xml の<application>-	なし	K

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				<module>- <connector>に指定した文字列を指定します。 application.xml を含まないアプリケーションの場合 - アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d)) J2EE アプリケーション中の RAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。 - 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a)) アプリケーションディレクトリ中の RAR ファイルの場所をアプリケーションディレクトリからの相対パスで指定します。			
		ト <resourceadapter>	0 または 1 回	リソースアダプタについての情報を定義します。	—	なし	—
		ト <outbound-resourceadapter>	0 または 1 回	アウトバウンド方向へのリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
		ト <connection-definition>	1 回以上	コネクションインタフェース・クラスを定義します。 補足 下位タグの <connector-property> について <property-value> は <property-name> ごとに設定値の範囲が異なるため、それぞれのプロパティごとに記載しています。	—	なし	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
						<property>の指定が複数あり、<property-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<property>の<property-value>の値が有効となります。				
				ト	<connectionfactory-interface>	1 回	リソースによってサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名を指定します。	入力は制限されません。	なし	D
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	MaxPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MaxPoolSize	なし	—
				ト	<property-value>	1 回	プロパティ値として、プールの最大値を指定します。	-1（無制限）または 0～2147483647 の整数値。	10	—
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	MinPoolSize プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • MinPoolSize	なし	—
				ト	<property-value>	1 回	プロパティ値として、プールの最小値を指定します。	0～2147483647 の整数値。	10	—
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
					└	<property-name>	1 回	LogEnabled プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 LogEnabled	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、LogWriter によるログ出力の要否を指定します。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
					└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					└	<property-name>	1 回	User プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 User	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、ユーザ名を指定します。	入力は制限されません。	なし	—
					└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					└	<property-name>	1 回	Password プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 Password	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、パスワードを指定します。	入力は制限されません。	なし	—
					└	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					└	<property-name>	1 回	ValidationType プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 ValidationType	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションチェック契機を指定します。	指定できる値を次に示します。 0：コネクションチェック機能オフ 1：コネクション取得時にチェック 2：一定間隔でチェック	1	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	ValidationInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ValidationInterval	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションチェック間隔(秒)を指定します。	1～2147483647 の整数値。	3600	—
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	RetryCount プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RetryCount	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション取得リトライ回数を指定します。	0～2147483647 の整数値。	0	—
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	RetryInterval プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • RetryInterval	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション取得リトライ間隔(秒)を指定します。	1～2147483647 の整数値。	10	—
				ト	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				ト	<property-name>	1 回	ConnectionTimeout プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • ConnectionTimeout	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション解放までのタイムアウト値(秒)を指定します。	0～2147483647 の整数値。	0	—

2. アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml)

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
				┌<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				└<property-name>	1 回	ConnectionPoolAdjustmentInterval プロパティを指定します。 • ConnectionPoolAdjustmentInterval	指定できる文字列を次に示します。 • ConnectionPoolAdjustmentInterval	なし	—
				└<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション数のソフトランディング動作調節間隔（秒）を指定します。	0～2147483647 の整数値。	600	—
				┌<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				└<property-name>	1 回	SweeperInterval プロパティを指定します。 • SweeperInterval	指定できる文字列を次に示します。 • SweeperInterval	なし	—
				└<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションスリーパ動作時間間隔（秒）を指定します。	0～2147483647 の整数値。	0	—
				┌<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				└<property-name>	1 回	RequestQueueEnable プロパティを指定します。 • RequestQueueEnable	指定できる文字列を次に示します。 • RequestQueueEnable	なし	—
				└<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列の要否を指定します。 • true • false	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	—
				┌<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
					┐	<property-name>	1 回	RequestQueueTimeout プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 RequestQueueTimeout	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる最大値 (秒) を指定します。	0～2147483647 の整数値。	30	—
					┐	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					┐	<property-name>	1 回	WatchEnabled プロパティを指定します。 WatchEnabled	指定できる文字列を次に示します。 WatchEnabled	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
					┐	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					┐	<property-name>	1 回	WatchInterval プロパティを指定します。 WatchInterval	指定できる文字列を次に示します。 WatchInterval	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションプール監視間隔 (秒) を指定します。	1～2147483647 の整数値。	30	—
					┐	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
					┐	<property-name>	1 回	WatchThreshold プロパティを指定します。 WatchThreshold	指定できる文字列を次に示します。 WatchThreshold	なし	—
					└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションプール使用状態を監視するしきい値 (%) を指定します。	1～100 の整数値。	80	—

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー	
				┌	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌	<property-name>	1 回	WatchWriteFileEnabled プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 WatchWriteFileEnabled	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
				┌	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌	<property-name>	1 回	Warmup プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 Warmup	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
				┌	<connector-property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	—	なし	—
				┌	<property-name>	1 回	NetworkFailureTimeout プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 NetworkFailureTimeout	なし	—
				└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	—
				└	<resource-external-property>	0 回以上	リソースについて定義します。	—	なし	—

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						1 回	リソースの別名を指定します。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次の名前は指定できません。 - 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 - 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 - スラッシュ (/) またはピリオド (.) だけの名前 - スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り	なし	—

タグ名							出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
									除かれて設定されます。 また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。 指定できる文字数は1～255文字です。		
						<res-auth>	0 または 1 回	リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container	Container	—
						<res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソース接続を共有できるようにするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable	Shareable	—
						<adminobject>	0 回以上	リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトを定義します。 DD の<adminobject>と同じ数分、同じ順番で設定する必要があります（設定しない場合、空タグ<adminobject/>を指定します）。 すべての<adminobject>に<adminobject-name>を設定する必要があるなければ省略できます。	—	なし	—
						<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。リソースアダプタ内でユニークでなければなりません。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスclamationマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セ	なし	—

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
						ミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前		
		<resourceadapter-property>		0 回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
			<property-name>		1 回	MaxThreadPoolSize プロパティを指定します。 MaxThreadPoolSize	なし	—
			<property-value>		1 回	プロパティ値として、スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。	10	—
		<resourceadapter-property>		0 回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
			<property-name>		1 回	MinThreadPoolSize プロパティを指定します。 MinThreadPoolSize	なし	—
			<property-value>		1 回	プロパティ値として、スレッドプールに存在する最小スレッド数を指定します。	0	—

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	特定キー
	└	<resourceadapter-property>	0 回以上	Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。	—	なし	—
	┌ 	<property-name>	1 回	TPoolKeepalive プロパティを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • TPoolKeepalive	なし	—
	└	<property-value>	1 回	プロパティ値として、スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値(秒)を指定します。	1～2147483647 の整数値。	300	—

(凡例)

—：該当なし。

注※

指定可能値以外の文字列を使用している場合は、キュー名を指定してください。

2.2 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する内容の詳細を属性ごとに説明します。

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で定義する項目について次に示します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
説明	タグに定義する内容を示します。
ほかのタグとの依存関係	ほかのタグとの依存関係を示します。
タグの省略	タグが省略できるかどうかを示します。
値の省略	タグの値が省略できるかどうかを示します。

2.2.1 アプリケーション統合属性の詳細

cosminexus.xml のアプリケーション統合属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <security-prop>

説明

cosminexus-app のセキュリティの管理方法を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <security-method>

説明

セキュリティ設定を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- `disable_methods_without_roles`
セキュリティロールを割り当てていないメソッドは実行できません。
- `map_methods_without_roles`
セキュリティロールを割り当てていないメソッドには、`default-security-role` で指定したデフォルトセキュリティロールが割り当てられます。
- `no_security_for_methods_without_roles`
セキュリティロールが割り当てられていないメソッドはどのユーザでも実行できます。
セキュリティロールが割り当てられているメソッドはセキュリティロールによって実行が制限されます。
- `no_security_for_all_methods`
セキュリティロールが割り当てられているメソッドも割り当てられていないメソッドもすべてどのユーザでも実行できます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <default-security-role>

説明

<security-method>に `map_methods_without_roles` を指定した場合のデフォルトセキュリティロールを指定します。

<security-method>に `map_methods_without_roles` 以外が指定された場合は、このタグの設定値は無視されます。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。

開始時は昇順で開始処理が実施され、終了時は降順に停止処理が実施されます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <scheduling-unit>

説明

キューの配置モデルを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
キューをアプリケーションごとに配置する場合に指定します。
- Bean
キューを Bean ごとに配置する場合に指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(6) <scheduling>

説明

CTM 連携関連の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <queue-name>

説明

スケジューリングを実行するキュー名を指定します。

指定可能値

英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。

指定できる文字数は 1～63 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <parallel-count>

説明

CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。

指定可能値

1～127 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(9) <queue-length>

説明

キューの長さを指定します。

指定可能値

1～32767 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <managed-by-ctm>

説明

CTM 連携をするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
CTM 連携をする。
- false
CTM 連携をしない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <ref-libraries>

説明

参照するライブラリ JAR を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(12) <classpath>

説明

参照ライブラリのクラスパスを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<max-thread-pool-size>

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <method-observation-recovery-mode>

説明

メソッドキャンセル機能の障害回復モードを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- thread

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <ejb-async-props>

説明

非同期 Session Bean 呼び出し用の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(15) <min-thread-pool-size>

説明

スレッドプールで同時に実行される最小スレッド数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<max-thread-pool-size>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(16) <max-thread-pool-size>

説明

スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<min-thread-pool-size>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <thread-pool-keep-alive>

説明

スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値（単位：秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(18) <result-timeout-value>

説明

非同期呼び出しの結果を保持する時間（単位：分）を指定します。0 を指定した場合、非同期呼び出しの結果を解放しないで、アプリケーションが終了するまで保持します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.2 EJB-JAR 属性の詳細

cosminexus.xml の EJB-JAR 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <ejb-jar>

説明

EJB-JAR について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>

説明

EJB-JAR を特定するためのキーとなります。

次の条件に従い設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通
application.xml の<application>-<module>-<ejb>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))
J2EE アプリケーション中の EJB-JAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。
- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))
EJB-JAR ディレクトリの、アプリケーションディレクトリからの相対パスの末尾の"_jar"を".jar"に置き換えた値を指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字には"/"を使用します。

- パスの文字列の先頭に"/"は指定できません。
- パスの文字列中に, "./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-role>

説明

セキュリティロールについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <role-name>

説明

ロール名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <linked-to>

説明

cjaddsec コマンドで定義したロール名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.3 Session Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Session Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <session>

説明

Session Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Session Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<session>-<ejb-name>の設定値を指定します。

ejb-jar.xml を含まないアプリケーションの場合、@Stateless, @Stateful, または@Singleton の name の設定値を指定します。

name が指定されていない場合は、EJB 実装クラス名のパッケージ名を取り除いたクラス名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Session Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <resource-ref>

説明

Session Bean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名，メール表示名を指定します。

クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前
＜リソースアダプタの表示名＞
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
＜リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Session Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

リソース環境変数参照の名称を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。

DD の<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(12) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の<resource-env-ref-type>タグに「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <lookup-name>

説明

クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。

このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <optional-name>

説明

リモートインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次の名前は指定できません。

- 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前
- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <local-optional-name>

説明

ローカルインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

指定できる文字に制限はありません。

指定できる文字数は 1～255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <maximum-sessions>

説明

セッションの最大数または Bean インスタンスの最大数を指定します。

Stateless Session Bean または Singleton Session Bean の場合、この設定値は無効になります。

指定可能値

0（無制限）または $1 \leq \text{maximum-sessions} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(22) <stateless>

説明

Session Bean の種別が Stateless の場合に指定します。

<stateless>または<stateful>のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<session-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(23) <pooled-instance>

説明

プール内のインスタンスについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

指定可能値

0 または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<maximum>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <maximum>

説明

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

0（無制限）または $1 \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ の整数値。

また、<enable-scheduling>タグの値が true、かつアプリケーション属性<managed-by-ctm>タグの値が true の場合は、指定可能範囲が異なります。

- アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグの指定値が Bean の場合
0 または<scheduling>-<parallel-count>以上の整数値。
- アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグの指定値が Application の場合
0 またはアプリケーション属性<scheduling>-<parallel-count>タグ以上の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<enable-scheduling>タグ、アプリケーション属性の<managed-by-ctm>タグ、アプリケーション属性の<scheduling-unit>タグ、<scheduling>-<parallel-count>タグ、およびアプリケーション属性の<scheduling>-<parallel-count>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <instance-timeout>

説明

インスタンス取得タイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <stateful>

説明

Session Bean の種別が Stateful の場合に指定します。

<stateless>もしくは<stateful>のどちらかを指定するか、またはどちらも指定しません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<session-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(28) <maximum-active-sessions>

説明

アクティブセッションの最大数を指定します。

指定可能値

maximum-sessions が 0（無制限）の場合

0 （無制限） $\leq$ maximum-active-sessions ≤ 2147483647 の整数値。

maximum-sessions が 0（無制限）以外の場合

$1 \leq$ maximum-active-sessions $\leq$ maximum-sessions の整数値。

ほかのタグとの依存関係

DD の<maximum-sessions>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <inactivity-timeout>

説明

再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間（分）を指定します。

指定可能値

0 （無制限）または $1 \leq$ inactivity-timeout ≤ 2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <removal-timeout>

説明

セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間（分）を指定します。

指定可能値

0（無制限）または $1 \leq \text{removal-timeout} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <enable-scheduling>

説明

該当する Bean をスケジューラの Gate として使用するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
使用する。
- false
使用しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <pass-by-reference>

説明

pass-by-reference で EJB を呼び出すかどうかを指定します。

指定可能値

- true
EJB を呼び出す。

- false

EJB を呼び出さない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <scheduling>

説明

CTM 連携関連の情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<session-type>タグ，<scheduling-unit>タグ，および<enable-scheduling>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <queue-name>

説明

スケジューリングを実行するキュー名を指定します。

指定可能値

英数字，アンダースコア「_」を使用できます。

指定できる文字数は 1～63 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <parallel-count>

説明

CTM スケジューラがアプリケーションを呼ぶために用意するスレッド数を指定します。

指定可能値

1～127 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <queue-length>

説明

キューの長さを指定します。

指定可能値

1～32767 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <front-ejb>

説明

フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB である。
- false
フロント EJB でない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(39) <ejb-method-observation-timeout>

説明

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値（<description>タグを除く）が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE42377-W）が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(40) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(44) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

空白区切り文字，行区切り文字，および段落区切り文字以外を指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(45) <method-observation-timeout>

説明

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(46) <ejb-transaction-timeout>

説明

EJB（CMT）のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。

<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE42377-W）が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(48) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(49) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(50) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(51) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(52) <transaction-timeout>

説明

トランザクションタイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.4 Entity Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Entity Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <entity>

説明

Entity Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Entity Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Entity Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <resource-ref>

説明

EntityBean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。

クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前

<リソースアダプタの表示名>

- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
<リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Entity Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

resource-env-ref の名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。

このタグは DD の<resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス { } (), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <lookup-name>

説明

クライアントから EJB をルックアップする時に使う名前を指定します。HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。

このタグを省略した場合、デフォルト値としてリソース名が使用されますが、デフォルト値に含まれる英数字とアンダースコア (_) 以外の文字はすべてアンダースコアに変換されます。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), ダブルクォーテーション ("), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <optional-name>

説明

リモートインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次の名前は指定できません。

- 予約語の HITACHI_EJB (大文字・小文字を区別します) で始まる名前
- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <local-optional-name>

説明

ローカルインタフェースの別名を指定します。

指定可能値

指定できる文字に制限はありません。

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <maximum-instances>

説明

Enterprise Bean インスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

0（無制限）または $1 \leq \text{maximum-instances} \leq 2147483647$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(22) <pooled-instance>

説明

インスタンスプールのプロパティを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

指定可能値

0（無制限）または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ 。

ほかのタグとの依存関係

DD の<maximum>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <maximum>

説明

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

maximum-instances が 0（無制限）の場合

$0 \text{（無制限）} \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ の整数値。

maximum-instances が 0（無制限）以外の場合

$1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-instances}$ の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<maximum-instances> タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <caching-model>

説明

キャッシングモデルを指定します。

指定可能値

- full-caching
メソッド起動間のすべての状態情報をキャッシュします。
- caching
メソッド起動間で最も頻繁に使用された状態情報をキャッシュします。
- no-caching
状態情報をキャッシュしません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <entity-timeout>

説明

EJB オブジェクトの存在時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <pass-by-reference>

説明

pass-by-reference での EJB 呼び出しをするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
EJB 呼び出しをする。
- false
EJB 呼び出しをしない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(28) <instance-timeout>

説明

インスタンス取得タイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <front-ejb>

説明

フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB の場合。
- false
フロント EJB でない場合。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <cmp-map>

説明

Entity Bean のフィールドをデータベース上にマッピングします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <datasource-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先として開始されたリソースアダプタの表示名を指定します。

- Connector 1.0 以前
＜リソースアダプタの表示名＞
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
＜リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子>

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(32) <catalog-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのカatalog名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <schema-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのスキーマ名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <table-name>

説明

Enterprise Bean フィールドのマッピング先としてデータベースのテーブル名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(35) <read-only-access>

説明

アプリケーションからデータベースへの書き込みを禁止するかどうかを指定します。ただし、アプリケーションサーバでは指定しても無効になります。

指定可能値

- true
書き込みを禁止する。
- false
書き込みを許可する。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(36) <transaction-isolation>

説明

トランザクション遮断レベルを指定します。

省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます（使用するデータベースおよびJDBCドライバによって異なります）。

指定可能値

- none
トランザクションがサポートされていません。
- read_committed
ダーティ読み取りが抑制されます。
- read_uncommitted
ダーティ読み取り，繰り返し不可の読み取り，およびファントム読み取りが起きます。
- repeatable_read
ダーティ読み取りおよび繰り返し不可の読み取りが抑制されます。
- serializable
ダーティ読み取り，繰り返し不可の読み取り，およびファントム読み取りが抑制されます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <concurrency-protection>

説明

データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法を指定します。

指定可能値

- primary-key
プライマリキーと照合することによってデータを更新します。
- modified-data

プライマリキーと照合して変更対象のデータの値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。

- whole-row

プライマリキーと照合して変更対象の値を含む行内のすべての値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <field-impl>

説明

Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(39) <field-name>

説明

Entity Bean のフィールド名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(40) <column-name>

説明

テーブルのカラム名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <finder-impl>

説明

ejbFindByPrimaryKey 以外の Finder メソッドの検索条件を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <method-name>

説明

Finder メソッドのメソッド名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <where-clause>

説明

テーブルの検索条件を指定します。

検索条件に指定可能な演算子を次に示します。

なお、山括弧<>は、XML の構文上値には指定できません。テキストエディタで属性ファイルを編集する場合は、表内の丸括弧()のようにエンティティを使用してください。

演算子	説明	備考
IS NULL	NULL である	—
IS NOT NULL	NULL でない	—
=	等しい	Finder メソッドのパラメタが 1 個以上のとき使用可
!=	等しくない	
< (<)	～より小さい	
> (>)	～より大きい	
<= (<=)	～以下	
>= (>=)	～以上	
LIKE	検索パターンに一致する	
NOT LIKE	検索パターンに一致しない	Finder メソッドのパラメタが 2 個以上のとき使用可
BETWEEN	範囲に含まれる	
NOT BETWEEN	範囲に含まれない	

- (凡例) —：該当なし。
- 検索条件の構文を次に示します。
- IS NULL, IS NOT NULL 演算子を使用する場合
フィールド名 演算子
 - BETWEEN, NOT BETWEEN 演算子を使用する場合
フィールド名 演算子 ?番号 AND ?番号
 - そのほかの演算子を使用する場合
フィールド名 演算子 ?番号
- 検索条件に関する規則を次に示します。

- 検索条件は、AND または OR で接続できます。
- 検索条件、AND、OR、フィールド名は大文字小文字を区別します。
- ?番号には、Finder メソッドの引数の場所（左から 1,2,...）を指定します。
例 id <= ?1 AND value IS NOT NULL OR name BETWEEN ?3 AND ?4
- 検索条件、AND、OR、フィールド名、?番号の間は 1 文字以上の空白を入れてください。
- 空文字列の場合は、テーブルのすべての行が検索パターンに一致するものと見なします。
- DISABLE が指定されている場合はアプリケーションからこのメソッドを使用できません。

指定可能値

指定できる値はシャープ「#」以外です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(44) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(45) <ejb-method-observation-timeout>

説明

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W)

が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(46) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(47) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(48) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(49) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(50) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(51) <method-observation-timeout>

説明

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(52) <ejb-transaction-timeout>

説明

EJB（CMT）のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。

<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE42377-W）が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(53) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(54) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

指定可能値

- Home
- Remote
- LocalHome
- Local

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(55) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(56) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(57) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(58) <transaction-timeout>

説明

トランザクションタイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.5 Message-driven Bean 属性の詳細

cosminexus.xml の Message-driven Bean 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル（cosminexus.xml）の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <message>

説明

Message-driven Bean について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <ejb-name>

説明

ejb の名称を指定します。

なお、このキーは Message-driven Bean を特定するためのキーとなります。

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-identity>

説明

Message-driven Bean のセキュリティアイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <message-ref>

説明

リソースアダプタを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <connection-factory>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <connection-destination>

説明

リソースアダプタについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <resource-ref>

説明

Message-driven Bean から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名、メール表示名を指定します。

クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。

- Connector 1.0 以前
＜リソースアダプタの表示名＞
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
＜リソースアダプタ表示名＞!＜コネクション定義識別子＞

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(14) <resource-env-ref>

説明

Message-driven Bean から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resource-env-ref-name>

説明

resource-env-ref の名称を定義します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。DD の<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(18) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(19) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(21) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(23) <pooled-instance>

説明

プール内のインスタンスを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <minimum>

説明

プール内のインスタンスの最小数を指定します。

ただし、プーリングの動作は最大数を指定することでカスタマイズできるため、このタグの設定値は無視されます。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(25) <maximum>

説明

プール内のインスタンスの最大数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

0 が指定された場合は 1 とみなされます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(26) <front-ejb>

説明

フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。

指定可能値

- true
フロント EJB である。
- false
フロント EJB でない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <start-order>

説明

J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。

開始時は昇順で開始処理が実行され、終了時は降順に停止処理が実行されます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(28) <ejb-method-observation-timeout>

説明

EJB メソッドに J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間を設定する場合に指定します。<ejb-method-observation-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-method-observation-timeout>タグの<method-observation-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(30) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(31) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合はすべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(32) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(33) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(34) <method-observation-timeout>

説明

J2EE アプリケーションの実行時間の監視機能のメソッドタイムアウト時間（秒）を指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(35) <ejb-transaction-timeout>

説明

EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。

<ejb-transaction-timeout>タグの指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>タグの<transaction-timeout>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <method>

説明

メソッドについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(37) <method-intf>

説明

メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。

Message-driven Bean 属性の設定では、このタグに値を指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(38) <method-name>

説明

対象となるメソッド名を指定します。

アスタリスク「*」を指定した場合、すべてのメソッドを意味します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

<method-params>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <method-params>

説明

メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(40) <method-param>

説明

引数のデータ型を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <transaction-timeout>

説明

トランザクションタイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.6 War 属性の詳細

cosminexus.xml の War 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「2.1 アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <war>

説明

WAR について定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>

説明

WAR を特定するためのキーとなります。ただし、WAR アプリケーションの場合、cosminexus.xml に対し War 属性の設定は必ず一つになるため、このタグの指定は不要です。指定しても無視されます。次の条件に従い設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通
application.xml の<application>-<module>-<web>-<web-uri>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))
J2EE アプリケーション中の WAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。
- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))
WAR ディレクトリの、アプリケーションディレクトリからの相対パスの末尾の"_war"を".war"に置き換えた値を指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字にはスラント「/」を使用します。
- パスの文字列の先頭にスラント「/」は指定できません。
- パスの文字列中に、"./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <security-role>

説明

セキュリティロールを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <role-name>

説明

セキュリティロール名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <linked-to>

説明

アクセスコントロールリスト（cjaddsec コマンドで定義したロール名）を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(6) <resource-ref>

説明

Servlet から参照するリソースを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(7) <res-ref-name>

説明

リソース参照の名称を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <linked-to>

説明

対応するリソースアダプタ表示名，メール表示名を指定します。

- Connector 1.0 以前
＜リソースアダプタの表示名＞
- Connector 1.5 以降のアウトバウンドリソースアダプタ
＜リソースアダプタ表示名＞!＜コネクション定義識別子＞

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <resource-env-ref>

説明

Servlet から参照するリソース環境変数を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(10) <resource-env-ref-name>

説明

リソース環境変数参照の名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <linked-queue>

説明

キュー名称を指定します。DD の要素<resource-env-ref-type>タグに「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <resource-adapter>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <queue>

説明

キュー名称を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(14) <linked-adminobject>

説明

管理対象オブジェクトを指定します。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <resourceadapter-name>

説明

リソースアダプタの表示名を指定します。

Connector 1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <linked-to>

説明

JavaBeans リソースの表示名を指定します。

DD の要素<resource-env-ref-type>タグに「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効です。

なお、<linked-to>タグ、<linked-queue>タグ、<linked-adminobject>タグのうちどれか一つを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

DD<resource-env-ref-type>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <thread-control>

説明

Web アプリケーションのスレッド制御を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(19) <thread-control-max-threads>

説明

Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数を指定します。

占有スレッド数以上の値を指定します。

指定可能値

1～1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(20) <thread-control-exclusive-threads>

説明

占有スレッド数を指定します。

Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下を指定します。

指定可能値

0～1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ、および<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(21) <thread-control-queue-size>

説明

Web アプリケーション単位の実行待ち行列数を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <thread-control-stats-monitor>

説明

稼働統計の監視の設定をします。このタグ、<enabled>タグ、<high-threshold>タグ、または<low-threshold>タグを省略した場合、デフォルト値が有効になるため、しきい値イベントは有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <whole-waiting-request-count>

説明

Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(24) <enabled>

説明

Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(25) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限のしきい値（単位：％）を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：％）を指定します。

指定可能値

0～99 の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(27) <waiting-request-count>

説明

Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(28) <enabled>

説明

Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限のしきい値（単位：％）を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。ただし、<low-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(30) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：％）を指定します。

指定可能値

0～99 の整数値。ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>タグ

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(31) <resource-watcher>

説明

Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティを設定します。
このタグか、<watcher-threshold>、<watcher-interval>、<watcher-enabled>、または
<watcher-writefile-enabled>を省略した場合、デフォルト値が有効になり、監視イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <watcher-threshold>

説明

アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(33) <watcher-interval>

説明

監視間隔を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(34) <watcher-enabled>

説明

Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <watcher-writefile-enabled>

説明

リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(36) <urlgroup-thread-control>

説明

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(37) <urlgroup-thread-control-name>

説明

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名を指定します。

URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名は Web アプリケーション内で、一意な名称を指定します。

指定可能値

英数字、ハイフン「-」、アンダースコア「_」を使用できます。

文字の長さは $1 \leq \text{文字列長} \leq 64$ で指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(38) <urlgroup-thread-control-max-threads>

説明

URL グループ単位の最大同時実行スレッド数を整数値で指定します。

指定可能値

1 ~ thread-control-max-threads の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ、および<urlgroup-thread-control-exclusive-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <urlgroup-thread-control-exclusive-threads>

説明

URL グループ単位の占有スレッド数を指定します。

指定可能値

0 ~ urlgroup-thread-control-max-threads かつ thread-control-exclusive-threads 以下の整数値。

ほかのタグとの依存関係

<thread-control-max-threads>タグ、<thread-control-exclusive-threads>タグ、および<urlgroup-thread-control-max-threads>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(40) <urlgroup-thread-control-queue-size>

説明

URL グループ単位の実行待ちキューのサイズを指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(41) <urlgroup-thread-control-mapping>

説明

制御対象となる URL のマッピング情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(42) <url-pattern>

説明

制御対象となる URL パターンを指定します。

一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。

指定例を次に示します。

```
/soda/grape/*  
/foo/*  
/contents  
*.foo
```

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <stats-monitor>

説明

稼働統計の監視の設定をします。

このタグか、<enabled>、<high-threshold>、または<low-threshold>を省略した場合、デフォルト値が有効になり、しきい値イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(44) <waiting-request-count>

説明

URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(45) <enabled>

説明

URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(46) <high-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する上限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。
low-threshold 以上でなければなりません。

ほかのタグとの依存関係

<low-threshold>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <low-threshold>

説明

しきい値イベントを出力する下限しきい値（単位：%）を指定します。

指定可能値

0～99 の整数値。

high-threshold 以下でなければなりません。

ほかのタグとの依存関係

<high-threshold>と依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(48) <http-request>

説明

HTTP リクエストに関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(49) <encoding>

説明

リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。

ただし、Servlet 仕様に準拠した設定（ServletAPI および web.xml）がある場合、無効となります。

JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(50) <http-response>

説明

HTTP レスポンスに関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(51) <encoding>

説明

レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。

ただし、Servlet 仕様に準拠した設定（ServletAPI および web.xml）がある場合、無効となります。

JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(52) <jsp>

説明

JSP に関する各種設定をします。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(53) <page-encoding>

説明

JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。

ただし、Servlet 仕様に準拠した設定（ServletAPI および web.xml）がある場合、無効となります。

JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(54) <http-session>

説明

Web アプリケーション単位の HttpSession 数の監視に関する情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(55) <http-session-max-number>

説明

使用可能な HttpSession の最大数を指定します。

-1 を指定した場合は無制限となります。

指定可能値

-1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(56) <resource-watcher>

説明

HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定します。

このタグか、<watcher-threshold>、<watcher-interval>、<watcher-enabled>、または<watcher-writefile-enabled>を省略した場合、デフォルト値が有効になり、監視イベントが有効になります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(57) <watcher-threshold>

説明

アラートメッセージを出力するしきい値を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(58) <watcher-interval>

説明

監視間隔を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(59) <watcher-enabled>

説明

HttpSession 数の監視を有効にするかどうかを指定します。

ただし、<http-session-max-number>に 0 を指定した場合、この指定に関係なく監視は無効となります。

指定可能値

- true
有効にする。
- false

無効にする。

ほかのタグとの依存関係

<http-session-max-number> タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(60) <watcher-writefile-enabled>

説明

リソース使用状況をファイルに出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(61) <dbsf>

説明

データベースセッションフェイルオーバー機能を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(62) <enabled>

説明

データベースセッションフェイルオーバー機能を有効にするかどうかを設定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(63) <application-id>

説明

アプリケーション識別子を設定します。

指定可能値

英数字、およびアンダースコア「_」を使用できます。
最大 16 文字まで指定できます。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(64) <attribute-data-size-max>

説明

グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。

指定可能値

128～10485760 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(65) <exclude-extensions>

説明

データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定します。

URL のパスが指定した拡張子と同じ場合に、該当するリクエストでデータベースセッションフェイルオーバ機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字、小文字の区別はしません。データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定しない場合は空文字列を設定します。

指定可能値

次に示す文字を 512 文字以内で指定します。

- 英数字
- 括弧「()」
- エクスクラメーション「!」
- パーセント「%」
- ドル「\$」
- アンパサンド「&」
- シングルクオート「'」
- プラス「+」
- ハイフン「-」
- イコール「=」
- 単価記号「@」
- アンダースコア「_」
- チルダ「~」
- ピリオド「.」
- コンマ「,」

なお、複数の拡張子を指定する場合、コンマ「,」で区切って指定します。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(66) <start-notify-error>

説明

J2EE アプリケーションの開始時にスタートアップ時のロードが指定されている Servlet/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。

新規に作成した J2EE アプリケーションの初期表示値は、true となります。

指定可能値

- true
エラーを通知する。
- false
エラーを通知しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(67) <start-order>

説明

J2EE アプリケーションの開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(68) <session-config>

説明

Web アプリケーションのセッションパラメタを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(69) <cookie-config>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie を指定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(70) <name>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie の名称, および URL のパスパラメタ名を指定します。

指定可能値

英数字 (0～9, A～Z, a～z) および次の特殊文字を使用できます。

エクスクラメーションマーク (!), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ストローク (|), チルダ (~)

ただし, 名前の先頭にドル記号 (\$) を指定できません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(71) <http-only>

説明

Web アプリケーションで作成される HTTP セッションのセッション ID を示す HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けるかどうかを指定します。

指定可能値

- true
HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付ける。
- false
HTTP Cookie に HttpOnly 属性を付けない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(72) <tracking-mode>

説明

トラッキングモードを指定します。

指定可能値

- COOKIE

- URL

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。このタグを省略した場合、COOKIE と URL が指定された場合と同様に動作します。

値の省略

省略できません。

2.2.7 Filter 属性の詳細

cosminexus.xml の Filter 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <filter>

説明

Filter について定義します。

なお、web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <filter-name>

説明

Filter を特定するためのキーとなります。

web.xml の<web-app>-<filter>-<filter-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <method-observation-timeout>

説明

リクエストの延長で呼び出されるフィルタの doFilter メソッドの監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

2.2.8 Servlet 属性の詳細

cosminexus.xml の Servlet 属性の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <servlet>

説明

Servlet について定義します。

なお、web.xml を含まない場合、このタグは指定できません。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <servlet-name>

説明

Servlet を特定するためのキーとなります。

web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>の設定値を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <run-as>

説明

実行時アイデンティティを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <user-name>

説明

ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は無制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <method-observation-timeout>

説明

リクエストの延長で呼び出されるサーブレットの service メソッド/JSP の_jspService メソッドの監視用タイムアウト時間（秒）を指定します。

0 を指定した場合、タイムアウトしません。

指定可能値

0～86400 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

2.2.9 Connector 属性の詳細

cosminexus.xml の Connector 属性の詳細について、タグごとに説明します。<property-value>タグおよび<property-name>タグで指定する値は、設定できる範囲ごとに記載しています。

なお、ここでは、「[2.1 アプリケーション属性ファイル \(cosminexus.xml\) の指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <rar>

説明

rar に関する情報を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <module-name>

説明

リソースアダプタを特定するためのキーとなります。

次の条件に従って、設定値を指定します。

application.xml を含むアプリケーションの場合

- アーカイブ形式・展開ディレクトリ形式共通

application.xml の<application>-<module>-<connector>に指定した文字列を指定します。

application.xml を含まないアプリケーションの場合

- アーカイブ形式 (cjimportapp コマンド (-f/-d))

J2EE アプリケーション中の RAR ファイルの場所を EAR のルートからの相対パスで指定します。

- 展開ディレクトリ形式 (cjimportapp コマンド (-a))

アプリケーションディレクトリ中の RAR ファイルの場所をアプリケーションディレクトリからの相対パスで指定します。

相対パスで指定する場合の注意事項

- パスの区切り文字にはスラント「/」を使用します。
- パスの文字列の先頭にスラント「/」は指定できません。
- パスの文字列中に, "./", "../"および"/"は指定できません。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <resourceadapter>

説明

リソースアダプタについての情報を定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(4) <outbound-resourceadapter>

説明

アウトバウンド方向へのリソースアダプタを定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <connection-definition>

説明

コネクションインタフェース・クラスを定義します。

補足

下位タグの<connector-property>タグについて

<property-value>タグは<property-name>タグごとに設定値の範囲が異なるため、それぞれのプロパティごとに記載しています。

<property>タグの指定が複数あり、<property-name>タグの設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE42377-W) が出力され、先に定義された<property>タグの<property-value>タグの値が有効となります。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <connectionfactory-interface>

説明

リソースによってサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名を指定します。
Connector 1.5 以降のリソースアダプタの場合、このタグの値がコネクション定義識別子となります。
パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <property-name>

説明

MaxPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MaxPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <property-value>

説明

プロパティ値として、プールの最大値を指定します。

指定可能値

-1（無制限）または 0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(11) <property-name>

説明

MinPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MinPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(12) <property-value>

説明

プロパティ値として、プールの最小値を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <property-name>

説明

LogEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- LogEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(15) <property-value>

説明

プロパティ値として、LogWriter によるログ出力の可否を指定します。

指定可能値

- true
ログを出力する。
- false
ログを出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(17) <property-name>

説明

User プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- User

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(18) <property-value>

説明

プロパティ値として、ユーザ名を指定します。

指定可能値

入力は制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(19) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <property-name>

説明

Password プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Password

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(21) <property-value>

説明

プロパティ値として、パスワードを指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(22) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <property-name>

説明

ValidationType プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ValidationType

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(24) <property-value>

説明

コネクションチェック契機のプロパティ値を指定します

指定可能値

- 0：コネクションチェック機能オフ
- 1：コネクション取得時にチェック
- 2：一定間隔でチェック

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(25) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(26) <property-name>

説明

ValidationInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ValidationInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(27) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションチェック間隔（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(28) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(29) <property-name>

説明

RetryCount プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RetryCount

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(30) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション取得リトライ回数を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(31) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(32) <property-name>

説明

RetryInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RetryInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(33) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション取得リトライ間隔（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(34) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(35) <property-name>

説明

ConnectionTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ConnectionTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(36) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション解放までのタイムアウト値（秒）を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(37) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(38) <property-name>

説明

ConnectionPoolAdjustmentInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- ConnectionPoolAdjustmentInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(39) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション数のソフトランディング動作調節間隔（秒）を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(40) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(41) <property-name>

説明

SweeperInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- SweeperInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(42) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションスリーパ動作時間間隔（秒）を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(43) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(44) <property-name>

説明

RequestQueueEnable プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RequestQueueEnable

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(45) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列の可否を指定します。

指定可能値

- true
コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を有効にする。
- false
コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(46) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(47) <property-name>

説明

RequestQueueTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- RequestQueueTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(48) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる最大値（秒）を指定します。

指定可能値

0～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(49) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(50) <property-name>

説明

WatchEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(51) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(52) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(53) <property-name>

説明

WatchInterval プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchInterval

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(54) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視間隔（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(55) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(56) <property-name>

説明

WatchThreshold プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchThreshold

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(57) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール使用状態を監視するしきい値（%）を指定します。

指定可能値

1～100 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(58) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(59) <property-name>

説明

WatchWriteFileEnabled プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- WatchWriteFileEnabled

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(60) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。

指定可能値

- true
出力する。
- false
出力しない。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(61) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(62) <property-name>

説明

Warmup プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Warmup

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(63) <property-value>

説明

プロパティ値として、コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(64) <connector-property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(65) <property-name>

説明

NetworkFailureTimeout プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- NetworkFailureTimeout

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(66) <property-value>

説明

プロパティ値として、ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にするかどうかを指定します。

指定可能値

- true
有効にする。
- false
無効にする。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(67) <resource-external-property>

説明

リソースについて定義します。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(68) <optional-name>

説明

リソースの別名を指定します。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (|), チルダ (~)

指定できる文字数は 1~255 文字です。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(69) <res-auth>

説明

リソースを使用するための認証元を, アプリケーション上で行うか, コンテナに任せるかを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
- Container

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(70) <res-sharing-scope>

説明

リソース接続を共有できるようにするかどうかを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Shareable
- Unshareable

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(71) <adminobject>

説明

リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトを定義します。

DD の<adminobject>と同じ数分、同じ順番で設定する必要があります（設定しない場合、空タグ<adminobject/>を指定します）。

すべての<adminobject>に<adminobject-name>を設定する必要がなければ省略できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

DD の<adminobject>タグと依存関係があります。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(72) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名を指定します。リソースアダプタ内でユニークでなければなりません。

指定可能値

英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし, 次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できます。

(73) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお, このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(74) <property-name>

説明

MaxThreadPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MaxThreadPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(75) <property-value>

説明

プロパティ値として、スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(76) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお、このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(77) <property-name>

説明

MinTPoolSize プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- MinTPoolSize

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(78) <property-value>

説明

プロパティ値として、スレッドプールに存在する最小スレッド数を指定します。

指定可能値

0～1024 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(79) <resourceadapter-property>

説明

Connector 1.5 仕様に対応するリソースアダプタを定義します。

なお、このタグより下位のタグは Connector 1.5 以降のリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

なし。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(80) <property-name>

説明

TPoolKeepalive プロパティを指定します。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- TPoolKeepalive

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(81) <property-value>

説明

プロパティ値として、スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値（秒）を指定します。

指定可能値

1～2147483647 の整数値。

ほかのタグとの依存関係

なし。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

3

J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル

この章では、J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイルについて説明します。

3.1 アプリケーション統合属性ファイル

アプリケーション統合属性ファイルは、アプリケーション、EJB-JAR、Session Bean、Entity Bean、Message-driven Bean、WAR、フィルタ、サーブレット/JSP およびリソースアダプタの属性を一括して取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.1.1 アプリケーション統合属性ファイルの指定内容

アプリケーション統合属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-application-all-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Application All Property 9.0//EN' 'file:///Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-application-all-property_9_0.dtd'>
```

アプリケーション統合属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-application-all-property>	1 回	ルートタグ。
└ <hitachi-application-property> 	0 または 1 回※1	アプリケーションの属性。 詳細については、「 3.2 アプリケーション属性ファイル 」を参照してください。※2
└ <ejb-jar> 	0 回以上※1	EJB に関する情報。 ルートアプリケーションに含まれる EJB-JAR の数だけ出力されます。
└ <hitachi-ejb-jar-property> 	1 回	EJB-JAR の属性。 詳細については、「 3.3 EJB-JAR 属性ファイル 」を参照してください。※2, ※3
└ <hitachi-session-bean-property> 	0 回以上※1	Session Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Session Bean の数だけ出力されます。 詳細については、「 3.4 Session Bean 属性ファイル 」を参照してください。※2, ※3
└ <hitachi-entity-bean-property> 	0 回以上※1	Entity Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Entity Bean の数だけ出力されます。 詳細については、「 3.5 Entity Bean 属性ファイル 」を参照してください。※2, ※3
└ <hitachi-message-bean-property> 	0 回以上※1	Message-driven Bean の属性。 EJB-JAR に含まれる Message-driven Bean の数だけ出力されます。

タグ名			出現パターン	説明
				詳細については、「 3.6 MessageDrivenBean 属性ファイル 」を参照してください。*2, *3
		<war>	0 回以上*1	WAR に関する情報。 ルートアプリケーションに含まれる WAR の数だけ出力されます。
		<hitachi-war-property>	1 回	WAR の属性。 詳細については、「 3.7 WAR 属性ファイル 」を参照してください。*2, *3
		<hitachi-filter-property>	0 回以上*1	フィルタの属性。 WAR に含まれるフィルタの数だけ出力されます。 詳細については、「 3.8 フィルタ属性ファイル 」を参照してください。*2, *3
		<hitachi-servlet-property>*4	0 回以上*1	サーブレット/JSP の属性。 WAR に含まれるサーブレット/JSP の数だけ出力されます。 詳細については、「 3.9 サーブレット属性ファイル 」を参照してください。*2, *3
		<rar>	0 回以上*1	RAR に関する情報。 ルートアプリケーションに含まれる RAR の数だけ出力されます。
		<hitachi-connector-property>	1 回	Connector の属性。 RAR に含まれる Connector の数だけ出力されます。 詳細については、「 4.1 Connector 属性ファイル 」を参照してください。*2, *3
—	—	—	—	—

注※1

タグの単位で省略できます。この場合、指定していない項目の属性は変更されません。

注※2

各属性ファイルの内容と、一部タグ名やタグの出力順序が異なっている部分があります。タグ名の違いについては、次の表を参照してください。

表 3-1 統合属性ファイルで出力されるタグ名

属性ファイル名	タグ名	統合属性ファイルのタグ名
Session Bean 属性ファイル	<runtime>	<session-runtime>
Entity Bean 属性ファイル	<runtime>	<entity-runtime>
MessageDrivenBean 属性ファイル	<runtime>	<message-runtime>
	<security-identity>	<message-security-identity>

属性ファイル名	タグ名	統合属性ファイルのタグ名
WAR 属性ファイル	<runtime>	<war-runtime>

注※3

display-name は、変更できません。

注※4

アプリケーション統合属性ファイルを cjsetappprop コマンドで設定すると、サーブレット単位（<hitachi-servlet-property> タグ単位）に設定値の反映処理を実施します。ただし、<hitachi-servlet-property> –<url-pattern> タグについては、すべてのサーブレットで重複がないかどうかのチェックを実施しています。

3.2 アプリケーション属性ファイル

アプリケーション属性ファイルは、アプリケーションの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.2.1 アプリケーション属性ファイルの指定内容

アプリケーション属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-application-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Application Property 8.0//EN' 'file:///C:/admin/dtds/hitachi-application-property_8_0.dtd'>
```

アプリケーション属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-application-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description> └	0 または 1 回	アプリケーションの説明。
└ <icon> └	0 または 1 回	Deploy ツール上に表示される J2EE アプリケーションのアイコンの定義を行います。
└ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
└ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
└ <lookup-name> └ └ └ └ └ └	1 回	クライアントから EJB をルックアップするときに使う名前を 255 文字以下で指定します。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<アプリケーションのルックアップ名>に相当します。このタグは参照専用です。ルックアップ名はアプリケーション名を基に自動的に作られます。※1
└ <library-directory> └ └ └	0 または 1 回	ライブラリ JAR を格納するディレクトリ名を表示します。DD (application.xml) にタグが指定されていないまたは、J2EE アプリケーションに DD (application.xml) が含まれていない場合は、"lib"が表示されます。空タグの場合、J2EE アプリケーションのルート直下を示します。※1
└ <security-prop>	1 回	Enterprise Bean のセキュリティの管理方法。
└ └ <security-method> └ └ └ └ └ └	1 回	セキュリティの管理方法。 次のどれかを指定します。

タグ名		出現パターン	説明
 			disable_methods_without_roles セキュリティロールを割り当てていないメソッドは実行できません。 map_methods_without_roles セキュリティロールを割り当てていないメソッドには、default-security-role で指定したデフォルトセキュリティロールが割り当てられます。 no_security_for_methods_without_roles - セキュリティロールが割り当てられていないメソッドはどのユーザでも実行できます。 - セキュリティロールが割り当てられているメソッドはセキュリティロールによって実行が制限されます。 no_security_for_all_methods セキュリティロールが割り当てられているメソッドも割り当てられていないメソッドもすべてどのユーザでも実行できます。
 	<default-security-role>	0 または 1 回	security-method に map_methods_without_roles を指定した場合のデフォルトセキュリティロール。 map_methods_without_roles 以外を指定している場合は省略できます（設定されていても cjsetappprop で無視されます）。
ト 	<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
ト 	<scheduling-unit> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	0 または 1 回	キューの配置モデルの指定。 次のどちらかを指定します。 Application キューをアプリケーションごとに配置します。 デフォルトは、Application です。 Bean キューを Bean ごとに配置します。
ト 	<scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM との連携についての定義。 なお、このタグは構成ソフトウェアに Component Transaction Monitor を含む製品だけに有効です。それ以外の場合に指定するとエラーになります。利用できる製品については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の「2.2.1 製品と構成ソフトウェアの対応」を参照してください。
 	ト <queue-name> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	1 回	スケジューリングをするキューの名称を、63 文字までの英数字 (0~9, A~Z, a~z) およびアンダースコア () で指定します。 デフォルト値は、アプリケーション名です。※2

タグ名			出現パターン	説明
		<parallel-count> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	1 回	CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数を、1～127 の範囲で指定します。デフォルトは、1 です。 CTM 経由で呼び出される Bean で、Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。
		<queue-length> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	スケジューリングをするキューの長さを、1～32767 の整数値で指定します。 キューを共有する場合、キューを共有するアプリケーション間や Bean 間で設定値が異なるとき、すでに生成されているキューの長さが有効になります。
		<managed-by-ctm> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	1 回	CTM 連携をするかどうかの指定。 次のどちらかを指定します。 true CTM と連携します。 false CTM と連携しません。 デフォルト値は、false です。
		<ref-libraries>	0 または 1 回	参照するライブラリの指定。
		<classpath>	1 回以上	クラスパスの指定。 ref-libraries が指定されていて、このタグが存在しない場合、エラーとなります。 このタグを複数指定した場合、指定した順序でランタイム属性に設定されます。クラスローダに設定されるクラスパスについては、マニュアル「アプリケーションサーバ 機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」の「付録 B.3 クラスローダに設定されるクラスパス」を参照してください。
		<method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回	J2EE アプリケーションの時間監視機能の障害回復モードの指定。 ここでは、thread だけが指定できます。 thread スレッドを停止します。
—	—	—	—	—

注※1

cjgetappprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※2

<scheduling-unit>に Application を設定していて、かつ<queue-name>を省略する場合、application.xml の <appliction><display-name>には<queue-name>で指定可能な範囲の値を定義してください。

3.2.2 DD との対応

アプリケーション属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

アプリケーション属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-application-property>	1 回		<application>	1 回
┌ <description>	0 または 1 回		┌ <description>	0 または 1 回
┌ <icon>	0 回以上		┌ <icon>	0 回以上
┌ ┌ <small-icon>	0 または 1 回※		┌ ┌ <small-icon>	0 または 1 回
┌ ┌ <large-icon>	0 または 1 回※		┌ ┌ <large-icon>	0 または 1 回
┌ ─	─		┌ <display-name>	1 回
┌ <lookup-name>	1 回		┌ ─	─
┌ <library-directory>	0 または 1 回		┌ <library-directory>	0 または 1 回
─ ─ ─	─		─ ─ ─	─

(凡例)

─：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※

<small-icon>と<large-icon>のどちらか一つを指定します。

3.2.3 cosminexus.xml との対応

アプリケーション属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

アプリケーション属性ファイル			cosminexus.xml	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-application-property>	1 回		<cosminexus-app>	1 回
┌ <security-prop>	1 回		┌ <security-prop>	0 または 1 回※
┌ ┌ <security-method>	1 回		┌ ┌ <security-method>	0 回以上
┌ ┌ <default-security-role>	0 または 1 回		┌ ┌ <default-security-role>	0 または 1 回
┌ <start-order>	0 または 1 回		┌ <start-order>	0 または 1 回
┌ <scheduling-unit>	0 または 1 回		┌ <scheduling-unit>	0 または 1 回
┌ <scheduling>	0 または 1 回		┌ <scheduling>	0 または 1 回
┌ ┌ <queue-name>	1 回		┌ ┌ <queue-name>	0 または 1 回※
┌ ┌ <parallel-count>	1 回		┌ ┌ <parallel-count>	0 または 1 回※
┌ ┌ <queue-length>	0 または 1 回		┌ ┌ <queue-length>	0 または 1 回

アプリケーション属性ファイル			cosminexus.xml		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
ト	<managed-by-ctm>	1 回	ト	<managed-by-ctm>	0 または 1 回※
ト	<ref-libraries>	0 または 1 回	ト	<ref-libraries>	0 または 1 回
└	└ <classpath>	1 回以上	└	└ <classpath>	1 回以上
└	<method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回	└	<method-observation-recovery-mode>	0 または 1 回
—	—	—	—	—	—

注※

cosminexus.xml は、カスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.3 EJB-JAR 属性ファイル

EJB-JAR 属性ファイルは、EJB-JAR の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.3.1 EJB-JAR 属性ファイルの指定内容

EJB-JAR 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-ejb-jar-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Ejb Jar Property 9.0//EN' '
file:///C:/Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-ejb-jar-property_9_0.dtd'>
```

EJB-JAR 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、設定先の EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合、EJB-JAR 属性ファイルのタグは変更できません。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

(1) ejb-jar.xml を含む場合

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description>* ¹	0 回以上* ²	EJB-JAR の説明。* ³
└ <display-name>* ¹ 	1 回以上* ²	EJB-JAR の表示名。* ³ 1 ≤ 文字列長 変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)
└ <icon>* ¹ 	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される EJB-JAR のアイコンの定義。* ³
└ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。* ³
└ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。* ³
└ <interceptors>	0 または 1 回	インターセプタの設定。* ⁴
└ <description>* ¹	0 回以上* ²	Interceptors の説明。* ⁴
└ <interceptor>	1 回以上	インターセプタクラスの設定。* ⁴
└ └ <description>* ¹	0 回以上* ²	interceptor-class の説明。* ⁴
└ └ <interceptor-class>	1 回	インターセプタクラスの名称。* ⁴

タグ名				出現パターン	説明
			ト <around-invoke>	0 回以上	インターセプタの aroundinvoke メソッドの定義。 ※4
			ト <class>	0 または 1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <method-name>	1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドの名称。 ※4
			ト <post-construct>	0 回以上	インターセプタの post-construct メソッドの定義。 ※4
			ト <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-construct メソッド名を表示。 ※4
			ト <pre-destroy>	0 回以上	インターセプタの pre-destroy メソッドの定義。※4
			ト <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-destroy メソッド名を表示。 ※4
			ト <post-activate>	0 回以上	インターセプタの post-activate メソッドの定義。 ※4
			ト <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-activate メソッド名を表示。 ※4
			└ <pre-passivate>	0 回以上	インターセプタの pre-passivate メソッドの定義。 ※4
			ト <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-passivate メソッド名を表示。 ※4
ト			<relationships>	0 または 1 回	リレーションシップについての定義。 EJB2.1 以前の場合に設定できます。EJB3.0 以降の場合は設定できません。※3
	ト		<description>※1	0 回以上※2	relationships の説明。※3
		└	<ejb-relation>	1 回以上	二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップについての定義。※3

タグ名				出現パターン	説明
		└	<description>*1	0 回以上*2	ejb-relation の説明。*3
		└	<ejb-relation-name>	0 または 1 回	relationships の名称。*3
		└	<ejb1>	1 回	ejb2 に対する ejb1 の関連情報。*3
		└	<description>*1	0 回以上*2	ejb1 の説明。*3
		└	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回	リレーションシップロール名。*3 二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップ定義中では、それぞれ一意な名称を指定します。別リレーションシップ定義では、同じ名称であっても指定できます。
		└	<multiplicity>	1 回	ejb1 のインスタンスの多重度。*3 指定できる文字列を次に示します。 • One • Many
		└	<cascade-delete>	0 または 1 回	ejb2 の削除時に ejb1 の自動削除をするかどうかの指定。*3 ejb2 の multiplicity が one の場合に有効です。
		└	<ejb-name>	1 回	ejb1 の名称。*3 指定できる文字列は、EJB-JAR 中に存在する CMP2.0 Entity Bean の EJB 名 (<ejb-name> タグの値) です。
		└	<cmr-field-name>	1 回	ejb2 のインスタンスを取得する CMR フィールド。*3 指定できる値は、「No EJB Name」または<ejb name>で指定した EJB が持つ CMR フィールドのどれかです。
		└	<cmr-field-type>	0 または 1 回	CMR フィールド用メソッドの戻り値の型。*3 表示される値は、<cmr-field-name>で指定した access メソッドの戻り値です。 「java.util.Collection」または「java.util.Set」の場合は、そのまま表示します。それ以外の場合は空文字です。
		└	<ejb2>	1 回	ejb1 に対する ejb2 の関連情報。*3
		└	<description>*1	0 回以上*2	ejb2 の説明。*3
		└	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回	リレーションシップロール名。*3 二つの CMP EntityBean 間のリレーションシップ定義中では、それぞれ一意な名称を指定します。別リレーションシップ定義では、同じ名称であっても指定できます。

タグ名				出現パターン	説明
			ト <multiplicity>	1 回	ejb2 のインスタンスの多重度。※3 指定できる文字列を次に示します。 • One • Many
			ト <cascade-delete>	0 または 1 回	ejb1 の削除時に ejb2 の自動削除をするかどうかの指定。※3 ejb1 の multiplicity が one の場合に有効です。
			ト <ejb-name>	1 回	Ejb2 の名称。※3 指定できる文字列は、EJB-JAR 中に存在する CMP2.0 Entity Bean の EJB 名 (<ejb-name> タグの値) です。
			ト <cmr-field-name>	1 回	ejb2 のインスタンスを取得する CMR フィールド。※3 指定できる値は、「No EJB Name」または<ejb name>で指定した EJB が持つ CMR フィールドのどれかです。
			ㇿ <cmr-field-type>	0 または 1 回	CMR フィールド用メソッドの戻り値の型。※3 表示される値は、<cmr-field-name>で指定した access メソッドの戻り値。 「java.util.Collection」または「java.util.Set」の場合は、そのまま表示。それ以外の場合は空文字。
ト			<security-role>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。 EJB2.1 以前の場合に設定できます。EJB3.0 以降の場合は設定できません。※3
	ト		<description>※1	0 回以上※2	security-role の説明。※3
	ト		<role-name>	1 回	ロール名。※3
	ㇿ		<linked-to>	0 または 1 回	cjaddsec コマンドで定義したロール名。 cjsetresprop コマンドでは無視されます。 設定先の EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合でも、変更できます。
ト			<interceptor-binding>※5	0 回以上	クラスレベルインターセプタおよびメソッドレベルインターセプタに関する設定。 cjsetresprop コマンドでは無視されます。 次の場合は、ワーニングメッセージ (KDJE37604-W) が出力され、先に設定された<interceptor-binding>の<interceptor-class>の値が有効になります。 • <ejb-name>にワイルドカードを設定した <interceptor-binding>の指定が複数ある場合。

タグ名			出現パターン	説明
 				• <ejb-name>, <named-method>およびその配下の要素すべてが一致する<interceptor-binding>の指定が複数ある場合。 また、設定先が EJB2.1 以前の場合は、ワーニングメッセージ (KDJE37613-W) が出力され、設定が無視されます。
	ト	<description>※1	0 回以上※2	interceptor-binding の説明。
 	ト 	<ejb-name>	1 回	ワイルドカード (*) または Enterprise Bean の <ejb-name>。デフォルトインターセプタの定義の場合、ワイルドカードを指定します。
 	ト 	<interceptor-class>	0 回以上	インターセプタのクラスの名称。 <interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。
 	ト 	<interceptor-order>	1 回	インターセプタの順序性またはレベルの設定。 <interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。
		└ <interceptor-class>	1 回以上	インターセプタのクラスの名称。
 	ト 	<exclude-default-interceptors>	0 または 1 回	デフォルトインターセプタを除外するかどうかの指定。 表示される文字列を次に示します。 • true (除外する場合) • false (除外しない場合)
 	ト 	<exclude-class-interceptors>	0 または 1 回	クラスインターセプタを除外するかどうかの指定。 表示される文字列を次に示します。 • true (除外する場合) • false (除外しない場合)
	└	<named-method>	0 または 1 回	メソッドの定義。
 	ト 	<method-name>	1 回	EJB のビジネスメソッドの名称。「*」を指定した場合、ワイルドカードとして扱いません。 指定したメソッドが、<ejb-name>に指定した Enterprise Bean がない場合、ワーニングメッセージ (KDJE37612-W) が出力され、指定した値が設定されます。
	└	<method-params>	0 または 1 回	メソッドの引数。
	└	<method-param>	0 回以上	メソッドの引数。
ト 	<application-exception>		0 回以上	アプリケーション例外に関する設定。 cjsetresprop コマンドでは無視されます。

タグ名					出現パターン	説明
						<exception-class>の値が同じ<application-exception>が複数ある場合、ワーニングメッセージ (KDJE37604-W) が出力され、先に設定された値が有効になります。 また、設定先が EJB2.1 以前の場合は、ワーニングメッセージ (KDJE37613-W) が出力され、設定が無視されます。
	└	<exception-class>			1 回	クライアントに通知する例外クラスの名称。
	└	<rollback>			0 または 1 回	指定した例外が発生したとき、クライアントに通知する前にロールバックを行うかどうかの指定。 表示される文字列を次に示します。 • true (ロールバックを行う) • false (ロールバックを行わない)
	└	<inherited>			0 または 1 回	指定したクラスのサブクラスをアプリケーション例外として扱うかどうかの指定。 例外として扱う場合 true、例外として扱わない場合 false。デフォルトは true。
	└	<ejb-client-jar>			0 または 1 回	クライアント JAR ファイルの名称。※3
—	—	—	—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしないでください。

注※4

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしないでください。

注※5

アノテーションの設定値は、属性ファイルで更新できません。属性ファイルで更新できるのは、ejb-jar.xml に定義した情報だけです。

(2) ejb-jar.xml を含まない場合（EJB3.0 以降）

タグ名					出現パターン	説明
<hitachi-ejb-jar-property>					1 回	ルートタグ。
┌	<description>※1				0 回以上※2	EJB-JAR の説明。※3
┌	<display-name>※1				1 回以上※2	EJB-JAR の表示名。※3 1 ≤ 文字列長

タグ名		出現パターン	説明
 			変更する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)
 	<icon>* ¹	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される EJB-JAR のアイコンの定義。* ³
	<small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。* ³
	<large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。* ³
	<interceptors>	0 または 1 回	インターセプタの設定。* ⁴
	<description>* ¹	0 回以上* ²	interceptors の説明。* ⁴
	<interceptor>	1 回以上	インターセプタクラスの設定。* ⁴
	<description>* ¹	0 回以上* ²	interceptor-class の説明。* ⁴
	<interceptor-class>	1 回	インターセプタクラスの名称。* ⁴
 	<around-invoke>	0 回以上	インターセプタの aroundinvoke メソッドの定義。* ⁴
 	<class>	0 または 1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。* ⁴
 	<method-name>	1 回	インターセプタの aroundinvoke メソッドの名称。* ⁴
 	<post-construct>	0 回以上	インターセプタの post-construct メソッドの定義。* ⁴
 	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。* ⁴
 	<lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-construct メソッド名を表示。* ⁴
 	<pre-destroy>	0 回以上	インターセプタの pre-destroy メソッドの定義。* ⁴
 	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。* ⁴
 	<lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-destroy メソッド名を表示。* ⁴
 	<post-activate>	0 回以上	インターセプタの post-activate メソッドの定義。* ⁴

タグ名				出現パターン	説明
			└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの post-activate メソッド名を表示。※4
			└ <pre-passivate>	0 回以上	インターセプタの pre-passivate メソッドの定義。※4
			└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	インターセプタの pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※4
			└ <lifecycle-callback-method>	1 回	インターセプタの pre-passivate メソッド名を表示。※4
			└ <interceptor-binding>	0 回以上	クラスレベルインターセプタおよびメソッドレベルインターセプタに関する設定を表示します。 cjsetresprop では無視されます。※5 <ejb-name>にワイルドカード (*) を設定した <interceptor-binding>の指定が複数ある場合、ワーニングメッセージ (KDJE37604-W) を出力し、先に設定された<interceptor-binding>の <interceptor-class>の値が有効となります。
			└ <description>※1	0 回以上	interceptor-binding の説明を表示します。デフォルトインターセプタに関する定義の場合 interceptor-binding の説明を記述します。
			└ <ejb-name>	1 回	ワイルドカード(*), または Enterprise Bean の <ejb-name>を表示。デフォルトインターセプタに関する定義の場合、ワイルドカード(*)を記述。
			└ <interceptor-class>	0 回以上	インターセプタのクラス名を表示。デフォルトインターセプタに関する定義の場合。インターセプタクラスのクラス名を記述。 <interceptor-order>を指定した場合は不要です。
			└ <interceptor-order>	0 回以上	インターセプタの順序性およびレベルについての設定を表示。 <interceptor-class>を指定した場合は不要です。※4
			└ <interceptor-class>	1 回以上	インターセプタのクラス名を表示。※4
			└ <exclude-default-interceptors>	0 または 1 回	デフォルトインターセプタを除外するかどうかを表示。除外する場合 true, 除外しない場合 false。デフォルトは false。※4
			└ <exclude-class-interceptors>	0 または 1 回	クラスインターセプタを除外するかどうかを表示。除外する場合 true, 除外しない場合 false。デフォルトは false。※4

タグ名					出現パターン	説明
	└	<named-method>			0 または 1 回	メソッドの定義を表示。
		└	<method-name>		1 回	メソッド名を表示。※4
		└	<method-params>		0 または 1 回	メソッドの引数を表示。※4
			└	<method-param>	0 回以上	メソッドの引数を表示。※4
└	<application-exception>				0 回以上	アプリケーション例外に関する設定を表示。※4
	└	<exception-class>			1 回	クライアントに通知する例外クラス名を表示。※4
	└	<rollback>			0 または 1 回	指定した例外が発生したとき、クライアントに通知する前にロールバックを行うかどうかを表示。ロールバックを行う場合 true、ロールバックを行わない場合 false。デフォルトは false。※4
	└	<inherited>			0 または 1 回	指定したクラスのサブクラスをアプリケーション例外として扱うかどうかの指定。 例外として扱う場合 true、例外として扱わない場合 false。デフォルトは true。※4
	└	<ejb-client-jar>			0 または 1 回	クライアント JAR ファイル名を表示。
—	—	—	—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしないでください。

注※4

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしないでください。

注※5

デフォルトインターセプタに関する定義（<ejb-name>タグの指定がワイルドカード（*）の場合）にだけ追加、変更できます。

3.3.2 DD との対応

EJB-JAR 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) EJB2.0 の場合

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
<hitachi-ejb-jar-property>		1 回	<ejb-jar>		1 回
└	<description>	0 または 1 回	└	<description>	0 または 1 回
└	<display-name>	0 または 1 回	└	<display-name>	0 または 1 回
└	<icon>	0 または 1 回		—	—
	└ <small-icon>	0 または 1 回	└	<small-icon>	0 または 1 回
	└ <large-icon>	0 または 1 回	└	<large-icon>	0 または 1 回
	—	—	└	<enterprise-beans>	1 回
	—	—		(省略)	—
└	<relationships>	0 または 1 回	└	<relationships>	0 または 1 回
	└ <description>	0 または 1 回		└ <description>	0 または 1 回
	└ <ejb-relation>	1 回以上		└ <ejb-relation>	1 回以上
	└ <description>	0 または 1 回		└ <description>	0 または 1 回
	└ <ejb-relation-name>	0 または 1 回		└ <ejb-relation-name>	0 または 1 回
	└ <ejb1>	1 回		└ <ejb-relationship-role>	1 回
	└ <description>	0 または 1 回		└ <description>	0 または 1 回
	└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回		└ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回
	└ <multiplicity>	1 回		└ <multiplicity>	1 回
	└ <cascade-delete>	0 または 1 回		└ <cascade-delete>	0 または 1 回
		—		└ <relationship-role-source>	1 回
		—			
	└ <ejb-name>	1 回		└ <description>	0 回以上
	└ <ejb-name>	1 回		└ <ejb-name>	1 回
	—	—		└ <cmr-field>	0 または 1 回

EJB-JAR 属性ファイル						Deployment Descriptor					
タグ名						出現パターン					
				—						ト <description>	0 回以上
			ト	<cmr-field-name>	1 回					ト <cmr-field-name>	1 回
			└	<cmr-field-type>	0 または 1 回					└ <cmr-field-type>	0 または 1 回
		└		<ejb2>	1 回			└		<ejb-relationship-role>	1 回
			ト	<description>	0 または 1 回				ト	<description>	0 または 1 回
			ト	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回				ト	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回
			ト	<multiplicity>	1 回				ト	<multiplicity>	1 回
			ト	<cascade-delete>	0 または 1 回				ト	<cascade-delete>	0 または 1 回
				—	—				ト	<relationship-role-source>	1 回
				—	—				ト	<description>	0 回以上
			ト	<ejb-name>	1 回				└	<ejb-name>	1 回
				—	—				└	<cmr-field>	0 または 1 回
				—	—				ト	<description>	0 回以上
			ト	<cmr-field-name>	1 回				ト	<cmr-field-name>	1 回
			└	<cmr-field-type>	0 または 1 回				└	<cmr-field-type>	0 または 1 回
				—	—				ト	<assembly-descriptor>	0 または 1 回
ト				<security-role>	0 回以上			ト		<security-role>	0 回以上
		ト		<description>	0 回以上				ト	<description>	0 回以上
		ト		<role-name>	1 回				└	<role-name>	1 回
		└		<linked-to>	0 または 1 回					—	—
				—	—				(省略)		—
└				<ejb-client-jar>	0 または 1 回	└				<ejb-client-jar>	0 または 1 回
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

ー：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

(2) EJB2.1 の場合

EJB-JAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
<hitachi-ejb-jar-property>		1 回		<ejb-jar>		1 回	
┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上	
┌	<display-name>	1 回以上		┌	<display-name>	0 回以上	
┌	<icon>	0 回以上		┌	<icon>	0 回以上	
┌	┌ <small-icon>	0 または 1 回		┌	┌ <small-icon>	0 または 1 回	
┌	┌			┌	┌		
┌	┌ <large-icon>	0 または 1 回		┌	┌ <large-icon>	0 または 1 回	
┌	┌			┌	┌		
┌	┌ ─	─		┌	<enterprise-beans>	1 回	
┌	┌ ─	─		┌	(省略)	─	
┌	<relationships>	0 または 1 回		┌	<relationships>	0 または 1 回	
┌	┌			┌	┌		
┌	┌ <description>	0 回以上		┌	┌ <description>	0 回以上	
┌	┌ <ejb-relation>	1 回以上		┌	┌ <ejb-relation>	1 回以上	
┌	┌ ┌ <description>	0 回以上		┌	┌ ┌ <description>	0 回以上	
┌	┌ ┌ <ejb-relation-name>	0 または 1 回		┌	┌ ┌ <ejb-relation-name>	0 または 1 回	
┌	┌ ┌			┌	┌ ┌		
┌	┌ ┌ <ejb1>	1 回		┌	┌ ┌ <ejb-relationship-role>	1 回	
┌	┌ ┌ ┌ <description>	0 回以上		┌	┌ ┌ ┌ <description>	0 回以上	
┌	┌ ┌ ┌ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回		┌	┌ ┌ ┌ <ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回	
┌	┌ ┌ ┌			┌	┌ ┌ ┌		
┌	┌ ┌ ┌ <multiplicity>	1 回		┌	┌ ┌ ┌ <multiplicity>	1 回	
┌	┌ ┌ ┌ <cascade-delete>	0 または 1 回		┌	┌ ┌ ┌ <cascade-delete>	0 または 1 回	
┌	┌ ┌ ┌			┌	┌ ┌ ┌		
┌	┌ ┌ ┌ ─	─		┌	┌ ┌ ┌ ┌ <relationship-role-source>	1 回	
┌	┌ ┌ ┌ ─	─		┌	┌ ┌ ┌ ┌ ┌ <description>	0 回以上	
┌	┌ ┌ ┌ ┌ <ejb-name>	1 回		┌	┌ ┌ ┌ ┌ ┌ <ejb-name>	1 回	

EJB-JAR 属性ファイル						Deployment Descriptor					
タグ名						出現パターン					
				—	—				└	<cmr-field>	0 または 1 回
				—	—						
				—	—				┐	<description>	0 回以上
			┐	<cmr-field-name>	1 回				┐	<cmr-field-name>	1 回
			└	<cmr-field-type>	0 または 1 回				└	<cmr-field-type>	0 または 1 回
				—	—						
			└	<ejb2>	1 回				└	<ejb-relationship-role>	1 回
			┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
			┐	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回				┐	<ejb-relationship-role-name>	0 または 1 回
			┐	<multiplicity>	1 回				┐	<multiplicity>	1 回
			┐	<cascade-delete>	0 または 1 回				┐	<cascade-delete>	0 または 1 回
				—	—				┐	<relationship-role-source>	1 回
				—	—				┐	<description>	0 回以上
			┐	<ejb-name>	1 回				└	<ejb-name>	1 回
				—	—				└	<cmr-field>	0 または 1 回
				—	—				┐	<description>	0 回以上
			┐	<cmr-field-name>	1 回				┐	<cmr-field-name>	1 回
			└	<cmr-field-type>	0 または 1 回				└	<cmr-field-type>	0 または 1 回
				—	—				┐	<assembly-descriptor>	0 または 1 回
			┐	<security-role>	0 回以上				┐	<security-role>	0 回以上
			┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
			┐	<role-name>	1 回				└	<role-name>	1 回
			└	<linked-to>	0 または 1 回				—	—	—
				—	—				—	—	—
			└	<ejb-client-jar>	0 または 1 回				└	<ejb-client-jar>	0 または 1 回
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

－：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

(3) EJB3.0 の場合

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回		<ejb-jar>	1 回
┌ <description>	0 回以上	┌	－	－
┌ <display-name>	1 回以上	┌	<display-name>	－
┌ <icon>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ <small-icon>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ <large-icon>	0 または 1 回	┌	－	－
┌	－	┌	<enterprise-beans>	1 回
┌	－	┌	(省略)	－
┌ <interceptors>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ <description>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ <interceptor>	1 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ <description>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ <interceptor-class>	1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ <around-invoke>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <class>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <method-name>	1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <post-construct>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <pre-destroy>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <post-activate>	0 回以上	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	－	－
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	－	－

EJB-JAR 属性ファイル					Deployment Descriptor						
タグ名					出現パターン	タグ名					出現パターン
		└	<pre-passivate>		0 回以上		—				—
			┐	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回		—				—
			└	<lifecycle-callback-method>	1 回		—				—
	—				—	┐	<assembly-descriptor>				0 または 1 回
┐ <interceptor-binding>					0 回以上		┐	<interceptor-binding>			0 回以上
	┐	<description>			0 回以上			┐	<description>		0 回以上
	┐	<ejb-name>			1 回			┐	<ejb-name>		1 回
	┐	<interceptor-class>※			0 回以上			└	<interceptor-class>※		1 回以上
	┐	<interceptor-order>※			1 回		┐	<interceptor-order>			1 回
		└	<interceptor-class>		1 回以上			└	<interceptor-class>		1 回以上
	┐	<exclude-default-interceptors>			0 または 1 回		┐	<exclude-default-interceptors>			0 または 1 回
	┐	<exclude-class-interceptors>			0 または 1 回		┐	<exclude-class-interceptors>			0 または 1 回
	└	<named-method>			0 または 1 回		└	<named-method>			0 または 1 回
		┐	<method-name>		1 回		┐	<method-name>			1 回
		└	<method-params>		0 または 1 回		└	<method-params>			0 または 1 回
			└	<method-param>	0 回以上			└	<method-param>		0 回以上
┐ <application-exception>					0 回以上	┐ <application-exception>					0 回以上
	┐	<exception-class>			1 回		┐	<exception-class>			1 回
	└	<rollback>			0 または 1 回		└	<rollback>			0 または 1 回
	—				—		(省略)				—
└	<ejb-client-jar>				0 または 1 回	└	<ejb-client-jar>				0 または 1 回
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。

(4) EJB3.1 の場合

EJB-JAR 属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-ejb-jar-property>	1 回		<ejb-jar>	1 回
┌ <description>	0 回以上	┌	—	—
┌ <display-name>	1 回以上	┌	<display-name>	—
┌ <icon>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ <small-icon>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ <large-icon>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ —	—	┌	<enterprise-beans>	1 回
┌ —	—	┌	(省略)	—
┌ <interceptors>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ <description>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ <interceptor>	1 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ <description>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ <interceptor-class>	1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ <around-invoke>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <class>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <method-name>	1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <post-construct>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <pre-destroy>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <post-activate>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <pre-passivate>	0 回以上	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	┌	—	—
┌ ┌ ┌ ┌ <lifecycle-callback-method>	1 回	┌	—	—

EJB-JAR 属性ファイル					Deployment Descriptor						
タグ名					出現パターン	タグ名					出現パターン
┌	—				—	┐	<assembly-descriptor>				0 または 1 回
┐	<interceptor-binding>				0 回以上	┌	┐	<interceptor-binding>			0 回以上
┌	┐	<description>			0 回以上	┌	┌	┐	<description>		0 回以上
┌	┐	<ejb-name>			1 回	┌	┌	┐	<ejb-name>		1 回
┌	┐	<interceptor-class>※			0 回以上	┌	┌	└	<interceptor-class>※		1 回以上
┌	┐	<interceptor-order>※			1 回	┌	┐	<interceptor-order>			1 回
┌	┌	└	<interceptor-class>		1 回以上	┌	┌	└	<interceptor-class>		1 回以上
┌	┐	<exclude-default-interceptors>			0 または 1 回	┌	┐	<exclude-default-interceptors>			0 または 1 回
┌	┐	<exclude-class-interceptors>			0 または 1 回	┌	┐	<exclude-class-interceptors>			0 または 1 回
┌	└	<named-method>			0 または 1 回	┌	└	<named-method>			0 または 1 回
┌		┐	<method-name>		1 回	┌	┐	<method-name>			1 回
┌		└	<method-params>		0 または 1 回	┌	└	<method-params>			0 または 1 回
┌			└	<method-param>	0 回以上	┌		└	<method-param>		0 回以上
┐	<application-exception>				0 回以上	┐	<application-exception>				0 回以上
┌	┐	<exception-class>			1 回	┌	┐	<exception-class>			1 回
┌	┐	<rollback>			0 または 1 回	┌	┐	<rollback>			0 または 1 回
	┌	<inherited>			0 または 1 回		┌	<inherited>			0 または 1 回
	—				—	┌	(省略)				—
	└	<ejb-client-jar>			0 または 1 回		└	<ejb-client-jar>			0 または 1 回
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<interceptor-class>と<interceptor-order>のどちらか一つを指定します。

3.3.3 cosminexus.xml との対応

EJB-JAR 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を示します。

EJB-JAR 属性ファイル			cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン	
	—	—	└	<ejb-jar>	0 回以上	
	—	—	└	<module-name>* ¹	1 回	
└	<security-role>	0 回以上	└	<security-role>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上			—	—
	└ <role-name>	1 回		└ <role-name>	1 回	
	└ <linked-to>	0 または 1 回		└ <linked-to>* ²	1 回	
└	<interceptor-binding>	0 回以上	—		—	
	└ <description>	0 回以上	—		—	
	└ <ejb-name>	1 回	—		—	
	└ <interceptor-class>	0 回以上	—		—	
	(省略)	—	—		—	
—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

application.xml の<application>-<module>-<ejb>に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。EJB-JAR を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml は、カスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.4 Session Bean 属性ファイル

Session Bean 属性ファイルは、Session Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.4.1 Session Bean 属性ファイルの指定内容

Session Bean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-session-bean-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Session Bean Property 9.0//EN' 'file:///<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-session-bean-property_9_0.dtd'>
```

Session Bean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。

なお、設定先の EJB-JAR が DD (ejb-jar.xml) を保持していない場合、Session Bean 属性ファイルのタグは変更できません。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-session-bean-property>	1 回	ルートタグ。
├ <description>*1	0 回以上*2	Session Bean の説明。*4, *8
├ <display-name>*1 │ │ │ │ │ │ │ │	1 回以上*2	Session Bean の表示名。*4 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。 該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合は、取り除かれて設定されます。
├ <icon>*1 │	0 回以上*2	GUI ツール上に表示される Session Bean のアイコンの定義。*4, *8
├ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。*4, *8
├ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。*4, *8
├ <mapped-name> │ │ │ │ │	0 または 1 回	@Stateless, @Stateful, または@Singleton の mappedName 属性に設定されている Enterprise Bean の別名。 <optional-name>タグまたは<local-optional-name>タグで別名が設定されている場合は、<optional-name>

タグ名	出現パターン	説明
 		タグまたは<local-optional-name>タグに設定されている値が優先されます。 <optional-name>タグまたは<local-optional-name>タグに別名が設定されていない場合、デフォルトの別名として使用されます。※3, ※8
└ <business-local>	0 回以上	ローカルビジネスインタフェースを指定。※3, ※4
└ <business-remote>	0 回以上	リモートビジネスインタフェースを指定。※3, ※4, ※8
└ <session-type> 	1 回	Session Bean の種別。※3, ※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Stateful • Stateless • Singleton
└ <around-invoke>	0 回以上	around-invoke メソッドの定義。※3, ※4, ※8
└ <class> 	0 または 1 回	aroundinvoke メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
└ <method-name>	1 回	around-invoke メソッドの名称。※3, ※4, ※8
└ <post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの設定。※3, ※4, ※8
└ <lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
└ <lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
└ <pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの設定。※3, ※4, ※8
└ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	pre-destroy メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4
└ <lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
└ <post-activate> 	0 回以上	post-activate メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
└ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	post-activate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
└ <lifecycle-callback-method>	1 回	post-activate メソッド名を表示。※3, ※4, ※8
└ <pre-passivate> 	0 回以上	pre-passivate メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
└ <lifecycle-callback-class> 	0 または 1 回	pre-passivate メソッドが存在するクラスをパッケージ名から表示。※3, ※4, ※8
└ <lifecycle-callback-method>	1 回	pre-passivate メソッド名を表示。※3, ※4, ※8

タグ名	出現パターン	説明
ト <timeout-method> 	0 または 1 回	timeout メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateless または Singleton の場合だけ表示されます。
ト <method-name>	1 回	timeout メソッドの名称。※3, ※4, ※8
↳ <method-params>	0 または 1 回	timeout メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ ↳ <method-param>	0 回以上	timeout メソッドの引数。※3, ※4, ※8
ト <init-method> 	0 回以上	init メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
ト <create-method>	1 回	create メソッドの設定。※3, ※4, ※8
ト <method-name>	1 回	create メソッドの名称。※3, ※4, ※8
↳ <method-params>	0 または 1 回	create メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ ↳ <method-param>	0 回以上	create メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ <bean-method>	1 回	bean メソッドの設定。※3, ※4, ※8
ト <method-name>	1 回	bean メソッドの名称。※3, ※4, ※8
↳ <method-params>	0 または 1 回	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ ↳ <method-param>	0 回以上	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
ト <remove-method> 	0 回以上	remove メソッドの設定。※3, ※4, ※8 session-type が Stateful の場合だけ表示されます。
ト <bean-method>	1 回	bean メソッドの設定。※3, ※4, ※8
ト <method-name>	1 回	bean メソッドの名称。※3, ※4, ※8
↳ <method-params>	0 または 1 回	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ ↳ <method-param>	0 回以上	bean メソッドの引数。※3, ※4, ※8
↳ <retain-if-exception> 	1 回	アプリケーション例外で異常終了した場合に除去されるかどうかの指定。※3, ※4, ※8 表示される文字列を次に示します。 • true (除去されない) • false (除去される)
ト <transaction-type> 	1 回	トランザクション管理種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Bean • Container
ト <env-entry>	0 回以上	環境エントリについての定義。※4, ※8

タグ名			出現パターン	説明
	ト	<description>*1	0 回以上*2	env-entry の説明。*4, *8
	ト	<env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。*4, *8
	ト	<env-entry-type>	1 回	環境エントリのデータ型。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
	ト	<env-entry-value>	1 回	環境エントリの値。*4, *8 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。 env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、 空文字は指定できません。
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*3, *4, *8
	ト	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。*3, *4, *8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	└	<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。*3, *4, *8
ト		<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。*4, *8
	ト	<description>*1	0 回以上*2	ejb-ref の説明。*4, *8
	ト	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。*4, *8
	ト	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先 EJB の種別。*4, *8 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	ト	<home>	1 回	リンク先のホームインタフェースクラスの名称。*4, *8
	ト	<remote>	1 回	リンク先のコンポーネントインタフェースクラスの名称。 *4, *8
	ト	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*4, *8 ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、 次の形式で指定します。

タグ名			出現パターン	説明
				corbaname::<名前空間のホスト名>:<名前空間のポート番号>#<EJBHomeオブジェクトリファレンスのJNDI名>
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※3, ※4, ※8
	└	└ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。※3, ※4, ※8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	└	└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※3, ※4, ※8
└		<ejb-local-ref>	0 回以上	EJB 参照情報の設定。※4, ※8
	└	<description>※1	0 回以上※2	ejb-local-ref の説明。※4, ※8
	└	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。※4, ※8
	└	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先 EJB の種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Session • Entity
	└	<local-home>	1 回	リンク先のホームインタフェースクラスの名称。※4, ※8
	└	<local>	1 回	リンク先のコンポーネントインタフェースクラスの名称。 ※4, ※8
	└	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。※4, ※8
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※3, ※4, ※8
	└	└ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。※3, ※4, ※8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	└	└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※3, ※4, ※8
└		<security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。※4
	└	<description>※1	0 回以上※2	security-role-ref の説明。※4, ※8
	└	<role-name>	1 回	security-role-ref の名称。※4, ※8
	└	<role-link>	0 または 1 回	リンク先のセキュリティロール名。※4, ※8
└		<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。※4, ※8
	└	<description>※1	0 回以上※2	security-identity の説明。※4, ※8
	└	<use-caller-identity>	1 回	実行時 security-identity を使用するかどうかの指定。※4, ※8

タグ名			出現パターン	説明
				<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。なお、このタグは値を持ちません。
 	└	<run-as>	1 回	実行時 security-identity の定義情報。※4, ※8 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
 	┐	<description>※1	0 回以上※2	実行時 security-identity の説明。※4, ※8 <run-as>を指定した場合だけ活性状態になります。
 	┐	<role-name>	1 回	実行時 security-identity の role の名称。※4, ※8 <run-as>を指定した場合だけ活性状態になります。
	└	<user-name>	1 回	プリンシパル名。※5
┐		<resource-ref>	0 回以上	リソース参照についての定義。※4, ※8
	┐	<description>※1	0 回以上※2	resource-ref の説明。※4, ※8
	┐	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。※4, ※8
 	┐	<res-type>	1 回	リソース種別。※4, ※8 指定可能な文字列は以下のとおり。 • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子 (<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。
 	┐	<res-auth>	1 回	認証方式。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container
 	┐	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかの指定。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable

タグ名			出現パターン	説明
		<mapped-name>	0 または 1 回	@Resource の mappedName 属性に設定されている、対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。※3, ※4, ※8 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※3, ※4, ※8
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。※3, ※4, ※8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※3, ※4, ※8
		<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名、またはメール表示名。※5 リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop では無視されます。
		<resource-env-ref>	0 回以上	リソース環境変数についての定義。※4, ※8
		<description>※1	0 回以上※2	resource-env-ref の説明。※4, ※8
		<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称。※4, ※8
		<resource-env-ref-type>	1 回	リソース環境変数の値のクラスタイプを指定します。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • javax.transaction.UserTransaction • javax.ejb.TimerService • javax.ejb.EJBContext • javax.ejb.SessionContext • JavaBeans リソースのクラスの名称

タグ名			出現パターン	説明
				javax.transaction.UserTransaction, javax.ejb.TimerService, javax.ejb.EJBContext, javax.ejb.SessionContext の値は、アノテーションを使用した場合にだけ出力されます。ただし、この値を設定することはできません。 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
		<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、@Resource の mappedName 属性に設定されている、対応するキューを次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、@Resource の mappedName 属性に設定されている、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。※3, ※4, ※8
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※3, ※4, ※8
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラスの名称。※3, ※4, ※8 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※3, ※4, ※8
		<linked-queue>	0 または 1 回	queue 名称。※5 cjsetresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。※5 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。※5
		<linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。 cjsetresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォー

タグ名			出現パターン	説明
				テーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続した名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
		<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名。※5 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合だけ有効となります。 cjsetresprop では無視されます。
		<method-permission>	0 回以上	メソッドパーミッションについての定義。※4, ※8
		<description>※1	0 回以上※2	method-permission の説明。※4, ※8
		<role-name>	1 回以上	メソッドに割り当てるロール名。※4, ※8 <role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。
		<unchecked>	1 回	メソッド実行時の認証チェック。※4, ※8 このタグを使用する場合、認証チェックはしません。 なお、このタグは値を持ちません。 <role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。
		<method>	1 回以上	メソッドについての定義。※4, ※8
		<description>※1	0 回以上※2	メソッドの説明。※4, ※8
		<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 - Home - Remote - LocalHome - Local 省略時は、すべてを表します。
		<method-name>	1 回	メソッド名。※4, ※8 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。

タグ名				出現パターン	説明
			└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。※4, ※8 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある, method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある, すべての method-name のメソッド。
			└ <method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。※4, ※8 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します (名称と[の間, [と]の間を空けないようにします)。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します ([と[の間を空けてはいけません)。 配列の内部形式名 (int[]の場合は[I, java.lang.String[]の場合は[Ljava.lang.String;) は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]
┐	<container-transaction>			0 回以上	コンテナのトランザクションについての定義。※4, ※8
	┐	<description>※1		0 回以上※2	container-transaction の説明。※4, ※8
	┐	<method>		1 回以上	メソッドについての定義。※4, ※8
		┐	<description>※1	0 回以上※2	メソッドの説明。※4, ※8
		┐	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は, すべてを表します。
		┐	<method-name>	1 回	メソッド名。※4, ※7, ※8 *を指定した場合, すべてのメソッドを表します。
			└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。※4, ※8 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある, method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。

タグ名				出現パターン	説明
					method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
			<method-param>	0 回以上	パラメタのデータ型。※4, ※8 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[]の間、[]と[]の間を空けないようにします）。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します（[]と[]の間を空けてはいけません）。 配列の内部形式名（int[]の場合は[], java.lang.String[]の場合は[]java.lang.String;) は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]
			<trans-attribute>	1 回	メソッドに割り当てるトランザクション属性。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Mandatory • Never • NotSupported • Required • RequiresNew • Supports
			<exclude-list>	0 または 1 回	呼び出しをしないメソッドのリストの定義。※4, ※8
			<description>※1	0 回以上※2	exclude-list の説明。※4, ※8
			<method>	1 回以上	呼び出しをしないメソッド。※4, ※8
			<description>※1	0 回以上※2	呼び出しをしないメソッドの説明。※4, ※8
			<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。※4, ※8 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
			<method-name>	1 回	呼び出しを行わないメソッド名。※4, ※8
			<method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。※4

タグ名				出現パターン	説明
					method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
			<method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。※4, ※8 プリミティブ型またはクラスの名を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[]の間、[]と[]の間を空けないようにします）。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します（[]と[]の間を空けてはいけません）。 配列の内部形式名（int[]の場合は[], java.lang.String[]の場合は[]java.lang.String;)は指定できません。 例 - int - short[] - java.lang.String[]
			<runtime>※5	0 または 1 回	cjsetappprop で使用する場合は必須 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
			<lookup-name>	1 回	クライアントから EJB をルックアップする場合に使う名前。※5 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。 ルックアップ名には、英数字（0～9, A～Z, a～z）、および次の特殊文字を使用できます。 スペース（ ）、エクスクラメーションマーク（!）、ダブルクォーテーション（"）、シャープ（#）、ドル記号（\$）、パーセント（%）、アンパサンド（&）、シングルクォーテーション（'）、パーレン（()（））、アスタリスク（*）、プラス（+）、コンマ（,）、ハイフン（-）、ピリオド（.）、コロン（:）、セミコロン（;）、レスザン（<）、イコール（=）、グレーターザン（>）、クエスチョン（?）、単価記号（@）、ブラケット（[]（））、円マーク（¥）、キャレット（^）、アンダースコア（_）、バッククォート（`）、ブレイス（{}（））、ストローク（ ）、チルダ（~） ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド（.）を付けた名前 - ピリオド（.）だけの名前

タグ名			出現パターン	説明
				文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中に改行がある場合はエラーとなります。 指定可能な文字数は 1～255 文字です。0 文字の場合は、タグが省略されたものと見なされます。
		<optional-name>	0 または 1 回	リモートインタフェースの別名。※5 設定値は、英数字 (0～9, A～Z, a～z)、および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次の名前は指定できません。 - 予約語の"HITACHI_EJB" (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 - 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 - スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 - スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中に改行がある場合はエラーとなります。 指定可能な文字数は 1～255 文字です。
		<local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名。 設定値に制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
		<maximum-sessions>	1 回	セッションの最大数。※5 0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-sessions} \leq 2147483647$ Stateless Session Bean の場合、この設定値は無効です。
		<stateless>※6	どちらか 1 回、またはどちらもなし	session-type が Stateless の場合の指定。※5 <stateless>と<stateful>のどちらか一つを指定するか、またはどちらも指定しません。
		<pooled-instance>	1 回	プール内のインスタンスについての定義。※5

タグ名				出現パターン	説明
			ト <minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.1」	1 回	プール内のインスタンスの最小数。※5 0 または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ maximum に上限を指定した場合、minimum にも上限を指定しなければいけません。
			└ <maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.1」	1 回	プール内のインスタンスの最大数。※5 0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-sessions}$ maximum-sessions に上限を指定した場合、maximum にも上限を指定しなければいけません。
		└	<instance-timeout>	0 または 1 回	インスタンス取得タイムアウト時間を、0～86400 (単位: 秒) で指定します。※5 0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
	ト		<stateful>※6	どちらか 1 回、 またはどちらも なし	session-type が Stateful の場合の指定。※5 <stateless>と<stateful>のどちらか一つを指定するか、 またはどちらも指定しません。
		ト	<maximum-active-sessions>	1 回	アクティブセッションの最大数。※5 0 (無制限) または $1 \leq \text{maximum-active-sessions} \leq \text{maximum-sessions}$ maximum-sessions に上限を指定した場合、maximum-active-sessions にも上限を指定しなければいけません。
		ト	<inactivity-timeout>	1 回	再びアクティブ化するまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分)。※5 0 (無制限) または $1 \leq \text{inactivity-timeout} \leq 2147483647$
		└	<removal-timeout>	1 回	セッションが削除されるまでに非アクティブ状態に保持しておく時間 (分)。※5 0 (無制限) または $1 \leq \text{removal-timeout} \leq 2147483647$
	ト		<enable-scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	該当する Bean をスケジューリングの対象にするかどうか (スケジューラの Gate として使用するかどうか) の指定。※5 CTM 経由で呼び出される Bean で、stateless の Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。 なお、このタグは構成ソフトウェアに Component Transaction Monitor を含む製品だけ有効です。それ以外の場合に指定するとエラーになります。利用できる製品については、マニュアル「アプリケーションサーバ & BPM/ESB 基盤 概説」の「2.2.1 製品と構成ソフトウェアの対応」を参照してください。 また、リモートコンポーネントインタフェースを提供しない EJB (コンポーネントローカルインタフェースまたは

タグ名			出現パターン	説明
				ビジネスインタフェースで提供) に対しては指定できません。指定した場合は無視されます。
		<pass-by-reference>	0 または 1 回	Bean 単位でのデータの参照渡し (pass by reference) を指定します。※5
		<scheduling> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	CTM 連携関連の情報。※5 Bean 単位にスケジューラを配置する場合に必要です。
		<queue-name> 「機能解説 拡張編」－「3.2.5」	1 回	スケジューリングを行う queue 名称。※5, ※9 英数字 (0~9, A~Z, a~z) およびアンダースコア (_) が使用できます。デフォルト値は, ejb 名 (<ejb-name> タグの値) です。
		<parallel-count> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	1 回	CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数を, 1~127 の範囲で指定します。※5 デフォルトは, 1 です。 CTM 経由で呼び出される Bean で, Maximum の値が parallel-count の値より小さい場合エラーとなります。
		<queue-length> 「機能解説 拡張編」－「3.4」	0 または 1 回	スケジューリングをするキューの長さを, 1~32767 の整数値で指定します。※5 キューを共有する場合, キューを共有するアプリケーション間や Bean 間で設定値が異なるとき, すでに生成されているキューの長さが有効になります。
		<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。※5 フロント EJB の場合は true を指定し, フロント EJB でない場合は false を指定します。デフォルト値は false。
		<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。※5 開始時は昇順で開始処理が行われ, 終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
		<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用/監視/連携編」－「5 章」	0 回以上	EJB のメソッドに仕掛けり中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。※5 <ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり, <method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合, 一つにマージされます。その場合, ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され, 先に定義された<ejb-method-observation-timeout>の<method-observation-timeout>の値が有効になります。
		<method>	1 回以上	— ※5
		<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。※5

タグ名				出現パターン	説明
		ト	<method-interfaces>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。※5 次の値が指定できます。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		ト	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。※5, ※7 *を指定した場合は、すべてのメソッドを表します。
		ㇿ	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。※5
		ㇿ	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。※5
	ㇿ		<method-observation-timeout>	1 回	仕掛けり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0～86400（単位：秒）で指定します。※50 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
ㇿ			<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.15.8」	0 回以上	EJB（CMT）のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。※5 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、 <method>タグ以下の設定値（<description>タグを除く）が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE37601-W）が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効になります。
	ト		<method>	1 回以上	— ※5
		ト	<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。※5
		ト	<method-interfaces>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。※5 次の値が指定できます。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		ト	<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。※5, ※7 *を指定した場合は、すべてのメソッドを表します。
		ㇿ	<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。※5

タグ名					出現パターン	説明
			└	<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。※5
			└	<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0～2147483647（単位：秒）で指定します。※5 デフォルト値は0。0を指定した場合、またはタグがない場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。
—	—	—	—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※5

設定先の Session Bean を含む EJB-JAR が DD（ejb-jar.xml）を保持していない場合でも、変更できます。

注※6

08-70 以前のバージョンの場合、stateless または stateful のどちらかを指定します。

注※7

サーバ管理コマンド用の usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible キーについては、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「5.2.3 usrconf.properties（サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル）」を参照してください。

注※8

設定先が EJB3.0 以降の場合、値の変更はできません。

注※9

<hitachi-application-property><scheduling-unit>に Bean を設定していて、かつ<queue-name>を省略する場合、ejb-jar.xml の<ejb-jar><enterprise-beans><session><ejb-name>には<queue-name>で指定可能な範囲の値を定義してください。

3.4.2 DD との対応

Session Bean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を示します。

Session Bean 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-session-bean-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回

Session Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	—	—	└ <description>		0 または 1 回
	—	—	└ <display-name>		0 または 1 回
	—	—	└ <icon>		0 回以上
	—	—	└ <small-icon>		0 または 1 回
	—	—	└ <large-icon>		0 または 1 回
	—	—	└ <enterprise-beans>		1 回
	—	—	└ <session>		1 回以上
└ <description>		0 回以上	└ <description>		0 回以上
└ <display-name>		1 回以上	└ <display-name>		0 回以上
└ <icon>		0 回以上	└ <icon>		0 回以上
└ <small-icon>		0 または 1 回	└ <small-icon>		0 または 1 回
└ <large-icon>		0 または 1 回	└ <large-icon>		0 または 1 回
	—	—	└ <ejb-name>		1 回
└ <mapped-name>		0 または 1 回		—	—
	—	—	└ <home>		0 または 1 回
	—	—	└ <remote>		0 または 1 回
└ <business-local>		0 回以上		—	—
└ <business-remote>		0 回以上		—	—
	—	—	└ <ejb-class>		1 回
└ <session-type>		1 回	└ <session-type>		0 または 1 回
└ <around-invoke>		0 回以上		—	—
└ <class>		0 または 1 回		—	—
└ <method-name>		1 回		—	—
└ <post-construct>		0 回以上		—	—
└ <lifecycle-callback-class>		0 または 1 回		—	—
└ <lifecycle-callback-method>		1 回		—	—
└ <pre-destroy>		0 回以上		—	—
└ <lifecycle-callback-class>		0 または 1 回		—	—
└ <lifecycle-callback-method>		1 回		—	—
└ <post-activate>		0 回以上		—	—

Session Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回			—	—
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回			—	—
└		<pre-passivate>	0 回以上			—	—
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回			—	—
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回			—	—
└		<timeout-method>	0 または 1 回			—	—
	└	<method-name>	1 回			—	—
	└	<method-params>	0 または 1 回			—	—
	└	<method-param>	0 回以上			—	—
└		<init-method>	0 回以上			—	—
	└	<create-method>	1 回			—	—
		└ <method-name>	1 回			—	—
		└ <method-params>	0 または 1 回			—	—
		└ <method-param>	0 回以上			—	—
	└	<bean-method>	1 回			—	—
	└	<method-name>	1 回			—	—
	└	<method-params>	0 または 1 回			—	—
	└	<method-param>	0 回以上			—	—
└		<remove-method>	0 回以上			—	—
	└	<bean-method>	1 回			—	—
		└ <method-name>	1 回			—	—
		└ <method-params>	0 または 1 回			—	—
		└ <method-param>	0 回以上			—	—
	└	<retain-if-exception>	0 または 1 回			—	—
└		<transaction-type>	1 回			└ <transaction-type>	1 回
└		<env-entry>	0 回以上			└ <env-entry>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<env-entry-name>	1 回			└ <env-entry-name>	1 回
	└	<env-entry-type>	1 回			└ <env-entry-type>	1 回
	└	<env-entry-value>	1 回			└ <env-entry-value>	0 または 1 回

Session Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<injection-target>	0 回以上			—	—
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
└		<ejb-ref>	0 回以上			└ <ejb-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<ejb-ref-name>	1 回			└ <ejb-ref-name>	1 回
	└	<ejb-ref-type>	1 回			└ <ejb-ref-type>	1 回
	└	<home>	1 回			└ <home>	1 回
	└	<remote>	1 回			└ <remote>	1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上			—	—
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
└		<ejb-local-ref>	0 回以上			└ <ejb-local-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<ejb-ref-name>	1 回			└ <ejb-ref-name>	1 回
	└	<ejb-ref-type>	1 回			└ <ejb-ref-type>	1 回
	└	<local-home>	1 回			└ <local-home>	1 回
	└	<local>	1 回			└ <local>	1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上			—	—
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
└		<security-role-ref>	0 回以上			└ <security-role-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<role-name>	1 回			└ <role-name>	1 回
	└	<role-link>	0 または 1 回			└ <role-link>	0 または 1 回
└		<security-identity>	0 または 1 回			└ <security-identity>	0 または 1 回
	└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
	└	<use-caller-identity>	1 回※1			└ <use-caller-identity>	1 回※1

Session Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン	
	└	<run-as>	1 回※1			└	<run-as>	1 回※1
		└ <description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
		└ <role-name>	1 回				└ <role-name>	1 回
		└ <user-name>	1 回				—	—
└		<resource-ref>	0 回以上			└	<resource-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
	└	<res-ref-name>	1 回				└ <res-ref-name>	1 回
	└	<res-type>	1 回				└ <res-type>	1 回
	└	<res-auth>	1 回				└ <res-auth>	1 回
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回				└ <res-sharing-scope>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回				—	—
	└	<injection-target>	0 回以上				—	—
		└ <injection-target-class>	1 回				—	—
		└ <injection-target-name>	1 回				—	—
	└	<linked-to>	0 または 1 回				—	—
└		<resource-env-ref>	0 回以上				└ <resource-env-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
	└	<resource-env-ref-name>	1 回				└ <resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	1 回				└ <resource-env-ref-type>	1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回				—	—
	└	<injection-target>	0 回以上				—	—
		└ <injection-target-class>	1 回				—	—
		└ <injection-target-name>	1 回				—	—
	└	<linked-queue>	0 または 1 回				—	—
		└ <resource-adapter>	1 回				—	—
		└ <queue>	1 回				—	—
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回				—	—
		└ <resourceadapter-name>	1 回				—	—
		└ <adminobject-name>	1 回				—	—
	(省略)		—		(省略)		—	

Session Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	—	—	┌ <assembly-descriptor>		0 または 1 回
	—	—	┌ <security-role>		0 回以上
	—	—	┌ <description>		0 回以上
	—	—	└ <role-name>		1 回
┌ <method-permission>		0 回以上	┌ <method-permission>		0 回以上
┌ <description>		0 回以上	┌ <description>		0 回以上
┌ <role-name>*2		1 回以上	┌ <role-name>*2		1 回以上
┌ <unchecked>*2		1 回	┌ <unchecked>*2		1 回
└ <method>		1 回以上	└ <method>		1 回以上
┌ ┌ <description>		0 回以上	┌ ┌ <description>		0 回以上
┌ —		—	┌ ┌ <ejb-name>		1 回
┌ <method-intf>		0 または 1 回	┌ ┌ <method-intf>		0 または 1 回
┌ <method-name>		1 回	┌ ┌ <method-name>		1 回
└ <method-params>		0 または 1 回	┌ └ <method-params>		0 または 1 回
└ ┌ <method-param>		0 回以上	┌ └ ┌ <method-param>		0 回以上
┌ <container-transaction>		0 回以上	┌ <container-transaction>		0 回以上
┌ <description>		0 回以上	┌ <description>		0 回以上
┌ <method>		1 回以上	┌ <method>		1 回以上
┌ <description>		0 回以上	┌ <description>		0 回以上
┌ —		—	┌ ┌ <ejb-name>		1 回
┌ <method-intf>		0 または 1 回	┌ ┌ <method-intf>		0 または 1 回
┌ <method-name>		1 回	┌ ┌ <method-name>		1 回
└ <method-params>		0 または 1 回	┌ └ <method-params>		0 または 1 回
└ ┌ <method-param>		0 回以上	┌ └ ┌ <method-param>		0 回以上
└ <trans-attribute>		1 回	└ <trans-attribute>		1 回
┌ <exclude-list>		0 または 1 回	└ <exclude-list>		0 または 1 回
┌ <description>		0 回以上	┌ <description>		0 回以上
└ <method>		1 回以上	└ <method>		1 回以上
┌ ┌ <description>		0 回以上	┌ ┌ <description>		0 回以上
┌ —		—	┌ ┌ <ejb-name>		1 回

Session Bean 属性ファイル					Deployment Descriptor											
タグ名					出現パターン		タグ名					出現パターン				
		ト	<method-intf>		0 または 1 回					ト	<method-intf>		0 または 1 回			
		ト	<method-name>		1 回					ト	<method-name>		1 回			
		└	<method-params>		0 または 1 回					└	<method-params>		0 または 1 回			
			└	<method-param>		0 回以上						└	<method-param>		0 回以上	
	—				—		└	<ejb-client-jar>					0 または 1 回			
└		<runtime>			0 または 1 回		—					—				
		(省略)			—		—					—				
—	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—	—		—	

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

注※2

<role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。

3.4.3 cosminexus.xml との対応

Session Bean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Session Bean 属性ファイル				cosminexus.xml								
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン						
<hitachi-session-bean-property>		1 回			┐	<session>		0 回以上				
	—		—				┐ <ejb-name>※1	1 回				
┐	<security-identity>		0 または 1 回				┐ <security-identity>	0 または 1 回				
	└	<run-as>		1 回				└ <run-as>	1 回			
		┐ <description>	0 回以上							—	—	
		┐ <role-name>	1 回							—	—	
		└ <user-name>	1 回						└	<user-name>		1 回
┐	<ejb-ref>		0 回以上					—				—
	┐	<description>		0 回以上				—				—

Session Bean 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	└	<ejb-ref-name>	1 回			—	—
	└	<ejb-ref-type>	1 回			—	—
	└	<home>	1 回			—	—
	└	<remote>	1 回			—	—
	└	<ejb-link>	0 または 1 回			—	—
└		<resource-ref>	0 回以上			└ <resource-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上				—
	└	<res-ref-name>	1 回			└ <res-ref-name>	1 回
	└	<res-type>	0 または 1 回				—
	└	<res-auth>	0 または 1 回				—
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回				—
	└	<linked-to>	0 または 1 回			└ <linked-to>※2	1 回
└		<resource-env-ref>	0 回以上			└ <resource-env-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上				—
	└	<resource-env-ref-name>	1 回			└ <resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回				—
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			└ <linked-queue>※2	1 回
		└ <resource-adapter>※3	1 回				└ <resource-adapter>
		└ <queue>※3	1 回				└ <queue>
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			└ <linked-adminobject>※2	1 回
		└ <resourceadapter-name>※4	1 回				└ <resourceadapter-name>
		└ <adminobject-name>※4	1 回				└ <adminobject-name>
	└	<linked-to>	0 または 1 回			└ <linked-to>※2	1 回
└		<runtime>	0 または 1 回			—	—
	└	<lookup-name>	1 回			└ <lookup-name>※2	0 または 1 回
	└	<optional-name>	0 または 1 回			└ <optional-name>	0 または 1 回

Session Bean 属性ファイル					cosminexus.xml						
タグ名			出現パターン		タグ名			出現パターン			
	┐	<local-optional-name>	0 または 1 回				┐	<local-optional-name>	0 または 1 回		
	┐	<maximum-sessions>	1 回				┐	<maximum-sessions>*2	0 または 1 回		
	┐	<stateless>*5	どちらか 1 回, またはどちらもなし				┐	<stateless>*2	0 または 1 回		
		┐	<pooled-instance>	1 回				┐	<pooled-instance>*2		
			┐	<minimum>	1 回				┐	<minimum>*2	
			┐	<maximum>	1 回				┐	<maximum>*2	
		┐	<instance-timeout>	0 または 1 回				┐	<instance-timeout>	0 または 1 回	
	┐	<stateful>*5	どちらか 1 回, またはどちらもなし				┐	<stateful>*2	0 または 1 回		
		┐	<maximum-active-sessions>	1 回				┐	<maximum-active-sessions>*2	0 または 1 回	
		┐	<inactivity-timeout>	1 回				┐	<inactivity-timeout>*2	0 または 1 回	
		┐	<removal-timeout>	1 回				┐	<removal-timeout>*2	0 または 1 回	
	┐	<enable-scheduling>	0 または 1 回				┐	<enable-scheduling>	0 または 1 回		
	┐	<pass-by-reference>	0 または 1 回				┐	<pass-by-reference>	0 または 1 回		
	┐	<scheduling>	0 または 1 回				┐	<scheduling>	0 または 1 回		
		┐	<queue-name>	1 回				┐	<queue-name>*2	0 または 1 回	
		┐	<parallel-count>	1 回				┐	<parallel-count>*2	0 または 1 回	
		┐	<queue-length>	0 または 1 回				┐	<queue-length>	0 または 1 回	
	┐	<front-ejb>	0 または 1 回				┐	<front-ejb>	0 または 1 回		
┐	<start-order>		0 または 1 回				┐	<start-order>	0 または 1 回		
┐	<ejb-method-observation-timeout>		0 回以上				┐	<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上		
	┐	<method>	1 回以上					┐	<method>	1 回以上	
		┐	<description>	0 または 1 回					—	—	
		┐	<method-intf>	0 または 1 回					┐	<method-intf>	0 または 1 回
		┐	<method-name>	1 回					┐	<method-name>	1 回
		┐	<method-params>	0 または 1 回					┐	<method-params>	0 または 1 回

Session Bean 属性ファイル					cosminexus.xml				
タグ名					出現パターン				
			└	<method-param>	0 回以上				
			└	<method-observation-timeout>	1 回				
			└	<ejb-transaction-timeout>	0 回以上				
			┐	<method>	1 回以上				
			┐	<description>	0 または 1 回				
			┐	<method-intf>	0 または 1 回				
			┐	<method-name>	1 回				
			└	<method-params>	0 または 1 回				
			└	<method-param>	0 回以上				
			└	<transaction-timeout>	1 回				
-	-	-	-	-	-				

(凡例)

－：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<session>-<ejb-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。SessionBean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>には QUEUE 名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

注※5

08-70 以前のバージョンの場合、stateless または stateful のどちらかを指定します。

3.5 Entity Bean 属性ファイル

Entity Bean 属性ファイルは、Entity Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.5.1 Entity Bean 属性ファイルの指定内容

Entity Bean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-entity-bean-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Entity Bean Property 7.6//EN' 'file:///<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-entity-bean-property_7_6.dtd'>
```

Entity Bean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-entity-bean-property>	1 回	ルートタグ。
┌ <description>* ¹	0 回以上* ²	Entity Bean の説明。
┌ <display-name>* ¹ │ │ │ │ │ │ │	1 回以上* ²	Entity Bean の表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。 該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。* ⁵ ただし、文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
┌ <icon>* ¹ │	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される Entity Bean のアイコンの定義。
│ ┌ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
│ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
┌ <persistence-type> │ │ │	1 回	永続性管理種別。* ³ 指定できる文字列を次に示します。 • Bean • Container
┌ <prim-key-class>	1 回	プライマリキークラス。

タグ名		出現パターン	説明
ト 	<cmp-field>	0 回以上	persistence-type に Container を指定した場合 必須 persistence-type に Bean を指定した場合 cjsetappprop, cjsetresprop で無視されます。
ト	<description>* ¹	0 回以上* ²	cmp-field の説明。
↳	<field-name>	1 回	永続性管理をする Bean のフィールド名。
ト 	<primkey-field>	0 または 1 回	プライマリキーとなる Entity Bean のフィールド名を指定します。 persistence-type に Container が指定されていて、かつ prim-key-class に単一プライマリキーとなるクラスが指定された場合は必須。それ以外の場合は cjsetappprop, cjsetresprop で無視されます。 指定できる値は cmp-field の field-name に指定されている文字列。 primkey-field に指定したフィールドのデータ型は prim-key-class の文字列と一致していなければいけません。
ト	<env-entry>	0 回以上	環境エンタリについての定義。
ト	<description>* ¹	0 回以上* ²	環境エンタリの説明。
ト	<env-entry-name>	1 回	環境エンタリの名称。
ト 	<env-entry-type>	1 回	環境エンタリのデータ型。 指定できる文字列を次に示します。 • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
↳ 	<env-entry-value>	1 回	環境エンタリの値。 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。 env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、空文字の指定はできません。
ト 	<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
ト	<description>* ¹	0 回以上* ²	ejb-ref の説明。

タグ名			出現パターン	説明
	└	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。
	└	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	└	<home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Home インタフェース名。
	└	<remote>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Component インタフェース名。
	└	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。
└		<ejb-local-ref>	0 回以上	ローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
	└	<description>* ¹	0 回以上* ²	ejb-local-ref の説明。
	└	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。
	└	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Session • Entity
	└	<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。
	└	<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。
	└	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。
└		<security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
	└	<description>* ¹	0 回以上* ²	security-role-ref の説明。
	└	<role-name>	1 回	security-role-ref の名称。
	└	<role-link>	0 または 1 回	リンク先のロール名。
└		<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。
	└	<description>* ¹	0 回以上* ²	security-identity の説明。
	└	<use-caller-identity>	1 回	実行時 security-identity を使用するかどうかの指定。なお、このタグは値を持ちません。 <use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
	└	<run-as>	1 回	実行時 security-identity の定義情報。

タグ名			出現パターン	説明
				<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。
	└	<description>* ¹	0 回以上* ²	実行時 security-identity の説明。
	└	<role-name>	1 回	実行時 security-identity の role の名称。
	└	<user-name>	0 または 1 回	プリンシパル名。
└		<resource-ref>	0 回以上	リソースへの参照情報についての定義。
	└	<description>* ¹	0 回以上* ²	resource-ref の説明。
	└	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。
	└	<res-type>	1 回	リソース種別。 指定可能な文字列は次のとおり。 • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3_ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子(<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。
	└	<res-auth>	1 回	認証方式。 指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable
	└	<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、またはメール表示名。* ³ <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
	└	<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名、またはメール表示名。 リソースアダプ表示名の指定方法はリソースアダプタのバージョンによって異なります。

タグ名			出現パターン	説明
				Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバ リソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop では無視されます。
		<resource-env-ref>	0 回以上	リソース環境変数への参照情報についての定義。
		<description>* ¹	0 回以上* ²	resource-env-ref の説明。
		<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称。
		<resource-env-ref-type>	1 回	リソース環境変数の値のクラスタイプ。 指定できる文字列を次に示します。 • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • JavaBeans リソースのクラス名 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意の クラス名が表示されます。
		<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」 の場合、対応するキュー* ³ を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、 <linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソース のクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソース の表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に 指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<linked-queue>	0 または 1 回	queue 名称。 cjsetresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」 の場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。
		<linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。

タグ名			出現パターン	説明
				cjsetresprop では無視されます。
		└ <resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		└ <adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル 記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バレーン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイ フン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザ ン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラ ケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイ ス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
	└	<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合だけ有効となります。 cjsetresprop では無視されます。
└		<query>	0 回以上	EJB QL についての定義。
	└	<description>	0 または 1 回	query の説明。
	└	<query-method>	1 回	クエリメソッドについての定義。
		└ <method-name>	1 回	クエリメソッド (finder または select メソッド)。
		└ <method-params>	1 回	クエリメソッドの引数。
		└ └ <method-param>	0 回以上	finder または select メソッドの引数の Java タイプ。
	└	<result-type-mapping>	0 または 1 回	select メソッドで Entity オブジェクトが返される場合のオブジェクトのタイプ。 「Remote」, 「Local」のどちらかを指定します。デフォルトは Local です。
	└	<ejb-ql>	1 回	EJB QL のクエリ文。

タグ名			出現パターン	説明
ト	<method-permission>		0 回以上	メソッドパーミッションについての定義。
ト	ト	<description>* ¹	0 回以上* ²	method-permission の説明。
ト	ト	<role-name>	1 回以上	メソッドに割り当てるロール名。 <role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。
ト	ト	<unchecked>	1 回	メソッド実行時の認証チェック。 このタグを使用する場合、認証チェックはしません。 メソッドに割り当てるロール名。 <role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。 なお、このタグは値を持ちません。
ト	<method>		1 回以上	メソッドについての定義。
ト	ト	<description>	0 回以上* ²	メソッドの説明。
ト	ト	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
ト	ト	<method-name>	1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
ト	ト	<method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、 method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、 すべての method-name のメソッド。
ト	ト	<method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[]の間、[]と[]の間を空けないようにしてください）。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します（[]と[]の間を空けないようにしてください）。配列の内部形式名（int[]の場合[L, java.lang.String[]の場合[Ljava.lang.String;) は指定できません。 例 • int

タグ名					出現パターン	説明
						• short[][] • java.lang.String[]
ト	<container-transaction>				0 回以上	コンテナのトランザクションについての定義。
	ト	<description>* ¹			0 回以上* ²	container-transaction の説明。
	ト	<method>			1 回以上	メソッドについての定義。
		ト	<description>* ¹		0 回以上* ²	メソッドの説明。
		ト	<method-intf>		0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		ト	<method-name>		1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。* ⁴
		└	<method-params>		0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、 method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、 すべての method-name のメソッド。
		└	<method-param>		0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[]の間、[]との間を空けないようにします）。 多次元配列の場合は[]を続けて指定します（[]と[]の間を空けてはいけません）。 配列の内部形式名（int[]の場合は[], java.lang.String[]の場合は[Ljava.lang.String;）は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]
		└	<trans-attribute>		1 回	メソッドに割り当てるトランザクション属性。

タグ名			出現パターン	説明
				指定できる文字列を次に示します。 • Mandatory • Never • NotSupported • Required • RequiresNew • Supports
┌	<exclude-list>		0 または 1 回	呼び出しをしないメソッドのリストの定義。
	┌	<description>* ¹	0 回以上* ²	exclude-list の説明。
	└	<method>	1 回以上	呼び出しをしないメソッドの定義。
		┌ <description>* ¹	0 回以上* ²	呼び出しをしないメソッドの説明。
		┌ <method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		┌ <method-name>	0 または 1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
		└ <method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、 method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、 すべての method-name のメソッド。
		└ <method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[]の間、[]と[]の間を空けないようにしてください）。多次元配列の場合は[]を続けて指定します（[]と[]の間を空けないようにしてください）。配列の内部形式名（int[]の場合[]I, java.lang.String[]の場合[]Ljava.lang.String;）は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]

タグ名			出現パターン	説明
ト	<runtime>		0 または 1 回	cjsetappprop で使用する場合 必須 cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
ト	<lookup-name>		1 回	クライアントから EJB をルックアップに使う名前。 HITACHI_EJB/SERVERS/<サーバ名称>/EJB/<アプリケーションのルックアップ名>/<EJB のルックアップ名>の<EJB のルックアップ名>に相当します。 ルックアップ名には、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 ・先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 ・ピリオド (.) だけの名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。 1 ≤ 文字列長 ≤ 255
ト	<optional-name>		0 または 1 回	リモートインタフェースの別名。 設定値には、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) ただし、次の名前は指定できません。

タグ名			出現パターン	説明
				- 予約語の"HITACHI_EJB"（大文字・小文字を区別します）で始まる名前 - 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 - スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 - スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。 $1 \leq \text{文字列長} \leq 255$ 0 文字の場合は、タグが省略されたものと見なされます。
		<local-optional-name>	0 または 1 回	ローカルインタフェースの別名。 設定値に制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
		<maximum-instances>	1 回	Enterprise Bean インスタンスの最大数。 0 （無制限）または $1 \leq \text{maximum-instances} \leq 2147483647$
		<pooled-instance>	1 回	インスタンスプールのプロパティ。
		<minimum>	1 回	プール内のインスタンスの最小数。 0 （無制限）または $1 \leq \text{minimum} \leq \text{maximum}$ maximum に上限を指定した場合、minimum にも上限を指定しなければいけません。
		<maximum>	1 回	プール内のインスタンスの最大数。 0 （無制限）または $1 \leq \text{maximum} \leq \text{maximum-instances}$ maximum-instances に上限を指定した場合、maximum にも上限を指定しなければいけません。
		<caching-model>	1 回	データのキャッシュ方法。 次のどれかを指定します。 full-caching メソッド起動間のすべての状態情報をキャッシュします。 caching メソッド起動間で最も頻繁に使用された状態情報をキャッシュします。 no-caching 状態情報をキャッシュしません。

タグ名				出現パターン	説明
				<entity-timeout>	0 または 1 回 EJBObject の存在時間（秒）を指定します。0：タイムアウトなし。1≤設定値≤2147483647
				<pass-by-reference>	0 または 1 回 Bean 単位でのデータの参照渡し（pass by reference）を指定します。
				<instance-timeout>	0 または 1 回 インスタンス取得タイムアウト時間を、0～86400（単位：秒）で指定します。 0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
				<front-ejb>	0 または 1 回 フロント EJB（クライアントが直接呼び出す EJB）かどうかを指定します。フロント EJB の場合は true を指定し、フロント EJB でない場合は false を指定します。デフォルト値は false。
				<ejb20-cmp>	0 または 1 回 EJB1.1, EJB2.0 での EntityBean の CMP について設定します。※3 cjsetappprop では無視されます。
				└─ <sql-statement>	0 回以上 メソッドと SQL 文を関連づけます。※3 メソッドは「finder」と「ejbSelect」です。
				└─ <method>	1 回 メソッドについての定義。※3 <method>と<operation>のどちらか一つを指定します。
				└─ <method-intf>	0 または 1 回 メソッドが属するインタフェース種別。※3 指定できる文字列を次に示します。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
				└─ <method-name>	1 回 メソッド名。※3 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。
				└─ <method-params>	0 または 1 回 method-name が*以外の場合に有効。※3 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、 method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、 すべての method-name のメソッド。
				└─ <method-param>	0 回以上 パラメータのデータ型。※3 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。

タグ名							出現パターン	説明
								配列の場合は名称の後ろに[]を指定します（名称と[の間, [と]の間を空けないようにしてください）。多次元配列の場合は[]を続けて指定します（]と[の間を空けないようにしてください）。配列の内部形式名（int[]の場合[], java.lang.String[]の場合[Ljava.lang.String;)は指定できません。 例 • int • short[][] • java.lang.String[]
				<operation>			1 回	CMP のオペレーション名を指定します。※3 <method>と<operation>のどちらか一つを指定します。
				<sql>			1 回	SQL 文を指定します。※3
			<cmp-map>				0 または 1 回	persistence-type が Bean の場合 cjsetappprop で無視されます。 persistence-type が Container の場合 必須
				<datasource-name>			1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータソース, または開始されたりソースアダプタの表示名。 リソースアダプ表示名の指定方法はリソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは, ra.xml の<connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。
				<catalog-name>			0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのカatalog名。
				<schema-name>			0 または 1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのスキーマ名。
				<table-name>			1 回	Enterprise Bean フィールドのマッピング先とするデータベースのテーブル名。

タグ名			出現パターン	説明
		ト <read-only-access>	1 回	アプリケーションからデータベースへの書き込みの許可／禁止。 次のどちらかを指定します。 true 書き込みを禁止します。 false 書き込みを許可します。
		ト <available-transaction-isolations>	1 回	指定できるトランザクションについての定義。
		└ <transaction-isolation>	0 回以上	指定できるトランザクション遮断レベル。※3 次のどれかが指定されます (cjgetappprop でプロパティファイル生成時にデータベースにアクセスして自動的に生成されます)。 none トランザクションがサポートされていません。 read committed ダーティー読み取りが抑制されます。 read uncommitted ダーティー読み取り、繰り返し不可の読み取り、およびファントム読み取りが起きます。 repeatable_read ダーティー読み取りおよび繰り返し不可の読み取りが抑制されます。 serializable ダーティー読み取り、繰り返し不可の読みおよびファントム読み取りが抑制されます。
		ト <transaction-isolation>	0 または 1 回	トランザクション遮断レベル。 available-transaction-isolations にある中から一つを指定します。 省略した場合、デフォルトのトランザクション遮断レベルが使われます (使用するデータベースおよび JDBC ドライバによって異なります)。
		ト <concurrency-protection>	0 または 1 回	データベースに書き込むデータとレコードとの照合方法。 指定できる値を次に示します。 primary-key プライマリキーと照合してデータを更新します。 modified-data プライマリキーと照合して変更対象のデータの値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。

タグ名				出現パターン	説明
					whole-row プライマリキーと照合して変更対象の値を含む行内のすべての値が最後の読み出し操作以降に変更されているかどうかをチェックします。 read-only-access が true の場合は省略できます。 また、値が指定されていても無視します。
			<field-impl>	0 回以上	Entity Bean のフィールドとテーブルのカラムとのマッピングについての定義。*3
			<field-name>	1 回	Entity Bean のフィールド名。*3
			<column-name>	1 回	テーブルのカラム名。
			<finder-impl>	0 回以上	ejbFindByPrimaryKey 以外の Finder メソッドの検索条件。*3
			<method-name>	1 回	Finder メソッドのメソッド名。*3
			<where-clause>	1 回	テーブルの検索条件。指定できる値は"#"以外です。 検索条件に指定できる演算子を次に示します。なお、<や>を値に使うことは XML の構文上許されていないため、テキストエディタで属性ファイルを編集する場合は、表内 () のようにエンティティを使用してください。 IS NULL NULL です。 IS NOT NULL NULL ではありません。 = 等しい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。 != 等しくない (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。 < (&lt;) ～より小さい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。 > (&gt;) ～より大きい (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。 <= (&lt;=) ～以下 (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。 >= (&gt;=) ～以上 (Finder メソッドのパラメタが 1 個以上の場合に使用できます)。

タグ名			出現パターン	説明
				マージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された <ejb-method-observation-timeout> の <method-observation-timeout> の値が有効になります。
		<method>	1 回以上	—
		<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
		<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 次の値が指定できます。 • Home • Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
		<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合はすべてのメソッドを表します。※4
		<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
		<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
		<method-observation-timeout>	1 回	仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0～86400（単位：秒）で指定します。0 を指定した場合は、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
		<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 — 「3.15.8」	0 回以上	EJB (CMT) のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout> の指定が複数あり、<method> タグ以下の設定値 (<description> タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された <ejb-transaction-timeout> の <transaction-timeout> の値が有効になります。
		<method>	1 回以上	メソッドについての定義
		<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
		<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 次の値が指定できます。 • Home

タグ名							出現パターン	説明
								• Remote • LocalHome • Local 省略時は、すべてを表します。
							1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合、すべてのメソッドを表します。※4
							0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
							0 回以上	引数のデータ型を指定。
							1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0～2147483647（単位：秒）で指定します。デフォルト値は 0。0 を指定した場合、またはタグがない場合は、J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。
—	—	—	—	—	—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4

サーバ管理コマンド用の usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible キーについては、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「5.2.3 usrconf.properties（サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル）」を参照してください。

注※5

CMR 使用時は、Java 識別子に使用できる文字だけ指定できます。

3.5.2 DD との対応

Entity Bean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

Entity Bean 属性ファイル		Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン	タグ名	出現パターン
<hitachi-entity-bean-property>	1 回	<ejb-jar>	1 回

Entity Bean 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	—	—		<description>	0 または 1 回
	—	—		<display-name>	0 または 1 回
	—	—		<icon>	0 回以上
	—	—		<small-icon>	0 または 1 回
	—	—		<large-icon>	0 または 1 回
	—	—		<enterprise-beans>	1 回
	—	—		<session>*1	1 回以上
	—	—		(省略)	—
	—	—		<entity>*1	1 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<display-name>	1 回以上		<display-name>	0 回以上
	<icon>	0 回以上		<icon>	0 回以上
	<small-icon>	0 または 1 回		<small-icon>	0 または 1 回
	<large-icon>	0 または 1 回		<large-icon>	0 または 1 回
	—	—		<ejb-name>	1 回
	—	—		<home>	0 または 1 回
	—	—		<remote>	0 または 1 回
	—	—		<ejb-class>	1 回
	<persistence-type>	0 または 1 回		<persistence-type>	0 または 1 回
	<prim-key-class>	1 回		<prim-key-class>	1 回
	<reentrant>	1 回		<reentrant>	1 回
	<abstract-schema-name>	0 または 1 回		<abstract-schema-name>	0 または 1 回
	<cmp-field>	0 回以上		<cmp-field>	0 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<field-name>	1 回		<field-name>	1 回
	<primkey-field>	0 または 1 回		<primkey-field>	0 または 1 回
	<env-entry>	0 回以上		<env-entry>	0 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<env-entry-name>	1 回		<env-entry-name>	1 回
	<env-entry-type>	1 回		<env-entry-type>	1 回

Entity Bean 属性ファイル					Deployment Descriptor					
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン	
		└	<env-entry-value>	1 回				└	<env-entry-value>	0 または 1 回
		┐	<ejb-ref>	0 回以上			┐	<ejb-ref>	0 回以上	
		┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
		┐	<ejb-ref-name>	1 回				┐	<ejb-ref-name>	1 回
		┐	<ejb-ref-type>	1 回				┐	<ejb-ref-type>	1 回
		┐	<home>	1 回				┐	<home>	1 回
		┐	<remote>	1 回				┐	<remote>	1 回
		└	<ejb-link>	0 または 1 回				└	<ejb-link>	0 または 1 回
	┐		<ejb-local-ref>	0 回以上			┐	<ejb-local-ref>	0 回以上	
		┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
		┐	<ejb-ref-name>	1 回				┐	<ejb-ref-name>	1 回
		┐	<ejb-ref-type>	1 回				┐	<ejb-ref-type>	1 回
		┐	<local-home>	1 回				┐	<local-home>	1 回
		┐	<local>	1 回				┐	<local>	1 回
		└	<ejb-link>	0 または 1 回				└	<ejb-link>	0 または 1 回
	┐		<security-role-ref>	0 回以上			┐	<security-role-ref>	0 回以上	
		┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
		┐	<role-name>	1 回				┐	<role-name>	1 回
		└	<role-link>	0 または 1 回				└	<role-link>	0 または 1 回
	┐		<security-identity>	0 または 1 回			┐	<security-identity>	0 または 1 回	
		┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
		┐	<use-caller-identity>*2	1 回				┐	<use-caller-identity>*2	1 回
		└	<run-as>*2	1 回				└	<run-as>*2	1 回
			┐ <description>	0 回以上					┐ <description>	0 回以上
			┐ <role-name>	1 回					└ <role-name>	1 回
			└ <user-name>	0 または 1 回					—	1 回
	┐		<resource-ref>	0 回以上			┐	<resource-ref>	0 回以上	
		┐	<description>	0 回以上				┐	<description>	0 回以上
		┐	<res-ref-name>	1 回				┐	<res-ref-name>	1 回
		┐	<res-type>	1 回				┐	<res-type>	1 回

Entity Bean 属性ファイル					Deployment Descriptor						
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン		
		└	<res-auth>	1 回				└	<res-auth>	1 回	
		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回				└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	
		└	<mapped-name>	0 または 1 回				—		—	
		└	<linked-to>	0 または 1 回				—		—	
		└	<resource-env-ref>	0 回以上			└	<resource-env-ref>	0 回以上		
		└	<description>	0 回以上				└	<description>	0 回以上	
		└	<resource-env-ref-name>	1 回				└	<resource-env-ref-name>	1 回	
		└	<resource-env-ref-type>	1 回				└	<resource-env-ref-type>	1 回	
		└	<mapped-name>	0 または 1 回				—		—	
		└	<linked-queue>	0 または 1 回				—		—	
			└	<resource-adapter>	1 回				—		
			└	<queue>	1 回				—		
		└	<linked-adminobject>	0 または 1 回				—		—	
			└	<resource-adapter-name>	1 回				—		
			└	<adminobject-name>	1 回				—		
		└	<query>	0 回以上			└	<query>	0 回以上		
		└	<description>	0 または 1 回				└	<description>	0 または 1 回	
		└	<query-method>	1 回				└	<query-method>	1 回	
			└	<method-name>	1 回				└	<method-name>	
			└	<method-params>	1 回				└	<method-params>	
				└	<method-param>	0 回以上				└	<method-param>
		└	<result-type-mapping>	0 または 1 回				└	<result-type-mapping>	0 または 1 回	
		└	<ejb-ql>	1 回				└	<ejb-ql>	1 回	
	—			—		└	<assembly-descriptor>			0 または 1 回	
	—			—		└	<security-role>			0 回以上	
	—			—			└	<description>			0 回以上
	—			—			└	<role-name>			1 回
└ <method-permission>				0 回以上		└ <method-permission>				0 回以上	
	└	<description>		0 回以上			└	<description>			0 回以上

Entity Bean 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン	
	└	<role-name>*3	1 回以上			└	<role-name>*3	1 回以上
	└	<unchecked>*3	1 回			└	<unchecked>*3	1 回
	└	<method>	1 回以上			└	<method>	1 回以上
		└ <description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
			—				└ <ejb-name>	1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回				└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回				└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回				└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上				└ <method-param>	0 回以上
└	<container-transaction>		0 回以上		└	<container-transaction>		0 回以上
	└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上
	└	<method>	1 回以上			└	<method>	1 回以上
		└ <description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
			—				└ <ejb-name>	1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回				└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回				└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回				└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上				└ <method-param>	0 回以上
	└	<trans-attribute>	1 回			└	<trans-attribute>	1 回
└	<exclude-list>		0 または 1 回		└	<exclude-list>		0 または 1 回
	└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上
	└	<method>	1 回以上			└	<method>	1 回以上
		└ <description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上
			—				└ <ejb-name>	1 回
		└ <method-intf>	0 または 1 回				└ <method-intf>	0 または 1 回
		└ <method-name>	1 回				└ <method-name>	1 回
		└ <method-params>	0 または 1 回				└ <method-params>	0 または 1 回
		└ <method-param>	0 回以上				└ <method-param>	0 回以上
	—		—	└	<ejb-client-jar>		0 または 1 回	
└	<runtime>		0 または 1 回	—			—	

Entity Bean 属性ファイル						Deployment Descriptor					
タグ名						出現パターン					
					(省略)	—					—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<session>と<entity>のどちらか一つを指定します。

注※2

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

注※3

<role-name>と<unchecked>のどちらか一つを指定します。

3.5.3 cosminexus.xml との対応

Entity Bean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を示します。

Entity Bean 属性ファイル						cosminexus.xml					
タグ名						出現パターン					
<hitachi-entity-bean-property>						1 回					
					—	—				<entity>	0 回以上
					—	—				<ejb-name>※1	1 回
					<security-identity>	0 または 1 回				<security-identity>	0 または 1 回
					<run-as>	1 回				<run-as>	1 回
					<description>	0 回以上				—	—
					<role-name>	1 回				—	—
					<user-name>	0 または 1 回				<user-name>※2	1 回
					<ejb-ref>	0 回以上				—	—
					<description>	0 回以上				—	—
					<ejb-ref-name>	1 回				—	—
					<ejb-ref-type>	1 回				—	—
					<home>	1 回				—	—
					<remote>	1 回				—	—
					<ejb-link>	0 または 1 回				—	—

Entity Bean 属性ファイル			cosminexus.xml					
タグ名		出現パターン	タグ名			出現パターン		
└	<resource-ref>	0 回以上			└	<resource-ref>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上				—	—	
	└ <res-ref-name>	1 回				└ <res-ref-name>	1 回	
	└ <res-type>	1 回				—	—	
	└ <res-auth>	1 回				—	—	
	└ <res-sharing-scope>	0 または 1 回				—	—	
	└ <mapped-name>	0 または 1 回				—	—	
	└ <linked-to>	0 または 1 回				└ <linked-to>*2	1 回	
└	<resource-env-ref>	0 回以上			└	<resource-env-ref>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上				—	—	
	└ <resource-env-ref-name>	1 回				└ <resource-env-ref-name>	1 回	
	└ <resource-env-ref-type>	1 回				—	—	
	└ <mapped-name>	0 または 1 回				—	—	
	└ <linked-queue>	0 または 1 回				└ <linked-queue>*2	1 回	
		└ <resource-adapter>*3	1 回				└ <resource-adapter>	1 回
		└ <queue>*3	1 回				└ <queue>	1 回
	└ <linked-adminobject>	0 または 1 回				└ <linked-adminobject>*2	1 回	
		└ <resourceadapter-name>*4	1 回				└ <resourceadapter-name>	1 回
		└ <adminobject-name>*4	1 回				└ <adminobject-name>	1 回
	└ <linked-to>	0 または 1 回				└ <linked-to>*2	1 回	
└	<runtime>	0 または 1 回				—	—	
	└ <lookup-name>	1 回			└	<lookup-name>*2	0 または 1 回	
	└ <optional-name>	0 または 1 回			└	<optional-name>	0 または 1 回	
	└ <local-optional-name>	0 または 1 回			└	<local-optional-name>	0 または 1 回	
	└ <maximum-instances>	1 回			└	<maximum-instances>*2	0 または 1 回	
	└ <pooled-instance>	1 回			└	<pooled-instance>*2	0 または 1 回	

Entity Bean 属性ファイル					cosminexus.xml								
タグ名					出現パターン	タグ名					出現パターン		
		└	<minimum>		1 回				└	<minimum>*2		0 または 1 回	
		└	<maximum>		1 回				└	<maximum>*2		0 または 1 回	
	└		<caching-model>			1 回			└		<caching-model>*2	0 または 1 回	
	└		<entity-timeout>			0 または 1 回			└		<entity-timeout>	0 または 1 回	
	└		<pass-by-reference>			0 または 1 回			└		<pass-by-reference>	0 または 1 回	
	└		<instance-timeout>			0 または 1 回			└		<instance-timeout>	0 または 1 回	
	└		<front-ejb>			0 または 1 回			└		<front-ejb>	0 または 1 回	
	└		<ejb20-cmp>			0 または 1 回				—		—	
		└		<sql-statement>		0 回以上				—		—	
		└		<method>		1 回				—		—	
		└		<method-intf>		0 または 1 回				—		—	
		└		<method-name>		1 回				—		—	
		└		<method-params>		0 または 1 回				—		—	
		└		<method-param>		0 回以上				—		—	
		└		<operation>		1 回				—		—	
		└		<sql>		1 回				—		—	
	└		<cmp-map>			0 または 1 回			└		<cmp-map>	0 または 1 回	
	└		<datasource-name>			1 回				└		<datasource-name>	1 回
	└		<catalog-name>			0 または 1 回				└		<catalog-name>	0 または 1 回
	└		<schema-name>			0 または 1 回				└		<schema-name>	0 または 1 回
	└		<table-name>			1 回				└		<table-name>	1 回
	└		<read-only-access>			1 回				└		<read-only-access>	1 回
	└		<available-transaction-isolations>			1 回					—		—
	└		└		<transaction-isolation>	0 回以上					—		—
	└		<transaction-isolation>			0 または 1 回				└		<transaction-isolation>	0 または 1 回
	└		<concurrency-protection>			0 または 1 回				└		<concurrency-protection>	0 または 1 回

Entity Bean 属性ファイル								cosminexus.xml												
タグ名				出現パターン				タグ名				出現パターン								
		ト	<field-impl>	0 回以上							ト	<field-impl>	0 回以上							
			ト	<field-name>	1 回								ト	<field-name>	1 回					
			└	<column-name>	1 回								└	<column-name>	1 回					
		└	<finder-impl>	0 回以上							└	<finder-impl>	0 回以上							
			ト	<method-name>	1 回								ト	<method-name>	1 回					
			└	<where-clause>	1 回								└	<where-clause>	1 回					
ト <start-order>				0 または 1 回						ト <start-order>				0 または 1 回						
ト <ejb-method-observation-timeout>				0 回以上						ト <ejb-method-observation-timeout>				0 回以上						
	<method>			1 回以上							ト	<method>	1 回以上							
		ト	<description>	0 または 1 回								└	—	—						
		ト	<method-intf>	0 または 1 回								ト	<method-intf>	0 または 1 回						
		ト	<method-name>	1 回								ト	<method-name>	1 回						
		└	<method-params>	0 または 1 回								└	<method-params>	0 または 1 回						
			└	<method-param>	0 回以上								└	<method-param>	0 回以上					
	└	<method-observation-timeout>			1 回							└	<method-observation-timeout>	1 回						
└ <ejb-transaction-timeout>				0 回以上						└ <ejb-transaction-timeout>				0 回以上						
	ト <method>			1 回以上						ト <method>				1 回以上						
		ト	<description>	0 または 1 回										└	—	—				
		ト	<method-intf>	0 または 1 回										ト	<method-intf>	0 または 1 回				
		ト	<method-name>	1 回										ト	<method-name>	1 回				
		└	<method-params>	0 または 1 回										└	<method-params>	0 または 1 回				
			└	<method-param>	0 回以上											└	<method-param>	0 回以上		
└ <transaction-timeout>				1 回						└ <transaction-timeout>				1 回						
—	—	—	—	—	—	—	—	—				—	—	—	—	—	—	—		

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<entity>-<ejb-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。EntityBean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>にはキュー名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

3.6 MessageDrivenBean 属性ファイル

MessageDrivenBean 属性ファイルは、Message-driven Bean の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.6.1 MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容

MessageDrivenBean 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-message-bean-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Message Bean Property 7.6//EN' 'file:///<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-message-bean-property_7_6.dtd'>
```

MessageDrivenBean 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名の欄にあるマニュアルの参照先には、そのタグの関連情報があります。マニュアル名に「アプリケーションサーバ」と記載されたマニュアルについては、名称を省略しています。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-message-bean-property>	1 回	ルートタグ。
ト <description>* ¹	0 回以上* ²	Message-driven Bean についての説明。
ト <display-name>* ¹ 	1 回以上* ²	Message-driven Bean の名称。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 指定できる文字の制限はありません。 文字列の先頭または末尾に、半角スペースがある場合、エラーとならずに、取り除かれて設定されます。
ト <icon>* ¹ 	0 回以上* ²	GUI ツール上に表示される Entity Bean のアイコンの定義。
ト <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
↳ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
ト <messaging-type> 	0 または 1 回	Message-driven Bean のメッセージリスナインタフェース。 記述されていない場合には、"javax.jms.MessageListener"が仮定されます。 このタグは、EJB2.1 以降の Enterprise Bean に対して指定できます。

タグ名			出現パターン	説明
ト	<transaction-type>		1 回	トランザクションの管理方法。 「Container」または「Bean」のどちらかを指定できます。
ト	<activation-config>		0 または 1 回	Message-driven Bean の動作環境。 このタグより下位のタグは、EJB2.1 以降の Enterprise Bean に対して指定できます。
ト	<description>*1		0 回以上	Message-driven Bean の動作環境の説明。
ト	<activation-config-property>		1 回以上	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティ。
ト	ト	<activation-config-property-name>	1 回	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティ名。
ト	ト	<activation-config-property-value>	1 回	Message-driven Bean の動作環境に関するプロパティの値。
ト	<message-selector>		0 または 1 回	Message-driven bean が受信するメッセージを決定するための JMS メッセージセクタ。 このタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
ト	<acknowledge-mode>		0 または 1 回	BMT の Message-driven bean の onMessage メッセージで使用する通知セマンティクス。 「Auto-acknowledge」または「Dups-ok-acknowledge」のどちらかを指定します。デフォルトは「Auto-acknowledge」です。 このタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
ト	<message-driven-destination>		0 または 1 回	JMS デスティネーションの定義。 このタグより下位のタグは EJB2.0 以前の Enterprise Bean に対して指定できます。
ト	ト	<destination-type>	1 回	JMS デスティネーションのタイプ。 「javax.jms.Queue」または「javax.jms.Topic」のどちらかを指定します。
ト	ト	<subscription-durability>	0 または 1 回	JMS デスティネーションが「javax.jms.Topic」の場合のサブスクリプション。 「Durable」または「NonDurable」のどちらかを指定します。デフォルトは後者です。
ト	<env-entry>		0 回以上	Message-driven Bean から呼び出す環境変数についての定義。
ト	<description>*1		0 回以上*2	環境変数についての説明。
ト	<env-entry-name>		1 回	環境変数の名称。

タグ名			出現パターン	説明
		<env-entry-type>	1 回	環境変数の値の Java タイプ。 指定できる値を次に示します。 • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Character • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float
		<env-entry-value>	1 回	環境変数の値。
		<ejb-ref>	0 回以上	Message-driven Bean からリモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
		<description>*1	0 回以上*2	Enterprise Bean 参照についての説明。
		<ejb-ref-name>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
		<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる値を次に示します。 • Session • Entity
		<home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Home インタフェース名。
		<remote>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Remote Component インタフェース名。
		<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、次の形式で指定してください。 corbaname::<名前空間のホスト名>:<名前空間のポート番号>#<EJBHomeオブジェクトリファレンスの JNDI 名>
		<ejb-local-ref>	0 回以上	Message-driven Bean からローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。
		<description>*1	0 回以上*2	ejb-local-ref の説明。
		<ejb-ref-name>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
		<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。 指定できる値を次に示します。

タグ名			出現パターン	説明
				- Session - Entity
		<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。
		<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。
		<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の名称。
		<message-ref>	0 または 1 回	Connector1.0 のリソースアダプタを指定する場合、<resource-adapter>と<queue>の組み合わせは、複数のアプリケーション間でユニークにする必要があります。
		<connection-factory>	0 または 1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。
		<connection-destination>	1 回	cjsetresprop では無視されます。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。
		<queue>	0 または 1 回	キューの表示名を指定します。 Connector1.5 以降のリソースアダプタは指定できません。
		<security-identity>	0 または 1 回	セキュリティアイデンティティについての定義。
		<description>*1	0 回以上*2	security-identity の説明。
		<run-as>	1 回	実行時アイデンティティの定義。
		<description>*1	0 回以上*2	run-as の説明。
		<role-name>	1 回	セキュリティロール名。
		<user-name>	1 回	プリンシパル名。
		<resource-ref>	0 回以上	Message-Driven Bean から参照するリソースの定義。
		<description>*1	0 回以上*2	resource-ref の説明。
		<res-ref-name>	1 回	リソース参照の名称。
		<res-type>	1 回	リソース種別。 指定可能な文字列は次のとおり。 - javax.mail.Session - javax.sql.DataSource - javax.jms.QueueConnectionFactory - javax.jms.ConnectionFactory

タグ名			出現パターン	説明
				• javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子(<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。
		<res-auth>	1 回	リソースマネージャへ登録する方法。 指定できる値は、「Container」または「Application」のどちらかです。
		<res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソースマネージャファクトリリファレンスから取得したコネクションを共有するかどうかの指定。 設定できる値は、「Shareable」または「Unshareable」のどちらかです。デフォルトは「Shareable」です。
		<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。 ^{※3} <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名、またはメール表示名。 リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の<connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバーリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop では無視されます。
		<resource-env-ref>	0 回以上	Message-driven Bean から参照するリソース環境変数の定義。
		<description> ^{※1}	0 回以上 ^{※2}	resource-env-ref の説明。
		<resource-env-ref-name>	1 回	リソース環境変数参照の名称。
		<resource-env-ref-type>	1 回	リソース環境変数参照の種別。

タグ名			出現パターン	説明
				次の Java クラスまたはインタフェース名を指定します。 • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • JavaBeans リソースのクラス名 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
		<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー※3 を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<linked-queue>	0 または 1 回	queue 名称。 cjsetresprop では無視されます。 <resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。
		<linked-adminobject> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」－「3.16」	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。cjsetresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), プラ

タグ名				出現パターン	説明
					ケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。
		└	<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名。 <resource-env-ref-type>に「Java.jms.リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効となります。cjsetresprop では無視されます。
		┐	<container-transaction>	0 回以上	コンテナのトランザクションについての定義。
		┐	<description>* ¹	0 回以上* ²	container-transaction の説明。
		┐	<method>	1 回以上	メソッドについての定義。
		┐	<description>* ¹	0 回以上* ²	メソッドの説明。
		┐	<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
		┐	<method-name>	1 回	メソッド名。 *を指定した場合、すべてのメソッドを表します。 ^{※4}
		└	<method-params>	0 または 1 回	method-name が*以外の場合に有効。 method-params の指定あり method-intf で指定したインタフェースにある、method-params で指定したパラメータを持つ method-name のメソッド。 method-params の指定なし method-intf で指定したインタフェースにある、すべての method-name のメソッド。
		└	<method-param>	0 回以上	パラメータのデータ型。 プリミティブ型またはクラスの名称を指定します。 配列の場合は名称の後ろに[]を指定します (名称と[]の間, [と]の間を空けないようにしてください)。多次元配列の場合は[]を続けて指定します ([])と[]の間を空けないようにしてください)。配列の内部形式名 (int[]の場合[I, java.lang.String[]の場合[Ljava.lang.String;) は指定できません。

タグ名					出現パターン	説明
						例 • int • short[] • java.lang.String[]
				<trans-attribute>	1 回	メソッドに割り当てるトランザクション属性。 指定できる文字列を次に示します。 • Mandatory • Never • NotSupported • Required • RequiresNew • Supports
				<runtime>	0 または 1 回	cjsetappprop で使用する場合 必須 cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
				<pooled-instance>	1 回	プール内のインスタンスについての定義。
				<minimum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.3」	1 回	プール内のインスタンスの最小数。*3 1 が表示されます。
				<maximum> 「機能解説 基本・開発編(EJB コンテナ)」－「2.9.3」	1 回	プール内のインスタンスの最大数。 $1 \leq \text{maximum} \leq 2147483647$ 。 0 を指定した場合、1 が設定されます。
				<front-ejb>	0 または 1 回	フロント EJB (クライアントが直接呼び出す EJB) かどうかを指定します。フロント EJB の場合は true を指定し、フロント EJB でない場合は false を指定します。デフォルト値は false です。
				<start-order>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時・停止時の順番を指定します。開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
				<ejb-method-observation-timeout> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「5 章」	0 回以上	EJB のメソッドに仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-method-observation-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値 (<description>タグを除く) が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ (KDJE37601-W) が出力され、先に定義された <ejb-method-observation-timeout>の <method-observation-timeout>の値が有効になります。

タグ名				出現パターン	説明
			<method>	1 回以上	—
			<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
			<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
			<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合、すべてのメソッドを表します。※4
			<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
			<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
			<method-observation-timeout>	1 回	仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間を、0～86400（単位：秒）で指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。
			<ejb-transaction-timeout> 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 — 「3.15.8」	0 回以上	EJB（CMT）のメソッドにトランザクションタイムアウト時間を設定する場合に指定します。 <ejb-transaction-timeout>の指定が複数あり、<method>タグ以下の設定値（<description>タグを除く）が同じ場合、一つにマージされます。その場合、ワーニングメッセージ（KDJE37601-W）が出力され、先に定義された<ejb-transaction-timeout>の<transaction-timeout>の値が有効になります。
			<method>	1 回以上	—
			<description>	0 または 1 回	メソッドの説明。このタグは複数指定できません。
			<method-intf>	0 または 1 回	メソッドが属するインタフェース種別を特定する場合に指定します。 このタグには、値を指定できません。ただし、設定先が EJB2.0 以前の EJB の場合は、"Bean"を指定できます。
			<method-name>	1 回	対象となるメソッド名を指定します。*を指定した場合はすべてのメソッドを表します。※4
			<method-params>	0 または 1 回	メソッドが多重定義されている場合、メソッドを特定するために指定します。
			<method-param>	0 回以上	引数のデータ型を指定。
			<transaction-timeout>	1 回	トランザクションタイムアウト時間を、0～2147483647（単位：秒）で指定します。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0。

タグ名					出現パターン	説明
—	—	—	—	—	—	—

注※1
xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2
EJB2.0 以前の EJB に対して、このタグを複数指定できません。

注※3
cigetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※4
サーバ管理コマンド用の usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible に「false」を指定している場合にこのタグで指定されたメソッドが存在しないとき、属性の設定でエラーになります。usrconf.properties ファイルの ejbserver.cui.checkmethod.compatible キーについては、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「5.2.3 usrconf.properties（サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル）」を参照してください。

3.6.2 DD との対応

MessageDrivenBean 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) EJB2.0 の場合

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-message-bean-property>	1 回		<ejb-jar>	1 回
—	—		<description>	0 または 1 回
—	—		<enterprise-beans>	1 回
—	—		(省略)	—
—	—		<message-driven>	1 回以上
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
<display-name>	1 回以上		<display-name>	0 回以上
<icon>	0 回以上		<icon>	0 回以上
<small-icon>	0 または 1 回		<small-icon>	0 または 1 回
<large-icon>	0 または 1 回		<large-icon>	0 または 1 回
<transaction-type>	1 回		<transaction-type>	1 回
<message-selector>	0 または 1 回		<message-selector>	0 または 1 回
<acknowledge-mode>	0 または 1 回		<acknowledge-mode>	0 または 1 回

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
└	<message-driven-destination>	0 または 1 回	└	<message-driven-destination>	0 または 1 回
	└ <destination-type>	1 回		└ <destination-type>	1 回
	└ <subscription-durability>	0 または 1 回		└ <subscription-durability>	0 または 1 回
└	<env-entry>	0 回以上	└	<env-entry>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <env-entry-name>	1 回		└ <env-entry-name>	1 回
	└ <env-entry-type>	1 回		└ <env-entry-type>	1 回
	└ <env-entry-value>	1 回		└ <env-entry-value>	0 または 1 回
└	<ejb-ref>	0 回以上	└	<ejb-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <ejb-ref-name>	1 回		└ <ejb-ref-name>	1 回
	└ <ejb-ref-type>	1 回		└ <ejb-ref-type>	1 回
	└ <home>	1 回		└ <home>	1 回
	└ <remote>	1 回		└ <remote>	1 回
	└ <ejb-link>	0 または 1 回		└ <ejb-link>	0 または 1 回
└	<ejb-local-ref>	0 回以上	└	<ejb-local-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <ejb-ref-name>	1 回		└ <ejb-ref-name>	1 回
	└ <ejb-ref-type>	1 回		└ <ejb-ref-type>	1 回
	└ <local-home>	1 回		└ <local-home>	1 回
	└ <local>	1 回		└ <local>	1 回
	└ <ejb-link>	0 または 1 回		└ <ejb-link>	0 または 1 回
└	<security-identity>	0 または 1 回	└	<security-identity>	0 または 1 回
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	—	—		└ <use-caller-identity>*	1 回
	└ <run-as>	1 回		└ <run-as>*	1 回
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <role-name>	1 回		└ <role-name>	1 回
	└ <user-name>	1 回		—	—
└	<container-transaction>	0 回以上	└	<container-transaction>	0 回以上

MessageDrivenBean 属性ファイル					Deployment Descriptor				
タグ名			出現パターン		タグ名			出現パターン	
	└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上	
	└	<method>	1 回以上			└	<method>	1 回以上	
		└ <description>	0 回以上				└ <description>	0 回以上	
		└ <method-intf>	0 または 1 回				└ <method-intf>	0 または 1 回	
		└ <method-name>	1 回				└ <method-name>	1 回	
		└ <method-params>	0 または 1 回				└ <method-params>	0 または 1 回	
		└ <method-param>	0 回以上				└ <method-param>	0 回以上	
	└	<trans-attribute>	1 回			└	<trans-attribute>	1 回	
└		<resource-ref>	0 回以上		└		<resource-ref>	0 回以上	
	└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上	
	└	<res-ref-name>	1 回			└	<res-ref-name>	1 回	
	└	<res-type>	1 回			└	<res-type>	1 回	
	└	<res-auth>	1 回			└	<res-auth>	1 回	
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回			└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回	
	└	<mapped-name>	0 または 1 回				—	—	
	└	<linked-to>	0 または 1 回				—	—	
└		<resource-env-ref>	0 回以上		└		<resource-env-ref>	0 回以上	
	└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上	
	└	<resource-env-ref-name>	1 回			└	<resource-env-ref-name>	1 回	
	└	<resource-env-ref-type>	1 回			└	<resource-env-ref-type>	1 回	
	└	<mapped-name>	0 または 1 回				—	—	
	└	<linked-queue>	0 または 1 回				—	—	
		└ <resource-adapter>	1 回				—	—	
		└ <queue>	1 回				—	—	
└		<runtime>	0 または 1 回		└		—	—	
		(省略)	—				—	—	
—	—	—	—		—	—	—	—	

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

(2) EJB2.1 以降の場合

MessageDrivenBean 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
<hitachi-message-bean-property>		1 回	<ejb-jar>		1 回
	—	—		<description>	0 または 1 回
	—	—		<enterprise-beans>	1 回
	—	—		(省略)	—
	—	—		<message-driven>	1 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<display-name>	1 回以上		<display-name>	0 回以上
	<icon>	0 回以上		<icon>	0 回以上
	<small-icon>	0 または 1 回		<small-icon>	0 または 1 回
	<large-icon>	0 または 1 回		<large-icon>	0 または 1 回
	<messaging-type>	0 または 1 回		<messaging-type>	0 または 1 回
	<transaction-type>	1 回		<transaction-type>	1 回
	<activation-config>	0 または 1 回		<activation-config>	0 または 1 回
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<activation-config-property>	1 回以上		<activation-config-property>	1 回以上
	<activation-config-property-name>	1 回		<activation-config-property-name>	1 回
	<activation-config-property-value>	1 回		<activation-config-property-value>	1 回
	<env-entry>	0 回以上		<env-entry>	0 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<env-entry-name>	1 回		<env-entry-name>	1 回
	<env-entry-type>	1 回		<env-entry-type>	1 回
	<env-entry-value>	1 回		<env-entry-value>	0 または 1 回
	<ejb-ref>	0 回以上		<ejb-ref>	0 回以上
	<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
	<ejb-ref-name>	1 回		<ejb-ref-name>	1 回

MessageDrivenBean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	└ <ejb-ref-type>	1 回			└ <ejb-ref-type>	1 回	
	└ <home>	1 回			└ <home>	1 回	
	└ <remote>	1 回			└ <remote>	1 回	
	└ <ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回	
	└ <ejb-local-ref>	0 回以上			└ <ejb-local-ref>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	└ <ejb-ref-name>	1 回			└ <ejb-ref-name>	1 回	
	└ <ejb-ref-type>	1 回			└ <ejb-ref-type>	1 回	
	└ <local-home>	1 回			└ <local-home>	1 回	
	└ <local>	1 回			└ <local>	1 回	
	└ <ejb-link>	0 または 1 回			└ <ejb-link>	0 または 1 回	
	└ <security-identity>	0 または 1 回			└ <security-identity>	0 または 1 回	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	—	—			└ <use-caller-identity>*	1 回	
	└ <run-as>	1 回			└ <run-as>*	1 回	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	└ <role-name>	1 回			└ <role-name>	1 回	
	└ <user-name>	1 回			—	—	
	└ <container-transaction>	0 回以上			└ <container-transaction>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	└ <method>	1 回以上			└ <method>	1 回以上	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	└ <method-intf>	0 または 1 回			└ <method-intf>	0 または 1 回	
	└ <method-name>	1 回			└ <method-name>	1 回	
	└ <method-params>	0 または 1 回			└ <method-params>	0 または 1 回	
	└ <method-param>	0 回以上			└ <method-param>	0 回以上	
	└ <trans-attribute>	1 回			└ <trans-attribute>	1 回	
	└ <resource-ref>	0 回以上			└ <resource-ref>	0 回以上	
	└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上	
	└ <res-ref-name>	1 回			└ <res-ref-name>	1 回	

MessageDrivenBean 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	└	<res-type>	1 回		└	<res-type>	1 回
	└	<res-auth>	1 回		└	<res-auth>	1 回
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
└		<resource-env-ref>	0 回以上	└		<resource-env-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上	└		<description>	0 回以上
	└	<resource-env-ref-name>	1 回	└		<resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	1 回	└		<resource-env-ref-type>	1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		└ <resource-adapter>	1 回			—	—
		└ <queue>	1 回			—	—
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—
		└ <resourceadapter-name>	1 回			—	—
		└ <adminobject-name>	1 回			—	—
└		<runtime>	0 または 1 回			—	—
		(省略)	—			—	—
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<use-caller-identity>と<run-as>のどちらか一つを指定します。

3.6.3 cosminexus.xml との対応

MessageDrivenBean 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

Message Driven Bean 属性ファイル				cosminexus.xml				
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン			
<hitachi-message-bean-property>		1 回		┐	<message>		0 回以上	
	—	—				<ejb-name>*1	1 回	
┐	<security-identity>	0 または 1 回			┐	<security-identity>	0 または 1 回	
	┐ <run-as>	1 回				┐ <run-as>	1 回	
	┐ <description>	0 回以上					—	
	┐ <role-name>	1 回					—	
	┐ <user-name>	1 回				┐ <user-name>	1 回	
┐	<ejb-ref>	0 回以上				—	—	
	┐ <destination>	0 回以上				—	—	
	┐ <ejb-ref-name>	1 回				—	—	
	┐ <ejb-ref-type>	1 回				—	—	
	┐ <home>	1 回				—	—	
	┐ <remote>	1 回				—	—	
	┐ <ejb-link>	0 または 1 回				—	—	
┐	<message-ref>	0 または 1 回			┐	<message-ref>	0 または 1 回	
		Connector1.0 の場合					Connector1.0 の場合	
	┐ <connection-factory>	0 または 1 回				┐ <connection-factory>	0 または 1 回	
	┐ <connection-destination>	1 回				┐ <connection-destination>*2	0 または 1 回	
		┐ <resource-adapter>*3	1 回				┐ <resource-adapter>	1 回
		┐ <queue>*3	0 または 1 回				┐ <queue>*2	0 または 1 回
		Connector1.5 の場合					Connector1.5 の場合	
	┐ <connection-destination>	1 回				┐ <connection-destination>*2	0 または 1 回	
		┐ <resource-adapter>	1 回				┐ <resource-adapter>	1 回
┐	<resource-ref>	0 回以上			┐	<resource-ref>	0 回以上	
	┐ <description>	0 回以上					—	
	┐ <res-ref-name>	1 回				┐ <res-ref-name>	1 回	
	┐ <res-type>	1 回					—	

Message Driven Bean 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	└	<res-auth>	1 回			—	—
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回			—	—
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<linked-to>	0 または 1 回			<linked-to>*2	1 回
└		<resource-env-ref>	0 回以上			<resource-env-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上			—	—
	└	<resource-env-ref-name>	1 回			<resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	1 回			—	—
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			<linked-queue>*2	1 回
		└ <resource-adapter>*3	1 回			└ <resource-adapter>	1 回
		└ <queue>*3	1 回			└ <queue>	1 回
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			<linked-adminobject>*2	1 回
		└ <resourceadapter-name>*4	1 回			└ <resourceadapter-name>	1 回
		└ <adminobject-name>*4	1 回			└ <adminobject-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			<linked-to>*2	1 回
└		<runtime>	0 または 1 回			—	—
	└	<pooled-instance>	1 回			<pooled-instance>*2	0 または 1 回
		└ <minimum>	1 回			└ <minimum>*2	0 または 1 回
		└ <maximum>	1 回			└ <maximum>*2	0 または 1 回
	└	<front-ejb>	0 または 1 回			<front-ejb>	0 または 1 回
└		<start-order>	0 または 1 回			<start-order>	0 または 1 回
└		<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上			<ejb-method-observation-timeout>	0 回以上
	└	<method>	1 回以上			<method>	1 回以上
		└ <description>	0 または 1 回			—	—

Message Driven Bean 属性ファイル					cosminexus.xml					
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン	
		┐	<method-intf>	0 または 1 回				┐	<method-intf>	0 または 1 回
		┐	<method-name>	1 回				┐	<method-name>	1 回
		┐	<method-params>	0 または 1 回				┐	<method-params>	0 または 1 回
			┐ <method-param>	0 回以上					┐ <method-param>	0 回以上
	┐	<method-observation-timeout>		1 回				┐	<method-observation-timeout>	1 回
┐ <ejb-transaction-timeout>				0 回以上			┐ <ejb-transaction-timeout>		0 回以上	
	┐	<method>		1 回以上				┐ <method>	1 回以上	
		┐	<description>	0 または 1 回					—	—
		┐	<method-intf>	0 または 1 回				┐	<method-intf>	0 または 1 回
		┐	<method-name>	1 回				┐	<method-name>	1 回
		┐	<method-params>	0 または 1 回				┐	<method-params>	0 または 1 回
			┐ <method-param>	0 回以上					┐ <method-param>	0 回以上
┐ <transaction-timeout>				1 回			┐ <transaction-timeout>		1 回	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※1

ejb-jar.xml の<ejb-jar>-<enterprise-beans>-<message-driven>-<ejb-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Message-Driven Bean を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>にはキュー名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

タグ名	出現パターン	説明
ト <distributable> 	0 または 1 回	分散したサーブレットコンテナにデプロイできるようにプログラムされている場合に指定。なお、このタグは値を持ちません。
ト <context-param>	0 回以上	コンテキスト初期化パラメタについての定義。
ト <description>※1	0 回以上※1	Context-param の説明。
ト <param-name>	1 回	コンテキスト初期化パラメタ名。
↳ <param-value>	1 回	コンテキスト初期化パラメタの値。
ト <filter-mapping> 	0 回以上	Web アプリケーションのフィルタマッピングの定義。
ト <filter-name>	1 回	マッピングを行うフィルタの名称。
ト <url-pattern> 	1 回以上	マッピングをするサーブレットの URL。 Servlet2.4 以前の WAR に対して、このタグを指定できる回数は 1 回です。<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。 ただし、Servlet2.5 の WAR に対しては、<url-pattern>と<servlet-name>の両方を指定できます。
ト <servlet-name> 	1 回以上	マッピングをするサーブレットの名称。 すべてのサーブレットを意味するアスタリスク (*) を指定できます。Servlet2.4 以前の WAR に対して、このタグを指定できる回数は 1 回です。<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。 ただし、Servlet2.5 の WAR に対しては、<url-pattern>と<servlet-name>の両方を指定できます。
↳ <dispatcher> 	0 または 5 回以下	フィルタの適用条件。 次のどれかを指定します。 FORWARD RequestDispatcher.forward() の処理のときだけフィルタを適用します。 INCLUDE RequestDispatcher.include() の処理のときだけフィルタを適用します。 REQUEST 通常のクライアントからのアクセスのときだけフィルタを適用します。

タグ名			出現パターン	説明
				ASYNC AsyncContext からディスパッチされたときだけフィルタを適用します。09-00 では ASYNC を指定しても無視します。 ERROR 例外処理のときだけフィルタを適用します。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
└	<listener>		0 回以上	リスナーについての定義。
	└	<description>*1	0 回以上	Web アプリケーションリスナー Bean についての説明。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
	└	<display-name>*1	0 回以上	GUI ツール上に表示される Web アプリケーションリスナー Bean の名称。 指定する文字列は一意である必要はありません。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
	└	<icon>*1	0 回以上*1	GUI ツール上に表示される Web アプリケーションリスナー Bean のアイコンの定義。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
		└ <small-icon>	0 または 1 回	Web アプリケーションリスナー Bean の小アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 16×16 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
		└ <large-icon>	0 または 1 回	Web アプリケーションリスナー Bean の大アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 32×32 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
	└	<listener-class>	1 回	設定したリスナークラス名。
└	<session-config>		0 回以上	セッションについての定義。 このタグを複数指定できません。
	└	<session-timeout>	0 または 1 回	デフォルトのセッションタイムアウト間隔 (分)。

タグ名			出現パターン	説明
				-1 (タイムアウトしません), 0 (-1 と等価です), $1 \leq \text{session-timeout} \leq 35791394$ が指定できます。デフォルトは 30 です。
		<mime-mapping>	0 回以上	MIME タイプのマッピングについての定義。※3
		<extension>	1 回	ファイルの拡張子。※3
		<mime-type>	1 回	MIME タイプ。※3
		<welcome-file-list>	0 回以上※1	welcome ファイルについての定義。
		<welcome-file>	1 回以上	welcome ファイル名。
		<error-page>	0 回以上	エラーページについての定義。
		<error-code>※4	どちらか 1 回, またはどちらもなし	HTTP エラーコード。 HTTP エラーコードとエラーページリソースとをマッピングする場合に指定します。 $-2147483648 \leq \text{error-code} \leq 2147483647$ になるように指定してください。<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定するか, どちらも指定しません。
		<exception-type>※4	どちらか 1 回, またはどちらもなし	例外クラス名 (完全修飾名)。 例外タイプとエラーページリソースとをマッピングする場合に指定します。 <error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定するか, どちらも指定しません。
		<location>	1 回	先頭が「/」で始まる値。
		<jsp-config>	0 回以上	Web アプリケーション内の JSP の定義。 このタグを複数指定できません。また, Servlet2.3 以前の WAR に対して, このタグを指定できません。
		<taglib>	0 回以上	Servlet2.4 以降の場合のタグライブラリについての定義。 Servlet2.3 以前の場合は<hitachi-war-property>タグの下で<taglib>で定義します。
		<taglib-uri>	1 回	JSP プログラムの taglib ディレクティブの uri 属性に指定された値。
		<taglib-location>	1 回	tld ファイルの配置場所 (コンテキストルートからの相対パス)。
		<jsp-property-group>	0 回以上	指定した URL パターンに合致する JSP プログラムの個別の設定。

タグ名			出現パターン	説明
		ト <description>*1	0 回以上	Web アプリケーションリスナー Bean についての説明。
		ト <display-name>*1	0 回以上	GUI ツール上に表示される JSP プロパティグループの名称。 指定する文字列は一意である必要はありません。
		ト <icon>*1	0 回以上	GUI ツール上に表示される JSP プロパティグループのアイコンの定義。
		ト <small-icon>	0 または 1 回	JSP プロパティグループの小アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 16×16 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
		ト <large-icon>	0 または 1 回	JSP プロパティグループの大アイコン用の画像ファイル名。 WAR ファイル中での画像ファイルの場所をルートからの相対パスで指定します。画像ファイルのサイズは 32×32 です。画像ファイルの形式は、JPEG ファイルか GIF ファイルです。
		ト <url-pattern>	1 回以上	パラメタを適用する URL パターン。
		ト <el-ignored>	0 または 1 回	EL (式言語) を無視するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (無視する場合) • false (無視しない場合)
		ト <page-encoding>	0 または 1 回	ページエンコーディング名。
		ト <scripting-invalid>	0 または 1 回	スクリプティング要素を無効にするかどうかの指定。
		ト <is-xml>	0 または 1 回	XML 構文で記述されているかどうかの指定。
		ト <include-prelude>	0 回以上	各ページのヘッダとしてインクルードするファイルのパス (コンテキストルートからの相対パス)。
		ト <include-coda>	0 回以上	各ページのフッタとしてインクルードするファイルのパス (コンテキストルートからの相対パス)。
		ト <deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回	EL が使用できない部分で、#{ } の文字列があった場合にエラーにするかの定義。デフォルトは false です。

タグ名			出現パターン	説明
		ト <url-pattern>	1 回以上	Web リソースの URL。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、本タグを指定できる回数は 0 回以上です。
		ト <http-method>	1 回以上	セキュリティ制約を適用する HTTP メソッド。 Servlet2.4 以前の WAR に対して、このタグに指定できる文字列を次に示します。 • DELETE • GET • HEAD • OPTIONS • POST • PUT • TRACE Servlet2.5 以降の WAR に対して、このタグには英数字、および特殊文字 (!#\$%&'*+-.^_` ~) を 1 回以上指定します。
		㇔ <http-method-omission>	1 回以上	セキュリティ制約を適用しない HTTP メソッド。 Servlet3.0 以降の WAR に対して、このタグには英数字、および特殊文字 (!#\$%&'*+-.^_` ~) を 1 回以上指定します。
	ト	<auth-constraint>	0 または 1 回	Web リソースコレクションに対してアクセスを許可するロールについての定義。
		ト <description>* ¹	0 回以上* ¹	auth-constraint の説明。
		㇔ <role-name>	0 回以上	Web リソースコレクションに対してアクセスを許可するロール。
	ト	<user-data-constraint>	0 または 1 回	クライアントとコンテナ間のデータ通信がどのように保護されるのかの定義。
		ト <description>* ¹	0 回以上* ¹	user-data-constraint の説明。
		㇔ <transport-guarantee>	1 回	クライアントとコンテナ間のデータ通信がどのように保護されるのかの定義。 指定できる文字列を次に示します。 NONE アプリケーションはトランスポート保証を必要としません。 INTEGRAL アプリケーションは通信データが伝送中に変更を加えられないような方法でデータ通信をすることを要求します。

タグ名			出現パターン	説明
				CONFIDENTIAL アプリケーションはほかのエンティティが伝送の内容を見ることができないような方法でデータ通信をすることを要求します。
	└	<original-name>	1 回	security-constraint の display-name の設定値を属性出力時に格納し保管します。※5 このタグの設定内容の変更、およびタグ自体の削除はできません。
┌		<login-config>	0 回以上	ログイン方法についての定義。 このタグを複数指定できません。
	┌	<auth-method>	0 または 1 回	認証方式。 指定できる文字列を次に示します。 • BASIC • FORM • CLIENT-CERT デフォルトは BASIC (DIGEST は未サポート)。
	┌	<realm-name>	0 または 1 回	レルム名。 auth-method に BASIC を指定した場合 必須 auth-method に BASIC 以外を指定した場合 cjsetappprop, cjsetresprop で無視されます。
	└	<form-login-config>	0 または 1 回	auth-method に FORM を指定した場合 必須 auth-method に FORM 以外を指定した場合 cjsetappprop, cjsetresprop で無視されます。
		┌ <form-login-page>	1 回	ログイン時に使用するページ。設定する値は先頭を '/' で始めてください。
		└ <form-error-page>	1 回	ログインに失敗したときに表示するエラーページ。設定する値は先頭を '/' で始めてください。
┌		<security-role>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。※6
	┌	<description>※1	0 回以上※1	security-role の説明。※6
	┌	<role-name>	1 回	ロール名称。※6
	└	<linked-to>	0 または 1 回	cjaddsec コマンドで定義したロール名。 cjsetresprop で使用する場合、無視されます。
┌		<env-entry>	0 回以上	環境エントリについての定義。※5

タグ名			出現パターン	説明
	└	<description>*1	0 回以上*1	環境エントリの説明。*5
	└	<env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。*5
	└	<env-entry-type>	0 または 1 回	環境エントリのデータ型。*6 指定できる文字列を次に示します。 • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
	└	<env-entry-value>	1 回	環境エントリの値。*5 env-entry-type で指定した型に適合した値を指定します。 env-entry-type に java.lang.String 以外を指定した場合、空文字の指定はできません。
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。*6
	└	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。*5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	└	<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。 *5
└		<ejb-ref>	0 回以上	リモートインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。*6
	└	<description>*1	0 回以上*1	ejb-ref の説明。*6
	└	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-ref の名称。*6
	└	<ejb-ref-type>	0 または 1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。*6 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	└	<home>	0 または 1 回	リンク先の Home インタフェースクラス名。*6
	└	<remote>	0 または 1 回	リンク先の Component インタフェースクラス名。*6
	└	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。*6

タグ名			出現パターン	説明
				ネーミングの切り替え機能でリンク先を設定する場合、次の形式で指定します。 corbaname::<名前空間のホスト名>:<名前空間のポート番号>#<EJBHomeオブジェクトリファレンスのJNDI名>
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※6
		└ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
└		<ejb-local-ref>	0 回以上	ローカルインタフェースを持つ Enterprise Bean への参照情報についての定義。※6
	└	<description>※1	0 回以上※1	ejb-local-ref の説明。※6
	└	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。※6
	└	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。※6 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	└	<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。※6
	└	<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。※6
	└	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。※6
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※6
		└ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
└		<resource-ref>	0 回以上	リソース参照についての定義。
	└	<description>※1	0 回以上※1	resource-ref の説明。※6
	└	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。※6
	└	<res-type>	0 または 1 回	リソース種別。※6 指定可能な文字列は次のとおり。 • javax.mail.Session

タグ名			出現パターン	説明
				• javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子(<connectionfactory-interface>タグの設定値)を指定します。
		<res-auth>	0 または 1 回	認証方式。※6 指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container Servlet2.5 以降の場合、デフォルトは Container となります。
		<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかを指定します。※6 指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable
		<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。※6 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※6
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
		<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名またはメール表示名を指定します。※6 リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名>

タグ名			出現パターン	説明
				Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の <connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバーリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
└	<resource-env-ref>		0 回以上	リソース環境変数についての定義。※6
	└	<description>※1	0 回以上※1	resource-env-ref の説明。※6
	└	<resource-env-ref-name>	1 回	resource-env-ref の名称。※6
	└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回	リソース環境変数の値のクラスタイプ。※6 指定できる文字列を次に示します。 • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • javax.transaction.UserTransaction • javax.ejb.TimerService • javax.ejb.EJBContext • JavaBeans リソースのクラス名 javax.transaction.UserTransaction, javax.ejb.TimerService, javax.ejb.EJBContext は、アノテーションを使用した場合にだけ出力されます。ただし、この値を設定することはできません。 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
	└	<mapped-name>	0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー※6を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。<linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。

タグ名			出現パターン	説明
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※6
			1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。 ※5
		<linked-queue>	0 または 1 回	対応するデータソース表示名またはメール表示名。 ※6 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。 <resource-env-ref-type>に 「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効 となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。※6 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。※6
		<linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。 cjsetresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ド ル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記 号 (@), ブラケット ([] (]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バック クォート (`), プレイス ({ } (}), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前

タグ名			出現パターン	説明
		<persistence-unit-ref-name>	1 回	永続化ユニットの参照の名称を設定します。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。※6
		<persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定します。※6
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述します。※6
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名を指定します。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定します。※6
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定します。※6
		<post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの定義を記述します。※6
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドを保持するクラスの名称を記述します。省略時は、<post-construct> タグの指定が無視されます。※6
		<lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を記述します。※6
		<pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの定義を記述します。※6
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	pre-destroy メソッドを保持するクラスの名称を記述します。省略時は、<pre-destroy> タグの指定が無視されます。※6
		<lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を記述します。※6
		<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上※1	ロケールとエンコーディング方法のマッピングの設定。 Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを指定できません。
		<locale-encoding-mapping>	1 回以上	ロケールとエンコーディング方法のマッピングの設定。
		<locale>	1 回	ロケールを記述。
		<encoding>	1 回	エンコード方法を記述。
		<runtime>	0 または 1 回	cjsetappprop で使用する場合 必須 cjsetresprop で使用する場合 無視されます。
		<context-root>	1 回	コンテキストルート。

タグ名				出現パターン	説明
					指定できる文字は、URI (RFC3986) で使用できる文字です。ルート指定時は、空文字列またはスラッシュ (/) を指定してください。
				0 または 1 回	スレッド制御グループの設定。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
				1 回	Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数。 占有スレッド数以上の値を指定してください。 1～1024
				1 回	占有スレッド数。 Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下の値を指定してください。 0～1024
				1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちキューサイズ。 0～2147483647
				1 回	稼働統計の監視の設定。
				1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視をします。
				1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
				1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1～100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold> タグの指定値以上の値である必要があります。
				1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0～99 の整数値 (単位: %) で指定します。 デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold> タグの指定値以下の値である必要があります。

タグ名				出現パターン	説明
		└	<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視をします。
		┐	<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
		┐	<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1～100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし, <low-threshold> タグの指定値以上の値である必要があります。
		└	<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0～99 の整数値 (単位: %) で指定します。 デフォルトは 0 です。 ただし, <high-threshold> タグの指定値以下の値である必要があります。
	┐		<resource-watcher>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティ。
		┐	<watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。 1～100 の整数値 (単位: %) を指定します。デフォルトは 80 です。
		┐	<watcher-interval>	1 回	監視間隔。 1～2147483647 の整数値 (単位: 秒) で指定します。デフォルトは 30 です。
		┐	<watcher-enabled>	1 回	リクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。<thread-control-queue-size>に 0 を指定した場合は監視は無効となります。
		└	<watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (出力する) • false (出力しない)

タグ名					出現パターン	説明
						一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。指定例を次に示します。 • /soda/grape/* • /foo/* • /contents • *.foo
		└	<stats-monitor> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「3.4」		1 回	稼働統計の設定。
			└	<waiting-request-count>	1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視。
				┐ <enabled>	1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする）
				┐ <high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限しきい値。指定できる値は、1～100 の整数値（単位：％）です。なお、low-threshold 以上の値を指定してください。
				└ <low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値。指定できる値は、0～99 の整数値（単位：％）です。なお、high-threshold 以下の値を指定してください。
┐	<http-request>				0 または 1 回	－
	└	<encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.6」			0 または 1 回	リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。※7 デフォルトは指定なしです。
┐	<http-response>				0 または 1 回	－
	└	<encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.6」			0 または 1 回	レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。※7 デフォルトは指定なしです。
┐	<jsp>				0 または 1 回	－

タグ名			出現パターン	説明
		└ <page-encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 － 「2.6」	0 または 1 回	JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。※7 デフォルトは指定なしです。
		└ <http-session>	0 または 1 回	－
		└ <http-session-max-number> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 － 「2.7.5」	1 回	使用可能な HttpSession の最大数。 指定できる値は、-1～2147483647 の整数値です。-1 を指定した場合は無制限となります。デフォルトは、-1 です。
		└ <resource-watcher>	1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定。
		└ <watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。 指定できる値は、1～100 の整数値（単位：%）です。デフォルトは 80 です。
		└ <watcher-interval>	1 回	監視間隔。 指定できる値は、1～2147483647 の整数値（単位：秒）です。デフォルトは 30 です。
		└ <watcher-enabled>	1 回	HttpSession 数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする） デフォルトは true です。ただし、http-session-max-number に 0 を指定した場合、監視は無効となります。
		└ <watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。 • true（出力する） • false（出力しない） デフォルトは true です。
		└ <dbsfo> 「機能解説 拡張編」－ 「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能の設定をします。
		└ <enabled>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする）

タグ名			出現パターン	説明
		ト <application-id>	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定します。英数字 (0~9,A~Z,a~z), アンダースコア (_) だけ使用できます。最大 16 文字まで指定できます。
		ト <attribute-data-size-max>	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることができる HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定します。設定可能な範囲は 128~10485760 の整数値 (単位: バイト) です。
		└ <exclude-extensions>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定します。 URL のパスが指定した拡張子と同じ場合, 該当するリクエストでのデータベースセッションフェイルオーバー機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字・小文字は区別しません。 データベースセッションフェイルオーバー機能を抑止する拡張子を設定しない場合は, 空文字列を設定します。 次に示す文字を, 512 文字以内で指定します。 • 英数字 • 括弧 ((),) • エクスクラメーション (!) • パーセント (%) • ドル記号 (\$) • アンパサンド (&) • シングルクォート (') • プラス (+) • ハイフン (-) • イコール (=) • 単価記号 (@) • アンダースコア (_) • チルダ (~) • ピリオド (.) • コンマ (,) 拡張子を複数指定する場合は, コンマ (,) で区切って指定します。
		ト <start-notify-error>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時にエラー通知をするかどうかの指定。 J2EE アプリケーションの開始時に, load-on-startup が指定されているサーブレット/JSP の初期化処理中や, taglib の解析中にエラーが発生した場合, エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。

タグ名						出現パターン	説明
							指定できる文字列を次に示します。 • true (エラーを通知する) • false (エラーを通知しない) デフォルト値は true です。
└	<start-order>					0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
-	-	-	-	-	-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

mime-mapping タグで指定する拡張子と MIME タイプの対応づけのデフォルト値については、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「付録 B.1 拡張子と MIME タイプの対応づけ」を参照してください。

注※4

error-code または exception-type のどちらかです。

注※5

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※6

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※7

デフォルトの文字エンコーディングとして設定できる文字は、JavaVM がサポートしている文字エンコーディングとなります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングについては、JDK のドキュメントのサポートされているエンコーディングに関する説明を参照してください。また、指定できる文字列は、java.nio API 用の正準名と java.lang API 用の正準名に記載されている文字エンコーディング、およびそれらの別名になります。

(2) web.xml を含まない場合 (Servlet2.5 以降)

タグ名						出現パターン	説明
<hitachi-war-property>						1 回	ルートタグ。
└	<description>* ¹					0 回以上* ¹	WAR の説明。* ⁵
└	<display-name>* ¹					1 回以上* ¹	WAR の表示名。* ⁵ xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。

タグ名	出現パターン	説明
 		1 ≤ 文字列長 xml:lang 属性が"en"のタグの場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_) xml:lang 属性が"en"のタグ以外の場合、文字の制限はありません。
└ <icon>*1 	0 回以上*1	Deploy ツール上に表示される Web アプリケーションのアイコンの定義。*5
└ <small-icon> 	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
└ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
└ <security-role>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
└ <description>*1	0 回以上*1	security-role の説明。*5
└ <role-name>	1 回	ロール名称。*5
└ <linked-to> 	0 または 1 回	cjaddsec コマンドで定義したロール名。 cjsetresprop で使用する場合、無視されます。
└ <env-entry>	0 または 1 回	環境エントリについての定義。*5
└ <description>*1	0 回以上*1	環境エントリの説明。*5
└ <env-entry-name>	1 回	環境エントリの名称。*5
└ <env-entry-type> 	1 回	環境エントリのデータ型。*5 指定できる文字列を次に示します。 • java.lang.Boolean • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Integer • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Double • java.lang.String • java.lang.Character
└ <env-entry-value> 	1 回	環境エントリの値。*5

タグ名			出現パターン	説明
	ト	<description>※1	0 回以上※1	ejb-local-ref の説明。※6
	ト	<ejb-ref-name>	1 回	ejb-local-ref の名称。※6
	ト	<ejb-ref-type>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の種別。※6 指定できる文字列を次に示します。 • Entity • Session
	ト	<local-home>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Home インタフェース名。※6
	ト	<local>	1 回	リンク先の Enterprise Bean の Local Component インタフェース名。※6
	ト	<ejb-link>	0 または 1 回	リンク先の ejb-name。※6
	ㇿ	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※5
	ト	<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
	ㇿ	<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
ト		<resource-ref>	0 回以上	リソース参照についての定義。※5
	ト	<description>※1	0 回以上※1	resource-ref の説明。※6
	ト	<res-ref-name>	1 回	resource-ref の名称。※6
	ト	<res-type>	0 または 1 回	リソース種別。※6 指定可能な文字列は次のとおり。 • javax.mail.Session • javax.sql.DataSource • javax.jms.QueueConnectionFactory • javax.jms.ConnectionFactory • javax.resource.cci.ConnectionFactory • org.omg.CORBA_2_3.ORB (DD で定義しなくても lookup できるリソース) • javax.jms.TopicConnectionFactory 参照先が Connector1.5 のリソースアダプタの場合、参照先リソースアダプタのコネクション定義識別子 (<connectionfactory-interface> タグの設定値) を指定します。
	ト	<res-auth>	0 または 1 回	認証方式。※6

タグ名			出現パターン	説明
				指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container Servlet2.5 以降の場合、デフォルトは Container となります。
		<res-sharing-scope>	0 または 1 回	参照したリソースを共有するかどうかを指定します。※6 指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable
		<mapped-name>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名またはメール表示名。※5 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定。※5
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5
		<linked-to>	0 または 1 回	対応するリソースアダプタ表示名、データソース表示名またはメール表示名を指定します。※6 リソースアダプタ表示名の指定方法は、リソースアダプタのバージョンによって異なります。 Connector1.0 以前 <リソースアダプタの表示名> Connector1.5 以降の Outbound リソースアダプタ <リソースアダプタ表示名>!<コネクション定義識別子> <コネクション定義識別子>とは、ra.xml の<connectionfactory-interface>タグで指定した値のことです。 クラスタコネクションプール（互換機能）のメンバリソースアダプタは指定できません。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。

タグ名			出現パターン	説明
ト	<resource-env-ref>		0 回以上	リソース環境変数についての定義。※6
ト	<description>※1		0 回以上※1	resource-env-ref の説明。※6
ト	<resource-env-ref-name>		1 回	resource-env-ref の名称。※6
ト	<resource-env-ref-type>		1 回	リソース環境変数の値のクラスタイプ。※6 指定できる文字列を次に示します。 • javax.jms.Queue • javax.jms.Topic • javax.transaction.UserTransaction • javax.ejb.TimerService • javax.ejb.EJBContext • JavaBeans リソースのクラス名 javax.transaction.UserTransaction, javax.ejb.TimerService, javax.ejb.EJBContext は、アノテーションを使用した場合にだけ出力されます。ただし、この値を設定することはできません。 <linked-adminobject>を指定した場合は、任意のクラス名が表示されます。
ト	<mapped-name>		0 または 1 回	<resource-env-ref-type>が「javax.jms.Queue」の場合、対応するキュー※5を次の形式で表示します。 "<リソースアダプタの表示名>#<Queue 名称>" <linked-Queue>タグと同時に指定した場合は、<linked-Queue>タグが有効となります。 <resource-env-ref-type>が「JavaBeans リソースのクラス名」の場合、対応する JavaBeans リソースの表示名を表示します。 <linked-to>タグと同時に指定した場合は、<linked-to>タグが有効となります。
ト	<injection-target>		0 回以上	Dependency Injection の設定。※5
ト	<injection-target-class>		1 回	injection の対象となるクラス名。※5 パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから表示します。
ト	<injection-target-name>		1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子。※5

タグ名			出現パターン	説明
		<linked-queue>	0 または 1 回	対応するデータソース表示名またはメール表示名。※6 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。 <resource-env-ref-type>に「javax.jms.Queue」が指定された場合だけ有効となります。
		<resource-adapter>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。※6 Connector1.5 のリソースアダプタは指定できません。
		<queue>	1 回	キューの表示名を指定します。※6
		<linked-adminobject>	0 または 1 回	管理対象オブジェクト。 cjsetresprop では無視されます。
		<resourceadapter-name>	1 回	リソースアダプタの表示名を指定します。 Connector1.0 以前のリソースアダプタは指定できません。
		<adminobject-name>	1 回	管理対象オブジェクト名を指定します。 英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バレーン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス { } (}), ストローク (), チルダ (~) ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。

タグ名			出現パターン	説明
	└	<linked-to>	0 または 1 回	JavaBeans リソースの表示名を指定します。 ※6 <resource-env-ref-type>に「JavaBeans リソースのクラス名」が指定された場合だけ有効となります。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
┐		<persistence-context-ref>	0 回以上	永続化コンテキストの設定を記述。※5
	┐	<description>※1	0 回以上	永続化コンテキストについての説明を記述。 ※6
	┐	<persistence-context-ref-name>	1 回	永続化コンテキストの参照の名称を設定する。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。※6
	┐	<persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定する。※6
	┐	<persistence-context-type>	0 または 1 回	永続化コンテキストの参照の transactional nature を設定する。指定可能な文字列は以下のとおり。※6 • Transaction • Extended
	┐	<persistence-property>	0 回以上	コンテナまたは、永続化プロバイダのプロパティを設定する。※6
		┐ <name>	1 回	プロパティの名称を設定する。※6
		└ <value>	1 回	プロパティの値を設定する。※6
	└	<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述。※6
		┐ <injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名を指定。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定。※6
		└ <injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定。
┐		<persistence-unit-ref>	0 回以上	永続化ユニットの参照の設定を記述。※5
	┐	<description>※1	0 回以上	永続化ユニットの参照についての説明を記述。※6

タグ名			出現パターン	説明
		<persistence-unit-ref-name>	1 回	永続化ユニットの参照の名称を設定する。名称は java:comp/env コンテキストに関連づけられた JNDI 名。※6
		<persistence-unit-name>	0 または 1 回	永続化ユニットの名前を設定する。※6
		<injection-target>	0 回以上	Dependency Injection の設定を記述。※6
		<injection-target-class>	1 回	injection の対象となるクラス名を指定。パッケージが定義されている場合は、そのパッケージから指定。※6
		<injection-target-name>	1 回	指定したクラスの injection 対象となる識別子を指定。※6
		<post-construct>	0 回以上	post-construct メソッドの定義を記述。※5
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	post-construct メソッドを保持するクラスの名称を記述。省略時は、<post-construct> タグの指定が無視されます。※6
		<lifecycle-callback-method>	1 回	post-construct メソッド名を記述。※6
		<pre-destroy>	0 回以上	pre-destroy メソッドの定義を記述。※5
		<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回	pre-destroy メソッドを保持するクラスの名称を記述。省略時は、<pre-destroy> タグの指定が無視されます。※6
		<lifecycle-callback-method>	1 回	pre-destroy メソッド名を記述。※6
		<runtime>	0 または 1 回	cjsetappprop で使用する場合は必須 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
		<context-root>	1 回	コンテキストルート。 指定できる文字は、URI (RFC3986) で使用できる文字です。ルート指定時は、空文字列またはスラッシュ (/) を指定してください。
		<thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.15」	0 または 1 回	スレッド制御グループの設定。 cjsetresprop で使用する場合は無視されます。
		<thread-control-max-threads>	1 回	Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数。

タグ名				出現パターン	説明
					占有スレッド数以上の値を指定してください。 1～1024
			<thread-control-exclusive-threads>	1 回	占有スレッド数。 Web アプリケーション単位の最大同時実行スレッド数以下の値を指定してください。 0～1024
			<thread-control-queue-size>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちキューサイズ。 0～2147483647
			<thread-control-stats-monitor> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「3.4」	1 回	稼働統計の監視の設定。
			<whole-waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視をします。
			<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の全体実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする） デフォルトは true です。
			<high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1～100 の整数値（単位：%）で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold>タグの指定値以上の値である必要があります。
			<low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0～99 の整数値（単位：%）で指定します。デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold>タグの指定値以下の値である必要があります。
			<waiting-request-count>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視をします。
			<enabled>	1 回	Web アプリケーション単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。

タグ名				出現パターン	説明
					• true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。
			ト <high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限のしきい値を 1~100 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 80 です。 ただし、<low-threshold> タグの指定値以上の値である必要があります。
			└ <low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値を 0~99 の整数値 (単位: %) で指定します。デフォルトは 0 です。 ただし、<high-threshold> タグの指定値以下の値である必要があります。
			ト <resource-watcher>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視に関するプロパティ。
			ト <watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。1~100 の整数値 (単位: %) を指定します。デフォルトは 80 です。
			ト <watcher-interval>	1 回	監視間隔。 1~2147483647 の整数値 (単位: 秒) で指定します。デフォルトは 30 です。
			ト <watcher-enabled>	1 回	Web アプリケーション単位のリクエスト実行待ちキュー格納数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (有効にする) • false (無効にする) デフォルトは true です。ただし、thread-control-queue-size に 0 を指定した場合、監視は無効となります。
			└ <watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true (出力する) • false (出力しない) デフォルトは true です。

タグ名			出現パターン	説明
	└	<urlgroup-thread-control> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」 －「2.16」	0 回以上	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御。
		└ <urlgroup-thread-control-name>	1 回	URL グループ単位の同時実行スレッド数制御の定義名。 URL グループ単位の同時スレッド数制御の定義名には Web アプリケーション内で一意となる文字列を指定します。英数字 (0～9, A～Z, a～z), ハイフン (-) およびアンダースコア (_) が使用できます。文字列の長さは $1 \leq \text{文字列長} \leq 64$ で指定してください。
		└ <urlgroup-thread-control-max-threads>	1 回	URL グループ単位の最大同時実行スレッド数。 $1 \sim \text{thread-control-max-threads}$ の整数値を指定します。
		└ <urlgroup-thread-control-exclusive-threads>	1 回	URL グループ単位の占有スレッド数。 指定できる値は、 $0 \sim \text{urlgroup-thread-control-max-threads}$ かつ $\text{thread-control-exclusive-threads}$ 以下です。なお、<urlgroup-thread-control>を定義している場合は次の設定範囲を満たす必要があります。 • $\text{thread-control-max-threads} \neq \text{thread-control-exclusive-threads}$ の場合 $\text{thread-control-exclusive-threads} \geq \text{urlgroup-thread-control-exclusive-threads}$ の総和。 • $\text{thread-control-max-threads} = \text{thread-control-exclusive-threads}$ の場合 $\text{thread-control-exclusive-threads} > \text{urlgroup-thread-control-exclusive-threads}$ の総和。
		└ <urlgroup-thread-control-queue-size>	1 回	URL グループ単位の実行待ちキューのサイズ。 指定できる値は、 $0 \sim 2147483647$ の整数値です。
		└ <urlgroup-thread-control-mapping>	0 回以上	制御対象となる URL のマッピング情報。
		└ └ <url-pattern>	1 回	制御対象となる URL パターン。

タグ名					出現パターン	説明
						一つの Web アプリケーション内で同じ URL パターンを指定することはできません。指定例を次に示します。 • /soda/grape/* • /foo/* • /contents • *.foo
		└	<stats-monitor> 「機能解説 運用／監視／連携編」－「3.4」		1 回	稼働統計の設定。
			└	<waiting-request-count>	1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数を監視。
				┐ <enabled>	1 回	URL グループ単位の実行待ちリクエスト数の監視のしきい値イベントを有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする）
				┐ <high-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する上限しきい値。 指定できる値は、1～100 の整数値（単位：%）です。なお、low-threshold 以上の値を指定してください。
				└ <low-threshold>	1 回	しきい値イベントを出力する下限しきい値。 指定できる値は、0～99 の整数値（単位：%）です。なお、high-threshold 以下の値を指定してください。
┐	<http-request>				0 または 1 回	－
	└	<encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.6」			0 または 1 回	リクエストボディ、およびクエリのデコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。※7 デフォルトは指定なしです。
┐	<http-response>				0 または 1 回	－
	└	<encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.6」			0 または 1 回	レスポンスボディのエンコードに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。※7 デフォルトは指定なしです。

タグ名			出現パターン	説明
ト	<jsp>		0 または 1 回	—
	└	<page-encoding> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.6」	0 または 1 回	JSP ファイルの読み込みに使用するデフォルトのエンコーディングを指定します。 JavaVM がサポートしている文字エンコーディングを指定します。 ^{※7} デフォルトは指定なしです。
ト	<http-session>		0 または 1 回	—
	ト	<http-session-max-number> 「機能解説 基本・開発編(Web コンテナ)」－「2.7.5」	1 回	使用可能な HttpSession の最大数。 指定できる値は、-1～2147483647 の整数値です。-1 を指定した場合は無制限となります。デフォルトは、-1 です。
	ト	<resource-watcher>	1 回	HttpSession 数の監視に関するプロパティを設定。
		ト <watcher-threshold>	1 回	アラートメッセージを出力するしきい値。 指定できる値は、1～100 の整数値（単位：%）です。デフォルトは 80 です。
		ト <watcher-interval>	1 回	監視間隔。 指定できる値は、1～2147483647 の整数値（単位：秒）です。デフォルトは 30 です。
		ト <watcher-enabled>	1 回	HttpSession 数の監視を有効にするかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • true（有効にする） • false（無効にする） デフォルトは true です。ただし、http-session-max-number に 0 を指定した場合、監視は無効となります。
		└ <watcher-writefile-enabled>	1 回	リソース使用状況をファイルに出力するかどうかの指定。指定できる文字列を次に示します。 • true（出力する） • false（出力しない） デフォルトは true です。
	└	<dbso> 「機能解説 拡張編」－「6 章」	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバー機能の設定を行う。

タグ名			出現パターン	説明
		ト <enabled>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能の有効、無効を設定する。有効の場合は"true", 無効の場合は"false"を指定する。
		ト <application-id>	0 または 1 回	アプリケーション識別子を設定する。英数字(0~9,A~Z,a~z), アンダースコア(_)だけ使用可。最大 16 文字。
		ト <attribute-data-size-max>	0 または 1 回	グローバルセッション情報に含めることが可能な HTTP セッションの属性情報の最大サイズを設定する。設定可能な範囲は 128~10485760 の整数値 (単位: バイト)。
		┐ <exclude-extensions>	0 または 1 回	データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定します。 URL のパスが指定した拡張子と同じ場合, 該当するリクエストでデータベースセッションフェイルオーバ機能は無効となります。指定した拡張子と URL の比較では大文字・小文字は区別しません。 データベースセッションフェイルオーバ機能を抑止する拡張子を設定しない場合は, 空文字列を設定します。 次に示す文字を, 512 文字以内で指定します。 • 英数字 • 括弧 ((), ()) • エクスクラメーション (!) • パーセント (%) • ドル記号 (\$) • アンパサンド (&) • シングルクオート ('') • プラス (+) • ハイフン (-) • イコール (=) • 単価記号 (@) • アンダースコア (_) • チルダ (~) • ピリオド (.) • コンマ (,) 拡張子を複数指定する場合は, コンマ (,) で区切って指定します。
		ト <start-notify-error>	0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時にエラー通知をするかどうかの指定。

タグ名						出現パターン	説明
							J2EE アプリケーションの開始時に、load-on-startup が指定されているサーブレット/JSP の初期化処理中や、taglib の解析中にエラーが発生した場合、エラーを通知してアプリケーションの開始を中断するかどうかを指定します。 指定できる文字列を次に示します。 • true (エラーを通知する) • false (エラーを通知しない) デフォルト値は true です。
└	<start-order>					0 または 1 回	J2EE アプリケーション開始時および停止時の順番。 開始時は昇順で開始処理が行われ、終了時は降順に停止処理が行われます。 $0 \leq \text{start-order} \leq 2147483647$
-	-	-	-	-	-	-	-

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en (英語)」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

mime-mapping タグで指定する拡張子と MIME タイプの対応づけのデフォルト値については、マニュアル「アプリケーションサーバ リファレンス 定義編(サーバ定義)」の「付録 B.1 拡張子と MIME タイプの対応づけ」を参照してください。

注※4

error-code または exception-type のどちらかです。

注※5

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対し、タグ名の変更、タグの追加・削除、値の変更をしてはいけません。

注※6

アノテーションの設定値の場合は、値の変更をしてはいけません。

注※7

デフォルトの文字エンコーディングとして設定できる文字は、JavaVM がサポートしている文字エンコーディングとなります。JavaVM がサポートしている文字エンコーディングについては、JDK のドキュメントのサポートされているエンコーディングに関する説明を参照してください。また、指定できる文字列は、java.nio API 用の正準名と java.lang API 用の正準名に記載されている文字エンコーディング、およびそれらの別名になります。

3.7.2 DD との対応

WAR 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) Servlet2.3 の場合

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-war-property>	1 回		<web-app>	1 回
└ <description>	0 または 1 回		└ <description>	0 または 1 回
└ <display-name>	1 回		└ <display-name>	0 または 1 回
└ <icon>	0 または 1 回		└ <icon>	0 または 1 回
└ └ <small-icon>	0 または 1 回		└ └ <small-icon>	0 または 1 回
└ └ <large-icon>	0 または 1 回		└ └ <large-icon>	0 または 1 回
└ <distributable>	0 または 1 回		└ <distributable>	0 回以上
└ <context-param>	0 回以上		└ <context-param>	0 回以上
└ └ <description>	0 または 1 回		└ └ <description>	0 または 1 回
└ └ <param-name>	1 回		└ └ <param-name>	1 回
└ └ <param-value>	1 回		└ └ <param-value>	1 回
└ <filter-mapping>	0 回以上		└ <filter-mapping>	0 回以上
└ └ <filter-name>	1 回		└ └ <filter-name>	1 回
└ └ <url-pattern>*1	1 回		└ └ <url-pattern>*1	1 回
└ └ <servlet-name>*1	1 回		└ └ <servlet-name>*1	1 回
└ <listener>	0 回以上		└ <listener>	0 回以上
└ └ <listener-class>	1 回		└ └ <listener-class>	1 回
└ ─	─		└ (省略)	─
└ <session-config>	0 または 1 回		└ <session-config>	0 または 1 回
└ └ <session-timeout>	0 または 1 回		└ └ <session-timeout>	0 または 1 回
└ <mime-mapping>	0 回以上		└ <mime-mapping>	0 回以上
└ └ <extension>	1 回		└ └ <extension>	1 回
└ └ <mime-type>	1 回		└ └ <mime-type>	1 回
└ <welcome-file-list>	0 または 1 回		└ <welcome-file-list>	0 または 1 回
└ └ <welcome-file>	1 回以上		└ └ <welcome-file>	1 回以上
└ <error-page>	0 回以上		└ <error-page>	0 回以上
└ └ <error-code>*2	1 回		└ └ <error-code>*2	1 回
└ └ <exception-type>*2	1 回		└ └ <exception-type>*2	1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回
┌ <taglib>			0 回以上	┌ <taglib>			0 回以上
	┌	<taglib-uri>	1 回		┌	<taglib-uri>	1 回
	└	<taglib-location>	1 回		└	<taglib-location>	1 回
┌ <security-constraint>			0 回以上	┌ <security-constraint>			0 回以上
	┌	<display-name>	0 または 1 回		┌	<display-name>	0 または 1 回
	┌	<web-resource-collection>	1 回以上		┌	<web-resource-collection>	1 回以上
		┌ <description>	0 または 1 回			┌ <description>	0 または 1 回
		┌ <web-resource-name>	1 回			┌ <web-resource-name>	1 回
		┌ <url-pattern>	0 回以上			┌ <url-pattern>	0 回以上
		└ <http-method>	0 回以上			└ <http-method>	0 回以上
	┌	<auth-constraint>	0 または 1 回		┌	<auth-constraint>	0 または 1 回
		┌ <description>	0 または 1 回			┌ <description>	0 または 1 回
		└ <role-name>	0 回以上			└ <role-name>	0 回以上
	┌	<user-data-constraint>	0 または 1 回		└	<user-data-constraint>	0 または 1 回
		┌ <description>	0 または 1 回			┌ <description>	0 または 1 回
		└ <transport-guarantee>	1 回			└ <transport-guarantee>	1 回
	└	<original-name>	1 回			—	—
┌ <login-config>			0 または 1 回	┌ <login-config>			0 または 1 回
	┌	<auth-method>	0 または 1 回		┌	<auth-method>	0 または 1 回
	┌	<realm-name>	0 または 1 回		┌	<realm-name>	0 または 1 回
	└	<form-login-config>	0 または 1 回		└	<form-login-config>	0 または 1 回
		┌ <form-login-page>	1 回			┌ <form-login-page>	1 回
		└ <form-error-page>	1 回			└ <form-error-page>	1 回
┌ <security-role>			0 回以上	┌ <security-role>			0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回
	┌	<role-name>	1 回		└	<role-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
┌ <env-entry>			0 回以上	┌ <env-entry>			0 回以上
	┌	<description>	0 または 1 回		┌	<description>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	ト	<env-entry-name>	1 回		ト	<env-entry-name>	1 回
	ト	<env-entry-type>	1 回		ト	<env-entry-type>	1 回
	ㄣ	<env-entry-value>	1 回		ㄣ	<env-entry-value>	0 または 1 回
ト		<ejb-ref>	0 回以上	ト		<ejb-ref>	0 回以上
	ト	<description>	0 または 1 回		ト	<description>	0 または 1 回
	ト	<ejb-ref-name>	1 回		ト	<ejb-ref-name>	1 回
	ト	<ejb-ref-type>	1 回		ト	<ejb-ref-type>	1 回
	ト	<home>	1 回		ト	<home>	1 回
	ト	<remote>	1 回		ト	<remote>	1 回
	ㄣ	<ejb-link>	0 または 1 回		ㄣ	<ejb-link>	0 または 1 回
ト		<ejb-local-ref>	0 回以上	ト		<ejb-local-ref>	0 回以上
	ト	<description>	0 または 1 回		ト	<description>	0 または 1 回
	ト	<ejb-ref-name>	1 回		ト	<ejb-ref-name>	1 回
	ト	<ejb-ref-type>	1 回		ト	<ejb-ref-type>	1 回
	ト	<local-home>	1 回		ト	<local-home>	1 回
	ト	<local>	1 回		ト	<local>	1 回
	ㄣ	<ejb-link>	0 または 1 回		ㄣ	<ejb-link>	0 または 1 回
ト		<resource-ref>	0 回以上	ト		<resource-ref>	0 回以上
	ト	<description>	0 または 1 回		ト	<description>	0 または 1 回
	ト	<res-ref-name>	1 回		ト	<res-ref-name>	1 回
	ト	<res-type>	1 回		ト	<res-type>	1 回
	ト	<res-auth>	1 回		ト	<res-auth>	1 回
	ト	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		ㄣ	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	ㄣ	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
ト		<resource-env-ref>	0 回以上	ト		<resource-env-ref>	0 回以上
	ト	<description>	0 または 1 回		ト	<description>	0 または 1 回
	ト	<resource-env-ref-name>	1 回		ト	<resource-env-ref-name>	1 回
	ト	<resource-env-ref-type>	1 回		ㄣ	<resource-env-ref-type>	1 回
	ト	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		ト <resource-adapter>	1 回			—	—

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor			
タグ名					出現パターン			
		└	<queue>		1 回			—
		└	<linked-adminobject>		0 または 1 回			—
		┐	<resourceadapter-name>		1 回			—
		└	<adminobject-name>		1 回			—
		└	<runtime>		0 または 1 回			—
		└	<context-root>		1 回			—
—	—	—	—		—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(2) Servlet2.4 の場合

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor				
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン
<hitachi-war-property>				1 回	<web-app>				1 回
┌	<description>			0 回以上	┌	<description>			0 回以上
┌	<display-name>			1 回以上	┌	<display-name>			0 回以上
┌	<icon>			0 回以上	┌	<icon>			0 回以上
┆	┌	<small-icon>		0 または 1 回	┆	┌	<small-icon>		0 または 1 回
┆	└	<large-icon>		0 または 1 回	┆	└	<large-icon>		0 または 1 回
┌	<distributable>			0 または 1 回	┌	<distributable>			0 回以上
┌	<context-param>			0 回以上	┌	<context-param>			0 回以上
┆	┌	<description>		0 回以上	┆	┌	<description>		0 回以上
┆	┌	<param-name>		1 回	┆	┌	<param-name>		1 回
┆	└	<param-value>		1 回	┆	└	<param-value>		1 回
┌	<filter-mapping>			0 回以上	┌	<filter-mapping>			0 回以上
┆	┌	<filter-name>		1 回	┆	┌	<filter-name>		1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<url-pattern>*1	1 回		└	<url-pattern>*1	1 回
	└	<servlet-name>*1	1 回		└	<servlet-name>*1	1 回
	└	<dispatcher>	0 または 4 回 以下		└	<dispatcher>	0 または 4 回 以下
└		<listener>	0 回以上	└		<listener>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<display-name>	0 回以上		└	<display-name>	0 回以上
	└	<icon>	0 回以上		└	<icon>	0 回以上
		└ <small-icon>	0 または 1 回			└ <small-icon>	0 または 1 回
		└ <large-icon>	0 または 1 回			└ <large-icon>	0 または 1 回
	└	<listener-class>	1 回		└	<listener-class>	1 回
		—	—			(省略)	—
└		<session-config>	0 回以上	└		<session-config>	0 回以上
	└	<session-timeout>	0 または 1 回		└	<session-timeout>	0 または 1 回
└		<mime-mapping>	0 回以上	└		<mime-mapping>	0 回以上
	└	<extension>	1 回		└	<extension>	1 回
	└	<mime-type>	1 回		└	<mime-type>	1 回
└		<welcome-file-list>	0 回以上	└		<welcome-file-list>	0 回以上
	└	<welcome-file>	1 回以上		└	<welcome-file>	1 回以上
└		<error-page>	0 回以上	└		<error-page>	0 回以上
	└	<error-code>*2	1 回		└	<error-code>*2	1 回
	└	<exception-type>*2	1 回		└	<exception-type>*2	1 回
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回
└		<jsp-config>	0 回以上	└		<jsp-config>	0 回以上
	└	<taglib>	0 回以上		└	<taglib>	0 回以上
		└ <taglib-uri>	1 回			└ <taglib-uri>	1 回
		└ <taglib-location>	1 回			└ <taglib-location>	1 回
	└	<jsp-property-group>	0 回以上		└	<jsp-property-group>	0 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		└ <display-name>	0 回以上			└ <display-name>	0 回以上

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor				
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン
		┐	<icon>	0 回以上			┐	<icon>	0 回以上
		┐	<small-icon>	0 または 1 回			┐	<small-icon>	0 または 1 回
		└	<large-icon>	0 または 1 回			└	<large-icon>	0 または 1 回
		┐	<url-pattern>	1 回以上			┐	<url-pattern>	1 回以上
		┐	<el-ignored>	0 または 1 回			┐	<el-ignored>	0 または 1 回
		┐	<page-encoding>	0 または 1 回			┐	<page-encoding>	0 または 1 回
		┐	<scripting-invalid>	0 または 1 回			┐	<scripting-invalid>	0 または 1 回
		┐	<is-xml>	0 または 1 回			┐	<is-xml>	0 または 1 回
		┐	<include-prelude>	0 回以上			┐	<include-prelude>	0 回以上
		└	<inlcude-coda>	0 回以上			└	<inlcude-coda>	0 回以上
┐	<security-constraint>			0 回以上	┐	<security-constraint>			0 回以上
	┐	<display-name>		0 回以上		┐	<display-name>		0 回以上
	┐	<web-resource-collection>		1 回以上		┐	<web-resource-collection>		1 回以上
		┐	<description>	0 回以上			┐	<description>	0 回以上
		┐	<web-resource-name>	1 回			┐	<web-resource-name>	1 回
		┐	<url-pattern>	1 回以上			┐	<url-pattern>	1 回以上
		└	<http-method>	0 回以上			└	<http-method>	0 回以上
	┐	<auth-constraint>		0 または 1 回		┐	<auth-constraint>		0 または 1 回
		┐	<description>	0 回以上			┐	<description>	0 回以上
		└	<role-name>	0 回以上			└	<role-name>	0 回以上
	┐	<user-data-constraint>		0 または 1 回		└	<user-data-constraint>		0 または 1 回
		┐	<description>	0 回以上			┐	<description>	0 回以上
		└	<transport-guarantee>	1 回			└	<transport-guarantee>	1 回
	└	<original-name>		1 回			—		—
┐	<login-config>			0 回以上	┐	<login-config>			0 回以上
	┐	<auth-method>		0 または 1 回		┐	<auth-method>		0 または 1 回
	┐	<realm-name>		0 または 1 回		┐	<realm-name>		0 または 1 回
	└	<form-login-config>		0 または 1 回		└	<form-login-config>		0 または 1 回
		┐	<form-login-page>	1 回			┐	<form-login-page>	1 回
		└	<form-error-page>	1 回			└	<form-error-page>	1 回

WAR 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
└	<security-role>	0 回以上	└	<security-role>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <role-name>	1 回		└ <role-name>	1 回
	└ <linked-to>	0 または 1 回		└ —	—
└	<env-entry>	0 回以上	└	<env-entry>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <env-entry-name>	1 回		└ <env-entry-name>	1 回
	└ <env-entry-type>	1 回		└ <env-entry-type>	1 回
	└ <env-entry-value>	1 回		└ <env-entry-value>	0 または 1 回
	└ <injection-target>	0 回以上		└ —	—
	└ └ <injection-target-class>	1 回		└ └ —	—
	└ └ <injection-target-name>	1 回		└ └ —	—
└	<ejb-ref>	0 回以上	└	<ejb-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <ejb-ref-name>	1 回		└ <ejb-ref-name>	1 回
	└ <ejb-ref-type>	1 回		└ <ejb-ref-type>	1 回
	└ <home>	1 回		└ <home>	1 回
	└ <remote>	1 回		└ <remote>	1 回
	└ <ejb-link>	0 または 1 回		└ <ejb-link>	0 または 1 回
	└ <injection-target>	0 回以上		└ —	—
	└ └ <injection-target-class>	1 回		└ └ —	—
	└ └ <injection-target-name>	1 回		└ └ —	—
└	<ejb-local-ref>	0 回以上	└	<ejb-local-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <ejb-ref-name>	1 回		└ <ejb-ref-name>	1 回
	└ <ejb-ref-type>	1 回		└ <ejb-ref-type>	1 回
	└ <local-home>	1 回		└ <local-home>	1 回
	└ <local>	1 回		└ <local>	1 回
	└ <ejb-link>	0 または 1 回		└ <ejb-link>	0 または 1 回
	└ <injection-target>	0 回以上		└ —	—

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
└	<resource-ref>		0 回以上	└	<resource-ref>		0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<res-ref-name>	1 回		└	<res-ref-name>	1 回
	└	<res-type>	1 回		└	<res-type>	1 回
	└	<res-auth>	1 回		└	<res-auth>	1 回
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<injection-target>	0 回以上			—	—
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
└	<resource-env-ref>		0 回以上	└	<resource-env-ref>		0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<resource-env-ref-name>	1 回		└	<resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	1 回		└	<resource-env-ref-type>	1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回			—	—
	└	<injection-target>	0 回以上			—	—
		└ <injection-target-class>	1 回			—	—
		└ <injection-target-name>	1 回			—	—
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		└ <resource-adapter>	1 回			—	—
		└ <queue>	1 回			—	—
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—
		└ <resourceadapter-name>	1 回			—	—
		└ <adminobject-name>	1 回			—	—
└	<locale-encoding-mapping-list>		0 回以上	└	<locale-encoding-mapping-list>		0 回以上
	└	<locale-encoding-mapping>	1 回以上		└	<locale-encoding-mapping>	1 回以上
		└ <locale>	1 回			└ <locale>	1 回

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor				
タグ名				出現パターン	タグ名				出現パターン
		└	<encoding>	1 回			└	<encoding>	1 回
└ <runtime>				0 または 1 回		—			—
		└	<context-root>	1 回		—			—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つを指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(3) Servlet2.5 の場合

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
<hitachi-war-property>			1 回	<web-app>			1 回
┌	<description>		0 回以上	┌	<description>		0 回以上
┌	<display-name>		1 回以上	┌	<display-name>		0 回以上
┌	<icon>		0 回以上	┌	<icon>		0 回以上
┌	┌	<small-icon>	0 または 1 回	┌	┌	<small-icon>	0 または 1 回
┌	└	<large-icon>	0 または 1 回	┌	└	<large-icon>	0 または 1 回
┌	<distributable>		0 または 1 回	┌	<distributable>		0 回以上
┌	<context-param>		0 回以上	┌	<context-param>		0 回以上
┌	┌	<description>	0 回以上	┌	┌	<description>	0 回以上
┌	┌	<param-name>	1 回	┌	┌	<param-name>	1 回
┌	└	<param-value>	1 回	┌	└	<param-value>	1 回
┌	<filter-mapping>		0 回以上	┌	<filter-mapping>		0 回以上
┌	┌	<filter-name>	1 回	┌	┌	<filter-name>	1 回
┌	┌	<url-pattern>※1	1 回以上	┌	┌	<url-pattern>※1	1 回以上
┌	┌	<servlet-name>※1	1 回以上	┌	┌	<servlet-name>※1	1 回以上

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<dispatcher>	0 または 4 回 以下		└	<dispatcher>	0 または 4 回 以下
┌ <listener>			0 回以上	┌ <listener>			0 回以上
	┌	<description>	0 回以上		┌	<description>	0 回以上
	┌	<display-name>	0 回以上		┌	<display-name>	0 回以上
	┌	<icon>	0 回以上		┌	<icon>	0 回以上
		┌ <small-icon>	0 または 1 回			┌ <small-icon>	0 または 1 回
		└ <large-icon>	0 または 1 回			└ <large-icon>	0 または 1 回
	└	<listener-class>	1 回		└	<listener-class>	1 回
	—		—		(省略)		—
┌ <session-config>			0 回以上	┌ <session-config>			0 回以上
	└	<session-timeout>	0 または 1 回		└	<session-timeout>	0 または 1 回
┌ <mime-mapping>			0 回以上	┌ <mime-mapping>			0 回以上
	┌	<extension>	1 回		┌	<extension>	1 回
	└	<mime-type>	1 回		└	<mime-type>	1 回
┌ <welcome-file-list>			0 回以上	┌ <welcome-file-list>			0 回以上
	└	<welcome-file>	1 回以上		└	<welcome-file>	1 回以上
┌ <error-page>			0 回以上	┌ <error-page>			0 回以上
	┌	<error-code>*2	1 回		┌	<error-code>*2	1 回
	┌	<exception-type>*2	1 回		┌	<exception-type>*2	1 回
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回
┌ <jsp-config>			0 回以上	┌ <jsp-config>			0 回以上
	┌	<taglib>	0 回以上		┌	<taglib>	0 回以上
		┌ <taglib-uri>	1 回			┌ <taglib-uri>	1 回
		└ <taglib-location>	1 回			└ <taglib-location>	1 回
	└	<jsp-property-group>	0 回以上		└	<jsp-property-group>	0 回以上
		┌ <description>	0 回以上			┌ <description>	0 回以上
		┌ <display-name>	0 回以上			┌ <display-name>	0 回以上
		┌ <icon>	0 回以上			┌ <icon>	0 回以上
		┌ <small-icon>	0 または 1 回			┌ <small-icon>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor						
タグ名					出現パターン	タグ名					出現パターン
			└	<large-icon>	0 または 1 回				└	<large-icon>	0 または 1 回
		┐		<url-pattern>	1 回以上			┐		<url-pattern>	1 回以上
		┐		<el-ignored>	0 または 1 回			┐		<el-ignored>	0 または 1 回
		┐		<page-encoding>	0 または 1 回			┐		<page-encoding>	0 または 1 回
		┐		<scripting-invalid>	0 または 1 回			┐		<scripting-invalid>	0 または 1 回
		┐		<is-xml>	0 または 1 回			┐		<is-xml>	0 または 1 回
		┐		<include-prelude>	0 回以上			┐		<include-prelude>	0 回以上
		└		<inclide-coda>	0 回以上			┐		<inclide-coda>	0 回以上
		┐		<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回			┐		<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回
		└		<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回			└		<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回
┐				<security-constraint>	0 回以上	┐				<security-constraint>	0 回以上
	┐			<display-name>	0 回以上		┐			<display-name>	0 回以上
	┐			<web-resource-collection>	1 回以上		┐			<web-resource-collection>	1 回以上
		┐		<description>	0 回以上			┐		<description>	0 回以上
		┐		<web-resource-name>	1 回			┐		<web-resource-name>	1 回
		┐		<url-pattern>	1 回以上			┐		<url-pattern>	1 回以上
		└		<http-method>	0 回以上			└		<http-method>	0 回以上
	┐			<auth-constraint>	0 または 1 回		┐			<auth-constraint>	0 または 1 回
		┐		<description>	0 回以上			┐		<description>	0 回以上
		└		<role-name>	0 回以上			└		<role-name>	0 回以上
	┐			<user-data-constraint>	0 または 1 回		└			<user-data-constraint>	0 または 1 回
		┐		<description>	0 回以上			┐		<description>	0 回以上
		└		<transport-guarantee>	1 回			└		<transport-guarantee>	1 回
	└			<original-name>	1 回					—	—
┐				<login-config>	0 回以上	┐				<login-config>	0 回以上
	┐			<auth-method>	0 または 1 回		┐			<auth-method>	0 または 1 回
	┐			<realm-name>	0 または 1 回		┐			<realm-name>	0 または 1 回
	└			<form-login-config>	0 または 1 回		└			<form-login-config>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
		└ <form-login-page>	1 回			└ <form-login-page>	1 回
		└ <form-error-page>	1 回			└ <form-error-page>	1 回
└		<security-role>	0 回以上	└		<security-role>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<role-name>	1 回		└	<role-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
└		<env-entry>	0 回以上	└		<env-entry>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<env-entry-name>	1 回		└	<env-entry-name>	1 回
	└	<env-entry-type>	0 または 1 回		└	<env-entry-type>	0 または 1 回
	└	<env-entry-value>	1 回		└	<env-entry-value>	0 または 1 回
		—	—		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<ejb-ref>	0 回以上	└		<ejb-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<ejb-ref-name>	1 回		└	<ejb-ref-name>	1 回
	└	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		└	<ejb-ref-type>	0 または 1 回
	└	<home>	0 または 1 回		└	<home>	0 または 1 回
	└	<remote>	0 または 1 回		└	<remote>	0 または 1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回		└	<ejb-link>	0 または 1 回
		—	—		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<ejb-local-ref>	0 回以上	└		<ejb-local-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<ejb-ref-name>	1 回		└	<ejb-ref-name>	1 回
	└	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		└	<ejb-ref-type>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<local-home>	0 または 1 回		└	<local-home>	0 または 1 回
	└	<local>	0 または 1 回		└	<local>	0 または 1 回
	└	<ejb-link>	0 または 1 回		└	<ejb-link>	0 または 1 回
		—			└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<resource-ref>	0 回以上	└		<resource-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<res-ref-name>	1 回		└	<res-ref-name>	1 回
	└	<res-type>	0 または 1 回		└	<res-type>	0 または 1 回
	└	<res-auth>	0 または 1 回		└	<res-auth>	0 または 1 回
	└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		└	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
	└	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
└		<resource-env-ref>	0 回以上	└		<resource-env-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<resource-env-ref-name>	1 回		└	<resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回		└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		└ <resource-adapter>	1 回			—	—
		└ <queue>	1 回			—	—
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
		└ <resourceadapter-name>	1 回			—	—
		└ <adminobject-name>	1 回			—	—
└		<persistence-context-ref>	0 回以上	└		<persistence-context-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<persistence-context-ref-name>	1 回		└	<persistence-context-ref-name>	1 回
	└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回
	└	<persistence-context-type>	0 または 1 回		└	<persistence-context-type>	0 または 1 回
	└	<persistence-property>	0 回以上		└	<persistence-property>	0 回以上
		└ <name>	1 回			└ <name>	1 回
		└ <value>	1 回			└ <value>	1 回
		—	—		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<persistence-unit-ref>	0 回以上			<persistence-unit-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<persistence-unit-ref-name>	1 回		└	<persistence-unit-ref-name>	1 回
	└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回
		—	—		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<post-construct>	0 回以上	└		<post-construct>	0 回以上
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回		└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回		└	<lifecycle-callback-method>	1 回
└		<pre-destroy>	0 回以上	└		<pre-destroy>	0 回以上
	└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回		└	<lifecycle-callback-class>	0 または 1 回
	└	<lifecycle-callback-method>	1 回		└	<lifecycle-callback-method>	1 回
└		<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上	└		<locale-encoding-mapping-list>	0 回以上

WAR 属性ファイル						Deployment Descriptor									
タグ名					出現パターン	タグ名					出現パターン				
	└	<locale-encoding-mapping>				1 回以上		└	<locale-encoding-mapping>				1 回以上		
		└	<locale>				1 回			└	<locale>				1 回
		└	<encoding>				1 回			└	<encoding>				1 回
└		<runtime>				0 または 1 回		—						—	
	└	<context-root>				1 回		—						—	
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—		—		

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

<url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つまたは両方を指定します。

注※2

<error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定します。

(4) Servlet3.0 の場合

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor				
タグ名			出現パターン		タグ名			出現パターン	
<hitachi-war-property>			1 回		<web-app>			1 回	
└	<description>		0 回以上		└	<description>		0 回以上	
└	<display-name>		1 回以上		└	<display-name>		0 回以上	
└	<icon>		0 回以上		└	<icon>		0 回以上	
┌	└	<small-icon>	0 または 1 回		┌	└	<small-icon>	0 または 1 回	
┌	└	<large-icon>	0 または 1 回		┌	└	<large-icon>	0 または 1 回	
└	<distributable>		0 または 1 回		└	<distributable>		0 回以上	
└	<context-param>		0 回以上		└	<context-param>		0 回以上	
┌	└	<description>	0 回以上		┌	└	<description>	0 回以上	
┌	└	<param-name>	1 回		┌	└	<param-name>	1 回	
┌	└	<param-value>	1 回		┌	└	<param-value>	1 回	
└	<filter-mapping>		0 回以上		└	<filter-mapping>		0 回以上	
┌	└	<filter-name>	1 回		┌	└	<filter-name>	1 回	
┌	└	<url-pattern>※1	1 回以上		┌	└	<url-pattern>※1	1 回以上	

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<servlet-name>* ¹	1 回以上		└	<servlet-name>* ¹	1 回以上
	└	<dispatcher>	0 または 5 回 以下		└	<dispatcher>	0 または 5 回 以下
└ <listener>			0 回以上	└ <listener>			0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<display-name>	0 回以上		└	<display-name>	0 回以上
	└	<icon>	0 回以上		└	<icon>	0 回以上
		└ <small-icon>	0 または 1 回			└ <small-icon>	0 または 1 回
		└ <large-icon>	0 または 1 回			└ <large-icon>	0 または 1 回
	└	<listener-class>	1 回		└	<listener-class>	1 回
	—		—		(省略)		—
└ <session-config>			0 回以上	└ <session-config>			0 回以上
	└	<session-timeout>	0 または 1 回		└	<session-timeout>	0 または 1 回
└ <mime-mapping>			0 回以上	└ <mime-mapping>			0 回以上
	└	<extension>	1 回		└	<extension>	1 回
	└	<mime-type>	1 回		└	<mime-type>	1 回
└ <welcome-file-list>			0 回以上	└ <welcome-file-list>			0 回以上
	└	<welcome-file>	1 回以上		└	<welcome-file>	1 回以上
└ <error-page>			0 回以上	└ <error-page>			0 回以上
	└	<error-code>* ²	どちらか 1 回, またはどちらも なし		└	<error-code>* ²	どちらか 1 回, またはどちらも なし
	└	<exception-type>* ²	どちらか 1 回, またはどちらも なし		└	<exception-type>* ²	どちらか 1 回, またはどちらも なし
	└	<location>	1 回		└	<location>	1 回
└ <jsp-config>			0 回以上	└ <jsp-config>			0 回以上
	└	<taglib>	0 回以上		└	<taglib>	0 回以上
		└ <taglib-uri>	1 回			└ <taglib-uri>	1 回
		└ <taglib-location>	1 回			└ <taglib-location>	1 回
	└	<jsp-property-group>	0 回以上		└	<jsp-property-group>	0 回以上
		└ <description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor				
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン	
		└	<display-name>	0 回以上			└ <display-name>	0 回以上
		└	<icon>	0 回以上			└ <icon>	0 回以上
			└ <small-icon>	0 または 1 回			└ <small-icon>	0 または 1 回
			└ <large-icon>	0 または 1 回			└ <large-icon>	0 または 1 回
		└	<url-pattern>	1 回以上			└ <url-pattern>	1 回以上
		└	<el-ignored>	0 または 1 回			└ <el-ignored>	0 または 1 回
		└	<page-encoding>	0 または 1 回			└ <page-encoding>	0 または 1 回
		└	<scripting-invalid>	0 または 1 回			└ <scripting-invalid>	0 または 1 回
		└	<is-xml>	0 または 1 回			└ <is-xml>	0 または 1 回
		└	<include-prelude>	0 回以上			└ <include-prelude>	0 回以上
		└	<inclide-coda>	0 回以上			└ <inclide-coda>	0 回以上
		└	<deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回			└ <deferred-syntax-allowed-as-literal>	0 または 1 回
		└	<trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回			└ <trim-directive-whitespaces>	0 または 1 回
		└	<default-content-type>	0 または 1 回			└ <default-content-type>	0 または 1 回
		└	<buffer>	0 または 1 回			└ <buffer>	0 または 1 回
		└	<error-on-undeclared-namespace>	0 または 1 回			└ <error-on-undeclared-namespace>	0 または 1 回
└			<security-constraint>	0 回以上	└		<security-constraint>	0 回以上
	└		<display-name>	0 回以上		└	<display-name>	0 回以上
	└		<web-resource-collection>	1 回以上		└	<web-resource-collection>	1 回以上
		└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		└	<web-resource-name>	1 回			└ <web-resource-name>	1 回
		└	<url-pattern>	0 回以上			└ <url-pattern>	1 回以上
		└	<http-method>*3	0 回以上			└ <http-method>*3	0 回以上
		└	<http-method-omission>*3	0 回以上			└ <http-method-omission>*3	0 回以上
	└		<auth-constraint>	0 または 1 回		└	<auth-constraint>	0 または 1 回
		└	<description>	0 回以上			└ <description>	0 回以上
		└	<role-name>	0 回以上			└ <role-name>	0 回以上

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
		<user-data-constraint>	0 または 1 回			<user-data-constraint>	0 または 1 回
			<description>				<description>
			<transport-guarantee>				<transport-guarantee>
			<original-name>				—
			<login-config>				<login-config>
			<auth-method>				<auth-method>
			<realm-name>				<realm-name>
			<form-login-config>				<form-login-config>
			<form-login-page>				<form-login-page>
			<form-error-page>				<form-error-page>
			<security-role>				<security-role>
			<description>				<description>
			<role-name>				<role-name>
			<linked-to>				—
			<env-entry>				<env-entry>
			<description>				<description>
			<env-entry-name>				<env-entry-name>
			<env-entry-type>				<env-entry-type>
			<env-entry-value>				<env-entry-value>
			—				<mapped-name>
			<injection-target>				<injection-target>
			<injection-target-class>				<injection-target-class>
			<injection-target-name>				<injection-target-name>
			<ejb-ref>				<ejb-ref>
			<description>				<description>
			<ejb-ref-name>				<ejb-ref-name>
			<ejb-ref-type>				<ejb-ref-type>
			<home>				<home>
			<remote>				<remote>
			<ejb-link>				<ejb-link>

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名				出現パターン			
		—	—		┐	<mapped-name>	0 または 1 回
	┐	<injection-target>	0 回以上		┐	<injection-target>	0 回以上
		┐ <injection-target-class>	1 回			┐ <injection-target-class>	1 回
		┐ <injection-target-name>	1 回			┐ <injection-target-name>	1 回
┐		<ejb-local-ref>	0 回以上	┐		<ejb-local-ref>	0 回以上
	┐	<description>	0 回以上		┐	<description>	0 回以上
	┐	<ejb-ref-name>	1 回		┐	<ejb-ref-name>	1 回
	┐	<ejb-ref-type>	0 または 1 回		┐	<ejb-ref-type>	0 または 1 回
	┐	<local-home>	0 または 1 回		┐	<local-home>	0 または 1 回
	┐	<local>	0 または 1 回		┐	<local>	0 または 1 回
	┐	<ejb-link>	0 または 1 回		┐	<ejb-link>	0 または 1 回
		—	—		┐	<mapped-name>	0 または 1 回
	┐	<injection-target>	0 回以上		┐	<injection-target>	0 回以上
		┐ <injection-target-class>	1 回			┐ <injection-target-class>	1 回
		┐ <injection-target-name>	1 回			┐ <injection-target-name>	1 回
	┐	<injection-target>	0 回以上		┐	<injection-target>	0 回以上
		┐ <injection-target-class>	1 回		┐	<injection-target-class>	—
		┐ <injection-target-name>	1 回		┐	<injection-target-name>	—
┐		<resource-ref>	0 回以上	┐		<resource-ref>	0 回以上
	┐	<description>	0 回以上		┐	<description>	0 回以上
	┐	<res-ref-name>	1 回		┐	<res-ref-name>	1 回
	┐	<res-type>	0 または 1 回		┐	<res-type>	0 または 1 回
	┐	<res-auth>	0 または 1 回		┐	<res-auth>	0 または 1 回
	┐	<res-sharing-scope>	0 または 1 回		┐	<res-sharing-scope>	0 または 1 回
	┐	<mapped-name>	0 または 1 回		┐	<mapped-name>	0 または 1 回
	┐	<injection-target>	0 回以上		┐	<injection-target>	0 回以上
		┐ <injection-target-class>	1 回			┐ <injection-target-class>	1 回
		┐ <injection-target-name>	1 回			┐ <injection-target-name>	1 回
	┐	<linked-to>	0 または 1 回			—	—
┐		<resource-env-ref>	0 回以上	┐		<resource-env-ref>	0 回以上

WAR 属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名			出現パターン	タグ名			出現パターン
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<resource-env-ref-name>	1 回		└	<resource-env-ref-name>	1 回
	└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回		└	<resource-env-ref-type>	0 または 1 回
	└	<mapped-name>	0 または 1 回		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
	└	<linked-queue>	0 または 1 回			—	—
		└ <resource-adapter>	1 回			—	—
		└ <queue>	1 回			—	—
	└	<linked-adminobject>	0 または 1 回			—	—
		└ <resourceadapter-name>	1 回			—	—
		└ <adminobject-name>	1 回			—	—
└		<persistence-context-ref>	0 回以上	└		<persistence-context-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<persistence-context-ref-name>	1 回		└	<persistence-context-ref-name>	1 回
	└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回
	└	<persistence-context-type>	0 または 1 回		└	<persistence-context-type>	0 または 1 回
	└	<persistence-property>	0 回以上		└	<persistence-property>	0 回以上
		└ <name>	1 回			└ <name>	1 回
		└ <value>	1 回			└ <value>	1 回
		—	—		└	<mapped-name>	0 または 1 回
	└	<injection-target>	0 回以上		└	<injection-target>	0 回以上
		└ <injection-target-class>	1 回			└ <injection-target-class>	1 回
		└ <injection-target-name>	1 回			└ <injection-target-name>	1 回
└		<persistence-unit-ref>	0 回以上			<persistence-unit-ref>	0 回以上
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
	└	<persistence-unit-ref-name>	1 回		└	<persistence-unit-ref-name>	1 回
	└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回		└	<persistence-unit-name>	0 または 1 回

WAR 属性ファイル					Deployment Descriptor										
タグ名					出現パターン		タグ名					出現パターン			
		—			—			⌋	<mapped-name>			0 または 1 回			
	⌋	<injection-target>			0 回以上			⌋	<injection-target>			0 回以上			
		⌋	<injection-target-class>			1 回				⌋	<injection-target-class>			1 回	
		⌋	<injection-target-name>			1 回				⌋	<injection-target-name>			1 回	
⌋		<post-construct>			0 回以上		⌋		<post-construct>			0 回以上			
	⌋	<lifecycle-callback-class>			0 または 1 回			⌋	<lifecycle-callback-class>			0 または 1 回			
	⌋	<lifecycle-callback-method>			1 回			⌋	<lifecycle-callback-method>			1 回			
⌋		<pre-destroy>			0 回以上		⌋		<pre-destroy>			0 回以上			
	⌋	<lifecycle-callback-class>			0 または 1 回			⌋	<lifecycle-callback-class>			0 または 1 回			
	⌋	<lifecycle-callback-method>			1 回			⌋	<lifecycle-callback-method>			1 回			
⌋		<locale-encoding-mapping-list>			0 回以上		⌋		<locale-encoding-mapping-list>			0 回以上			
	⌋	<locale-encoding-mapping>			1 回以上			⌋	<locale-encoding-mapping>			1 回以上			
		⌋	<locale>			1 回				⌋	<locale>			1 回	
		⌋	<encoding>			1 回				⌋	<encoding>			1 回	
⌋		<runtime>			0 または 1 回			—			—				
	⌋	<context-root>			1 回			—			—				
—	—	—	—	—		—		—	—	—	—	—		—	

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

- 注※1
- <url-pattern>と<servlet-name>のどちらか一つまたは両方を指定します。
- 注※2
- <error-code>と<exception-type>のどちらか一つを指定するか、両方とも指定しません。
- 注※3
- <http-method>と<http-method-omission>のどちらか一つを指定します。それぞれのタグは 0 回以上指定できます。

3.7.3 cosminexus.xml との対応

WAR 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

WAR 属性ファイル			cosminexus.xml		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
<hitachi-war-property>		1 回	└ <war>		0 回以上
	—	—		└ <module-name>*1	1 回
	(省略)	—		(省略)	—
└ <security-role>		0 回以上		└ <security-role>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		—	—
	└ <role-name>	1 回		└ <role-name>	1 回
	└ <linked-to>	0 または 1 回		└ <linked-to>*2	1 回
	(省略)	—		(省略)	—
└ <ejb-ref>		0 回以上		—	—
	└ <destination>	0 回以上		—	—
	└ <ejb-ref-name>	1 回		—	—
	└ <ejb-ref-type>	1 回		—	—
	└ <home>	1 回		—	—
	└ <remote>	1 回		—	—
	└ <ejb-link>	0 または 1 回		—	—
└ <resource-ref>		0 回以上		└ <resource-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 回以上		—	—
	└ <res-ref-name>	1 回		└ <res-ref-name>	1 回
	└ <res-type>	1 回		—	—
	└ <res-auth>	1 回		—	—
	└ <linked-to>	0 または 1 回		└ <linked-to>*2	1 回
└ <resource-env-ref>		0 回以上		└ <resource-env-ref>	0 回以上
	└ <description>	0 または 1 回		—	—
	└ <resource-env-ref-name>	1 回		└ <resource-env-ref-name>	1 回
	└ <resource-env-ref-type>	1 回		—	—
	└ <linked-queue>	0 または 1 回		└ <linked-queue>*2	1 回
	└ <resource-adapter>*3	1 回		└ <resource-adapter>	1 回
	└ <queue>*3	1 回		└ <queue>	1 回
	└ <linked-adminobject>	0 または 1 回		└ <linked-adminobject>*2	1 回

WAR 属性ファイル						cosminexus.xml						
タグ名				出現パターン		タグ名				出現パターン		
		┌	<resourceadapter-name> ※4	1 回					┌	<resourceadapter-name>	1 回	
		└	<adminobject-name>※4	1 回					└	<adminobject-name>	1 回	
		└	<linked-to>	0 または 1 回				└	<linked-to>※2	1 回		
┌ <runtime>				0 または 1 回				—				—
		└	<context-root>	1 回				—				—
┌ <thread-control>				0 または 1 回			┌	<thread-control>				0 または 1 回
	┌	<thread-control-max-threads>		1 回				┌	<thread-control-max-threads>		1 回	
	┌	<thread-control-exclusive-threads>		1 回				┌	<thread-control-exclusive-threads>※2		0 または 1 回	
	┌	<thread-control-queue-size>		1 回				┌	<thread-control-queue-size>		1 回	
	┌	<thread-control-stats-monitor>		1 回				┌	<thread-control-stats-monitor>		0 または 1 回	
		┌	<whole-waiting-request-count>	1 回					┌	<whole-waiting-request-count>	1 回	
			┌ <enabled>	1 回						┌ <enabled>	0 または 1 回	
			┌ <high-threshold>	1 回						┌ <high-threshold>	0 または 1 回	
			└ <low-threshold>	1 回						└ <low-threshold>	0 または 1 回	
		└	<waiting-request-count>	1 回					└	<waiting-request-count>	1 回	
			┌ <enabled>	1 回						┌ <enabled>	0 または 1 回	
			┌ <high-threshold>	1 回						┌ <high-threshold>	0 または 1 回	
			└ <low-threshold>	1 回						└ <low-threshold>	0 または 1 回	
	┌	<resource-watcher>		1 回				┌	<resource-watcher>		1 回	
		┌	<watcher-threshold>	1 回					┌	<watcher-threshold>	1 回	
		┌	<watcher-interval>	1 回					┌	<watcher-interval>	1 回	
		┌	<watcher-enabled>	1 回					┌	<watcher-enabled>	1 回	
		└	<watcher-writefile-enabled>	1 回					└	<watcher-writefile-enabled>	1 回	

WAR 属性ファイル						cosminexus.xml										
タグ名						出現パターン		タグ名						出現パターン		
		└	<watcher-interval>			1 回					└	<watcher-interval>			1 回	
		└	<watcher-enabled>			1 回					└	<watcher-enabled>			1 回	
		└	<watcher-writefile-enabled>			1 回					└	<watcher-writefile-enabled>			1 回	
	└	<dbsfo>				0 または 1 回				└	<dbsfo>				0 または 1 回	
		└	<enabled>			0 または 1 回					└	<enabled>			0 または 1 回	
		└	<application-id>			0 または 1 回					└	<application-id>			0 または 1 回	
		└	<attribute-data-size-max>			0 または 1 回					└	<attribute-data-size-max>			0 または 1 回	
		└	<exclude-extensions>			0 または 1 回					└	<exclude-extensions>			0 または 1 回	
└ <start-notify-error>						0 または 1 回			└ <start-notify-error>						0 または 1 回	
└ <start-order>						0 または 1 回			└ <start-order>						0 または 1 回	
—	—	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	

(凡例)

－：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

application.xml の<application>-<module>-<web>-<web-uri>に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。WAR を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

注※3

resource-adapter にはリソースアダプタ表示名、<queue>には QUEUE 名が入ります。

注※4

<resourceadapter-name>にはリソースアダプタ表示名、<adminobject-name>には管理対象オブジェクト名が入ります。

3.8 フィルタ属性ファイル

フィルタ属性ファイルは、フィルタの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.8.1 フィルタ属性ファイルの指定内容

フィルタ属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-filter-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Filter Property 7.0//EN' 'file:///<Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-filter-property_7_0.dtd'>
```

フィルタ属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-filter-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description>* ¹	0 回以上* ²	フィルタの説明。
└ <display-name>* ¹ ├ ├ ├ ├ ├ ├ ├ ├ ├	1 回以上* ²	フィルタの表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 文字の制限はありません。 複数のフィルタが存在する場合、それぞれに一意となる文字列を指定します。
└ <icon>* ¹	0 回以上* ²	Deploy ツール上に表示されるフィルタのアイコンの定義。
├ └ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
├ └ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
└ <filter-name> ├ ├	1 回	フィルタ名称。* ³ 複数のフィルタが存在する場合、それぞれ一意となる文字列を指定します。
└ <filter-class> ├ ├	1 回	フィルタのクラス名。* ³ パッケージが定義されている場合、パッケージ名から指定します。
└ <init-param>	0 回以上	初期化パラメタについての定義。
├ └ <description>* ¹	0 回以上* ²	パラメタの説明。

タグ名			出現パターン	説明
	┌	<param-name>	1 回	初期化パラメタ名称。 複数のフィルタ名が存在する場合、それぞれに一意な文字列を指定します。
	└	<param-value>	1 回	初期化パラメタの値。
└		<method-observation-timeout>	0 または 1 回	フィルタ内のメソッド共通の仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間。 指定できる値は、0～86400（単位：秒）です。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
—	—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

cjgetappprop, cjgetresprop コマンドで出力されたものに対して、タグ名の変更、タグの追加・削除、または値の変更をしてはいけません。

3.8.2 DD との対応

フィルタ属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を示します。

フィルタ属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-filter-property>	1 回		<web-app>	1 回
(省略)	—		(省略)	—
—	—		└ <filter>	0 回以上
┌ <icon>	0 回以上		┌ <icon>	0 回以上
┌ <small-icon>	0 または 1 回		┌ <small-icon>	0 または 1 回
└ <large-icon>	0 または 1 回		└ <large-icon>	0 または 1 回
┌ <filter-name>	1 回		┌ <filter-name>	1 回
┌ <display-name>	1 回以上		┌ <display-name>	0 回以上
┌ <description>	0 回以上		┌ <description>	0 回以上
┌ <filter-class>	1 回		┌ <filter-class>	1 回
└ <init-param>	0 回以上		└ <init-param>	0 回以上

フィルタ属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	┌	<param-name>	1 回		┌	<param-name>	1 回
	┌	<param-value>	1 回		┌	<param-value>	1 回
	└	<description>	0 回以上		└	<description>	0 回以上
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

3.8.3 cosminexus.xml との対応

フィルタ属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

フィルタ属性ファイル			cosminexus.xml		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
<hitachi-filter-property>		1 回	┌	<war>	0 回以上
┌	(省略)	—	┌	┌	—
┌	—	—	┌	┌	<filter>
┌	—	—	┌	┌	┌ <filter-name>* ¹
└	<method-observation-timeout>	0 または 1 回	┌	┌	└ <method-observation-timeout>* ²
—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

web.xml の<web-app>-<filter>-<filter-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Filter を特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

3.9 サブレット属性ファイル

サブレット属性ファイルは、サブレット/JSP の属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

3.9.1 サブレット属性ファイルの指定内容

サブレット属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-servlet-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Servlet Property 7.0//EN' 'file:///C:/Application Serverのインストールディレクトリ>/CC/admin/dtds/hitachi-servlet-property_7_0.dtd'>
```

サブレット属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。また、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	説明
<hitachi-servlet-property>	1 回	ルートタグ。
└ <description>* ¹ 	0 回以上* ²	サブレット/JSP の説明。
└ <display-name>* ¹ 	1 回以上* ²	サブレット/JSP の表示名。 xml:lang 属性が"en"の display-name を必ず指定します。該当するリソースの表示名をコマンドの引数で指定する場合も、xml:lang 属性が"en"の display-name を指定します。 1 ≤ 文字列長 文字の制限はありません。
└ <icon>* ¹	0 回以上* ²	Deploy ツール上に表示される Servlet のアイコンの定義。
└ <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン (16×16) のファイル名。
└ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン (32×32) のファイル名。
└ <init-param>	0 回以上	初期化パラメタについての定義。
└ <description>* ¹	0 回以上* ²	init-param の説明。
└ <param-name>	1 回	初期化パラメタの名称。
└ <param-value>	1 回	初期化パラメタの値。
└ <load-on-startup> 	0 または 1 回	スタートアップ時のロード指定。 指定できる整数値を次に示します。 -2147483648 ≤ load-on-startup ≤ -1 必要になった時点でロードされます。 -1 以外を指定しても -1 として扱われます。

タグ名		出現パターン	説明
			0 スタートアップ時にロードします。 ロードする順番は、Container が決定します。 $1 \leq \text{load-on-startup} \leq 2147483647$ スタートアップ時にロードします。 ロードする順番は、小さな値から大きな値の順となります。 なお、Servlet2.5 以降より、空文字も指定できます。
└	<run-as>	0 または 1 回	実行時アイデンティティについての定義。※3
	└ <description>※1	0 回以上※2	run-as の説明。※3
	└ <role-name>	1 回	セキュリティロール名。※3
	└ <user-name>	1 回	ユーザ名を指定します。
└	<security-role-ref>	0 回以上	セキュリティロールについての定義。
	└ <description>※1	0 回以上※2	security-role-ref の説明。
	└ <role-name>	1 回	security-role-ref の名称。
	└ <role-link>	0 または 1 回	リンク先のロール名。
└	<url-pattern>※4	0 回以上	サーブレットの URL。 アプリケーション統合属性ファイルで、このタグの情報を別のサーブレットの情報と入れ替える場合は、登録されているアプリケーション内のすべてのサーブレットの<url-pattern>の情報を cjsetappprop コマンドで削除したあと、正しい情報を設定してください。
└	<method-observation-timeout>	0 または 1 回	サーブレット内のメソッド共通の仕掛かり中メソッド監視用タイムアウト時間。 指定できる値は、0～86400（単位：秒）です。0 を指定した場合、タイムアウトしません。デフォルト値は 0 です。
—	—	—	—

注※1

xml:lang 属性を指定できます。xml:lang 属性を指定しない場合は、「en（英語）」が仮定されます。なお、xml:lang 属性が同じタグを複数指定できません。

注※2

Servlet2.3 以前の WAR に対して、このタグを複数指定できません。

注※3

アノテーションの設定値だった場合、値の変更は無視されます。

注※4

アプリケーション統合属性ファイルを cjsetappprop コマンドで設定すると、サーブレット単位（<hitachi-servlet-property> タグ単位）に設定値の反映処理を実施します。ただし、<hitachi-servlet-property>—<url-pattern>タグについては、すべてのサーブレットで重複がないかどうかのチェックを実施しています。

3.9.2 DD との対応

サーブレット属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を示します。

サーブレット属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-servlet-property>	1 回		<web-app>	1 回
—	—		(省略)	—
—	—		<servlet>	0 回以上
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
<display-name>	1 回以上		<display-name>	0 回以上
—	—		<servlet-name>	1 回
<icon>	0 回以上		<icon>	0 回以上
<small-icon>	0 または 1 回		<small-icon>	0 または 1 回
<large-icon>	0 または 1 回		<large-icon>	0 または 1 回
—	—		<servlet-class>*	1 回
—	—		<jsp-file>*	1 回
<init-param>	0 回以上		<init-param>	0 回以上
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
<param-name>	1 回		<param-name>	1 回
<param-value>	1 回		<param-value>	1 回
<load-on-startup>	0 または 1 回		<load-on-startup>	0 または 1 回
<run-as>	0 または 1 回		<run-as>	0 または 1 回
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
<role-name>	1 回		<role-name>	1 回
<security-role-ref>	0 回以上		<security-role-ref>	0 回以上
<description>	0 回以上		<description>	0 回以上
<role-name>	1 回		<role-name>	1 回
<role-link>	0 または 1 回		<role-link>	0 または 1 回
—	—		<servlet-mapping>	0 回以上
—	—		<servlet-name>	1 回
<url-pattern>	0 回以上		<url-pattern>	1 回以上
—	—		(省略)	—

サーブレット属性ファイル				Deployment Descriptor			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※

<servlet-class>と<jsp-file>のどちらか一つを指定します。

3.9.3 cosminexus.xml との対応

サーブレット属性ファイルと cosminexus.xml の対応を次に示します。

サーブレット属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
<hitachi-servlet-property>		1 回		┌ <war>		1 回	
├	—	—		├	┌ <servlet>	0 回以上	
├	—	—		├	├	┌ <servlet-name>※	1 回
┌	<run-as>	0 または 1 回		├	├	┌ <run-as>	0 または 1 回
├	┌ <description>	0 回以上		├	├	├	—
├	┌ <role-name>	1 回		├	├	├	—
├	├ <user-name>	1 回		├	├	├	<user-name>
├	<method-observation-timeout>	0 または 1 回		├	├	├	<method-observation-timeout>
—	—	—		—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

注※

web.xml の<web-app>-<servlet>-<servlet-name>に対応し、属性ファイルには存在しないタグとなります。Servlet を特定するためのキーとなります。

4

リソースの設定で使用する属性ファイル

この章では、アプリケーションサーバで使用するリソースを設定するファイルについて説明します。

4.1 Connector 属性ファイル

Connector 属性ファイルは、リソースアダプタの属性を取得、編集する場合に使用するファイルです。

4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容

Connector 属性ファイルの表中で用いる項目と、その項目の説明を記します。

項目名	説明
タグ名	設定するタグを表します。
出現パターン	タグが出現する回数を示します。
内容	タグに定義する内容を示します。
指定可能値	タグに指定できる値を示します。指定できない場合にはハイフン「-」を記述します。
デフォルト	タグに指定する内容が省略されている場合に有効になる指定値を示します。デフォルト値がない場合は"なし"を記述します。
バージョン	定義できるアプリケーションサーバのバージョンを記述します。

キーの省略、値の省略および内容の詳細については、Connector 属性ファイルの各定義の詳細に記載しています。

Connector 属性ファイルは、次に示す DOCTYPE 宣言を持ちます。

```
<!DOCTYPE hitachi-connector-property PUBLIC '-//Hitachi, Ltd.//DTD Connector Property 7.6//EN' 'file:///C:/Application Serverのインストールディレクトリ/CC/admin/dtds/hitachi-connector-property_7_6.dtd'>
```

Connector 属性ファイルは、次に示すタグを持つ xml ファイルです。なお、属性ファイルのバージョンは、以前のバージョンのものでも使用できます。

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
<hitachi-connector-property>	0 または 1 回	ルートタグ。	—	なし	05-05
ト <description> 	0 回以上	リソースアダプタについての説明。	入力には制限されません。	なし	05-05
ト <display-name> 	1 回以上	Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタの名称。	英数字、アンダースコア「_」だけ使用できます。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
			1 ≤ 文字列長 ≤ 240 の範囲で指定できます。指定できる文字数は 1 ～ 作業ディレクトリのパス長の見積もり式 ※ で見積もった範囲の長さです。 変更する場合、英数字 (0 ～ 9, A ～ Z, a ～ z), および次の特殊文字を使用できます。 プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_) 「TP1/Message Queue - Access」は TP1/Message Queue - Access の rar の表示名であるため指定できます。 ただし、次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 次の名称を指定した場合、J2EE アプリケーションの操作ができなくなるおそれがあります。このため、次の名称を指定しないでください。 - 記号の前後にアンダースコア (_) を指定している名称 (例: abc+_001) - 記号で終わる名称 (例: abc+)		
ト <icon>	0 回以上	Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタのアイコンの定義。	—	なし	05-05

4. リソースの設定で使用する属性ファイル

タグ名		出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
	ト <small-icon>	0 または 1 回	スモールアイコン（16×16）のファイル名。	入力には制限されません。	なし	05-05
	└ <large-icon>	0 または 1 回	ラージアイコン（32×32）のファイル名。	入力には制限されません。	なし	05-05
	ト <vendor-name>	1 回	リソースアダプタプロバイダベンダ名。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
	ト <spec-version>	1 回	リソースアダプタがサポートしているコネクタアーキテクチャ仕様のバージョン。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
	ト <eis-type>	1 回	EIS のタイプについての情報。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
	ト <version>	1 回	リソースアダプタのバージョン。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05

タグ名	出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
ト<license>	0 または 1 回	リソースアダプタモジュールのライセンス要求についての定義。	—	なし	05-05
ト<description>	0 回以上	license についての説明。	入力は制限されません。	なし	07-60
ト<license-required>	1 回	リソースアダプタのデプロイ、使用時のライセンス要求用フラグ。 変更不可。	指定できる文字列を次に示します。 • true：要求する • false：要求しない	なし	05-05
ト<resourceadapter>	1 回	リソースアダプタの設定についての定義。	—	なし	05-05
ト<resourceadapter-class>	0 または 1 回	javax.resource.spi.ResourceAdapter を実装した Java クラス名。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-50
ト<config-property>	0 回以上	ResourceAdapter インスタンスのためのコンフィグレーションプロパティの定義。 Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	05-05

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
			ト	<description>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	05-05
			ト	<config-property-name>	1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。 名称の重複指定はできません。 TP1 インバウンドアダプタの設定については、「4.1.10(6) TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ」を参照してください。 CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、「4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。	なし	05-05	
			ト	<config-property-type>	1 回	ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。 次のどれかを指定します。 • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character	なし	05-05	

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
			↳	<config-property-value>	0 または 1 回	コンフィグレーションプロパティの値。 <config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報に空が設定されます。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。	入力には制限されません。	なし	05-05
			↳	<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回	Outbound 方向へのリソースアダプタの定義を指定します。	—	なし	07-50
			↳	<connection-definition>	1 回以上	コネクションインタフェースクラスについての定義。	—	なし	07-50
			↳	<managedconnectionfactory-class>	1 回	javax.resource.spi.ManagedConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。 パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
			↳	<config-property>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての定義。	—	なし	05-05

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
					0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	05-05
					1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。	名称の重複指定はできません。 DB Connector の設定については、 「4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。 CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、 「4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。	なし	05-05
					1 回	ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。	次のどれかを指定します。 • java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character	なし	05-05

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
					0 または 1 回	コンフィグレーションプロパティの値。 <config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報が空で設定されます。 <config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されていて、<config-property-value>タグに値が設定されている場合、セキュリティ上の理由で、<config-property-value>タグは表示されません。変更する場合は、<config-property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。 cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。 値が設定されている場合： コメントタグ<!-- The config-property-value has already been set. --> 値が設定されていない場合： 空タグ<>	入力は制限されません。	なし	05-05

タグ名					出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
						変更不可。			
				└	<connector-runtime>	0 または 1 回	実行時プロパティについての定義。	なし	07-50
				└	<property>	0 回以上	コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。	なし	05-05
					└ <property-name>	1 回	プロパティ名。 次のどれかを指定します。 • MaxPoolSize • MinPoolSize • LogEnabled • User • Password • ValidationType • ValidationInterval • RetryCount • RetryInterval • ConnectionTimeout • SweeperInterval • RequestQueueEnabled • RequestQueueTimeout • WatchEnabled • WatchInterval • WatchThreshold • WatchWriteFileEnabled • ConnectionPoolAdjustmentInterval • Warmup • NetworkFailureTimeout	なし	05-05

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
							指定値がほかの <optional-name>の指定 値の下位階層となるような 関係の場合は、警告メッ セージ (KDJE37602-W) が出力されます。 (例) 別名 1 : AAA 別名 2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255	(#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アン パサンド (&), シング ルクォーテーション ('), バーレン ({} ()), アスタリスク (*), プ ラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピ リオド (.), スラッ シュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レス ザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャ レット (^), アンダー スコア (_), バック クォート (`), プレイ ス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) 文字数は 1 ~ 255 文字 です。 次の名前は指定できま せん。 • 予約語である HITACHI_EJB (大文字・小文字を 区別します) で始 まる名前 • 先頭または末尾に, スラッシュ (/) ま たはピリオド (.) を指定した名前 • スラッシュ (/) だ け, またはピリオ ド (.) だけの名前 • スラッシュ (/) が 連続している名前 文字列の先頭または末 尾に, 半角スペースや 改行がある場合, 取り 除かれて設定されます。		

タグ名							出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
									また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。		
						<res-auth>	0 または 1 回	リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container	Container	07-00
						<res-sharing-scope>	0 または 1 回	リソース接続を共有するかどうかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable	Shareable	07-00
						<transaction-support>	1 回	リソースアダプタで提供されるトランザクションサポートのレベル。	指定できる文字列を次に示します。 • NoTransaction • LocalTransaction • XATransaction	なし	05-05
						<reauthentication-support>	1 回	ManagedConnection インスタンスの再認証をサポートするかどうかの指定。	指定できる文字列を次に示します。 なお、DB Connector を使用する場合、true に設定しても値は有効になりません。 • true • false	なし	05-05
						<inbound-resourceadapter>	0 または 1 回	Inbound 方向へのリソースアダプタの定義。 変更不可。	—	なし	07-60

タグ名						出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
			└	<messageadapter>		0 または 1 回	リソースアダプタのメッセージング関連の機能の定義。 変更不可。	—	なし	07-60
			└	<messagelistener>		1 回以上	メッセージリスナの定義。 変更不可。	—	なし	07-60
			└	└	<messagelistener-type>	1 回	メッセージリスナのタイプ。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└	<activationspec>		1 回	メッセージエンドポイント活性化のための情報。 変更不可。	—	なし	07-60
			└	└	<activationspec-class>	1 回	ActivationSpec インタフェースを実装するクラス。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
			└	<required-config-property>		0 回以上	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティ。 変更不可。	—	なし	07-60
			└	└	<description>	0 回以上	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティについての説明。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60

タグ名								出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
							└	<config-property-name>	1 回	メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティの名称。 変更不可。	入力は制限されません。	なし	07-60
		┐	<adminobject>					0 回以上	リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトについての定義。 管理対象オブジェクトについての定義は、Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	07-60	
		┐	<adminobject-name>					0 または 1 回	管理対象オブジェクト名。 リソースアダプタ内でユニークである必要があります。	英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン (() ()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([] ()), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ } ()), ストローク (), チルダ (~) なお、連続したアンダースコア (__) は使用できません。	なし	07-60	

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
						次に示す名前は指定できません。 - 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前 - ピリオド (.) だけの名前 - アンダースコア (_) が連続している名前 文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。			
			ト	<adminobject-interface>	1 回	管理対象オブジェクトのクラスが実装するインタフェース。	入力は制限されません。	なし	07-60
			ト	<adminobject-class>	1 回	管理対象オブジェクトのクラス。	入力は制限されません。	なし	07-60
			ㇿ	<config-property>	0 回以上	管理対象オブジェクトのためのコンフィグレーションプロパティの定義。	—	なし	07-60
			ト	<description>	0 回以上	コンフィグレーションプロパティについての説明。	入力は制限されません。	なし	07-60
			ト	<config-property-name>	1 回	コンフィグレーションプロパティの名称。	名称の重複指定はできません。	なし	07-60
			ト	<config-property-type>	1 回	adminobject インスタンスによって要求されるコン	次のどれかを指定します。	なし	07-60

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン	
					フィグレーションプロパティの Java の型。	• java.lang.Boolean • java.lang.String • java.lang.Integer • java.lang.Double • java.lang.Byte • java.lang.Short • java.lang.Long • java.lang.Float • java.lang.Character			
			└	<config-property-value>	0 または 1 回	コンフィグレーションプロパティの値。cjsetresprop コマンド、および cjsetrarprop コマンド実行時の動作を次に示します。 <config-property-value>タグ指定なしの場合 プロパティの情報を空に設定します。 <config-property-value>タグが指定されていて、値が空の場合 プロパティの情報を空に設定します。 <config-property-value>タグが指定されていて、値が指定されている場合 プロパティに指定された値を設定します。	入力は制限されません。	なし	07-60
		└	<security-permission>	0 回以上	セキュリティパーミッションについての定義。 変更不可。	—	なし	05-05	

タグ名			出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
		ト <description>	0 回以上	リソースアダプタのコードから要求されるセキュリティパーミッションについての説明。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
		└ <security-permission-spec>	1 回	セキュリティポリシーファイル上のセキュリティパーミッション。 変更不可。	入力には制限されません。	なし	05-05
	└	<resourceadapter-runtime>	0 または 1 回	Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。	—	なし	07-50
	└	<property>	0 回以上	リソースアダプタに関する独自情報を設定します。	—	なし	05-05
		ト <property-name>	1 回	プロパティ名を指定します。	次のどれかを指定します。 「MaxTPoolSize」 「MinTPoolSize」 「TPoolKeepalive」	なし	05-05
		ト <property-type>	1 回	プロパティのタイプ。	入力には制限されません。	なし	05-05
		ト <property-value>	0 または 1 回	プロパティ値の Java の型。	入力には制限されません。 「4.1.12 <property> タグに指定できるプロパティ」を参照してください。	—	05-05

タグ名				出現パターン	内容	指定可能値	デフォルト	バージョン
			⌞ <property-default-value>	0 または 1 回	プロパティのデフォルト値。 変更不可。	入力は制限されません。 「4.1.12 <property>タグに指定できるプロパティ」を参照してください。	—	05-05

注※

作業ディレクトリのパス長の見積もり式の詳細については、マニュアル「アプリケーションサーバ システム構築・運用ガイド」の「付録 C.1 J2EE サーバの作業ディレクトリ」を参照してください。

(凡例)

—：指定できる値はありません。

4.1.2 リソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの定義に関する情報について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <hitachi-connector-property>

説明

ルートタグ。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

リソースアダプタについての説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <display-name>

説明

Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタの名称。

指定可能値

1 ≤ 文字列長 ≤ 240 の範囲で指定できます。指定できる文字数は 1 ～ 作業ディレクトリのパス長の見積もり式※で見積もった範囲の長さです。変更する場合、英数字 (0～9, A～Z, a～z), および次の特殊文字を使用できます。

プラス (+), ハイフン (-), ピリオド (.), キャレット (^), アンダースコア (_)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前

また、「TP1/Message Queue - Access」は TP1/Message Queue - Access の rar の表示名であるため指定できます。

次の名称を指定した場合、J2EE アプリケーションの操作ができなくなるおそれがあります。このため、次の名称を指定しないでください。

- 記号の前後にアンダースコア(_)を指定している名称 (例: abc+_001)
- 記号で終わる名称 (例: abc+)

注※

作業ディレクトリのパス長の見積もり式の詳細については、マニュアル「アプリケーションサーバシステム構築・運用ガイド」の「付録 C.1 J2EE サーバの作業ディレクトリ」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <icon>

説明

Deploy ツール上に表示されるリソースアダプタのアイコンの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <small-icon>

説明

スモールアイコン（16×16）のファイル名。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <large-icon>

説明

ラージアイコン（32×32）のファイル名。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <vendor-name>

説明

リソースアダプタプロバイダベンダ名。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <spec-version>

説明

リソースアダプタがサポートしているコネクタアーキテクチャ仕様のバージョン。
変更不可。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <eis-type>

説明

EIS のタイプについての情報。
変更不可。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <version>

説明

リソースアダプタのバージョン。
変更不可。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <license>

説明

リソースアダプタモジュールのライセンス要求についての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(12) <description>

説明

license についての説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(13) <license-required>

説明

リソースアダプタのデプロイ、使用時のライセンス要求用フラグ。

変更不可。

指定可能値

- true：要求する
- false：要求しない

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.3 リソースアダプタの設定

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの設定の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <resourceadapter>

説明

リソースアダプタの設定についての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(2) <resourceadapter-class>

説明

javax.resource.spi.ResourceAdapter を実装した Java クラス名。

変更不可。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.4 ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグレーションプロパティの定義

Connector 属性ファイルの ResourceAdapter インスタンスのコンフィグレーションプロパティの詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <config-property>

説明

ResourceAdapter インスタンスのためのコンフィグレーションプロパティの定義。

Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <config-property-name>

説明

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

TP1 インバウンドアダプタの設定については、「[4.1.10\(6\) TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ](#)」を参照してください。

CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、「[4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ](#)」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <config-property-type>

説明

ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「java.lang.Boolean」
- 「java.lang.String」
- 「java.lang.Integer」
- 「java.lang.Double」
- 「java.lang.Byte」
- 「java.lang.Short」
- 「java.lang.Long」
- 「java.lang.Float」
- 「java.lang.Character」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

<config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。<config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報に空が設定されます。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.5 アウトバウンドリソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのアウトバウンドリソースアダプタの定義の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <outbound-resourceadapter>

説明

Outbound 方向へのリソースアダプタの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <connection-definition>

説明

コネクションインタフェースクラスについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(3) <managedconnectionfactory-class>

説明

javax.resource.spi.ManagedConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。
パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <config-property>

説明

コネクションインタフェースクラスに関するコンフィグレーションプロパティについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(5) <description>

説明

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <config-property-name>

説明

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

DB Connector の設定については、「[4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ](#)」を参照してください。

CJMS プロバイダのリソースアダプタの設定については、「[4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ](#)」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <config-property-type>

説明

ResourceAdapter によって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「java.lang.Boolean」
- 「java.lang.String」
- 「java.lang.Integer」
- 「java.lang.Double」
- 「java.lang.Byte」
- 「java.lang.Short」
- 「java.lang.Long」
- 「java.lang.Float」
- 「java.lang.Character」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

<config-property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報に空が設定されます。

<config-property-value>タグを指定して、値を指定している場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されていて、<config-property-value>タグに値が設定されている場合、セキュリティ上の理由で、<config-property-value>タグは表示されません。変更する場合は、<config-property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。

cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<config-property-name>タグに「XAOpenString」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。

値が設定されている場合：

コメントタグ<!-- The config-property-value has already been set. -->

値が設定されていない場合：

空タグ<>

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <connectionfactory-interface>

説明

リソースでサポートされる ConnectionFactory インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

Connector1.5 のリソースアダプタの場合、このタグの値がコネクション定義識別子となります。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(10) <connectionfactory-impl-class>

説明

ConnectionFactory インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(11) <connection-interface>

説明

リソースアダプタでサポートされる Connection インタフェースのクラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(12) <connection-impl-class>

説明

Connection インタフェースを実装した Java クラス名。パッケージが定義されている場合は、パッケージから指定します。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(13) <connector-runtime>

説明

実行時プロパティについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(14) <property>

説明

コネクションインタフェース・クラスに関する独自情報を設定します。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(15) <property-name>

説明

プロパティ名。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「MaxPoolSize」
- 「MinPoolSize」
- 「LogEnabled」
- 「User」

- 「Password」
- 「ValidationType」
- 「ValidationInterval」
- 「RetryCount」
- 「RetryInterval」
- 「ConnectionTimeout」
- 「SweeperInterval」
- 「RequestQueueEnable」
- 「RequestQueueTimeout」
- 「WatchEnabled」
- 「WatchInterval」
- 「WatchThreshold」
- 「WatchWriteFileEnabled」
- 「ConnectionPoolAdjustmentInterval」
- 「Warmup」
- 「NetworkFailureTimeout」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(16) <property-type>

説明

プロパティ値の Java の型。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(17) <property-value>

説明

プロパティの値。

<property-value>タグが指定されていない場合は、そのプロパティの情報は変更しません。すでに設定されている情報がそのまま残ります。

<property-value>タグを指定して、値を指定しない場合は、そのプロパティの情報に空が設定されます。

<property-value>タグを指定して、値が指定されている場合は、指定した値がプロパティに設定されます。

<property-name>タグに「User」または「Password」が指定されており、<property-value>タグに値が指定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示しません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定します。

値が設定されている場合：

コメントタグ<!-- The property-value has already been set. -->

値が設定されていない場合：

空タグ<>

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(18) <property-default-value>

説明

プロパティのデフォルト値。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(19) <resource-external-property>

説明

リソースのエクスターナルプロパティの定義。

<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の設定値が同じ場合、一つにマージされます。その場合、警告メッセージ（KDJE37600-W）が出力され、後ろに定義された<resource-external-property>の<res-auth>や<res-sharing-scope>の値が有効になります。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(20) <description>

説明

リソースの別名の説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(21) <optional-name>

説明

リソースの別名。

同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ（KDJE37602-W）が出力されます。

（例）

別名1 : AAA 別名2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255
--

指定可能値

英数字（0～9，A～Z，a～z），および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), バーレン ({}), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスション (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。また、文字列の途中で改行がある場合はエラーとなります。

文字数は 1～255 文字です。

次の名前は指定できません。

- 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前
- 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前
- スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前
- スラッシュ (/) が連続している名前

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(22) <res-auth>

説明

リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Application
- Container

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(23) <res-sharing-scope>

説明

リソース接続を共有するかどうかの指定。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- Shareable
- Unshareable

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(24) <transaction-support>

説明

リソースアダプタで提供されるトランザクションサポートのレベル。

指定可能値

指定できる文字列を次に示します。

- NoTransaction
- LocalTransaction
- XATransaction

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(25) <reauthentication-support>

説明

ManagedConnection インスタンスの再認証をサポートするかどうかの指定。

指定可能値

- true
- false

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.6 インバウンドリソースアダプタの定義

Connector 属性ファイルのインバウンドリソースアダプタの定義の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <inbound-resourceadapter>

説明

Inbound 方向へのリソースアダプタの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <messageadapter>

説明

リソースアダプタのメッセージング関連の機能の定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <messagelistener>

説明

メッセージリスナの定義。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <messagelistener-type>

説明

メッセージリスナのタイプ。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <activationsec>

説明

メッセージエンドポイント活性化のための情報。

指定可能値

—

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(6) <activationsec-class>

説明

ActivationSpec インタフェースを実装するクラス。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(7) <required-config-property>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティ。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(8) <description>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティについての説明。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(9) <config-property-name>

説明

メッセージエンドポイント活性化のために設定が必要なプロパティの名称。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.7 管理対象オブジェクトの定義

Connector 属性ファイルの管理対象オブジェクトについての定義の詳細について、タグごとに説明します。管理対象オブジェクトについての定義は、Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <adminobject>

説明

リソースアダプタが提供する管理対象オブジェクトについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <adminobject-name>

説明

管理対象オブジェクト名。

リソースアダプタ内でユニークである必要があります。

指定可能値

英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。

スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), ブレイス ({ }), ストローク (|), チルダ (~)

ただし、次に示す名前は指定できません。

- 先頭または末尾にピリオド (.) を付けた名前
- ピリオド (.) だけの名前
- アンダースコア (_) が連続している名前

文字列の先頭または末尾に、半角スペースや改行がある場合、取り除かれて設定されます。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <adminobject-interface>

説明

管理対象オブジェクトのクラスが実装するインタフェース。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <adminobject-class>

説明

管理対象オブジェクトのクラス。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <config-property>

説明

管理対象オブジェクトのためのコンフィグレーションプロパティの定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(6) <description>

説明

コンフィグレーションプロパティについての説明。

指定可能値

入力は制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(7) <config-property-name>

説明

コンフィグレーションプロパティの名称。

指定可能値

名称の重複指定はできません。

「[4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ](#)」を参照してください。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(8) <config-property-type>

説明

adminobject インスタンスによって要求されるコンフィグレーションプロパティの Java の型。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「java.lang.Boolean」
- 「java.lang.String」
- 「java.lang.Integer」
- 「java.lang.Double」
- 「java.lang.Byte」
- 「java.lang.Short」

- 「java.lang.Long」
- 「java.lang.Float」
- 「java.lang.Character」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(9) <config-property-value>

説明

コンフィグレーションプロパティの値。

cjsetresprop コマンド， および cjsetrarprop コマンド実行時の動作を次に示します。

<config-property-value>タグ指定なしの場合

プロパティの情報を空に設定します。

<config-property-value>タグが指定されていて， 値が空の場合

プロパティの情報を空に設定します。

<config-property-value>タグが指定されていて， 値が指定されている場合

プロパティに指定された値を設定します。

指定可能値

入力は無制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.8 セキュリティパーミッションの定義

Connector 属性ファイルのセキュリティパーミッションの定義の詳細について， タグごとに説明します。

なお， ここでは，「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <security-permission>

説明

セキュリティパーミッションについての定義。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <description>

説明

リソースアダプタのコードから要求されるセキュリティパーミッションについての説明。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(3) <security-permission-spec>

説明

セキュリティポリシーファイル上のセキュリティパーミッション。
変更不可。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

4.1.9 リソースアダプタの実行時情報

Connector 属性ファイルのリソースアダプタの実行時情報の詳細について、タグごとに説明します。

なお、ここでは、「[4.1.1 Connector 属性ファイルの指定内容](#)」に記載されている順番にタグの詳細について説明しています。

(1) <resourceadapter-runtime>

説明

Connector 1.5 の仕様に準拠するリソースアダプタに対してだけ指定できます。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(2) <property>

説明

リソースアダプタに関する独自情報を設定します。

指定可能値

—

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できません。

(3) <property-name>

説明

プロパティ名。

指定可能値

次のどれかを指定します。

- 「MaxTPoolSize」
- 「MinTPoolSize」
- 「TPoolKeepalive」

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(4) <property-type>

説明

プロパティのタイプ。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できません。

値の省略

省略できません。

(5) <property-value>

説明

プロパティ値の Java の型。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

(6) <property-default-value>

説明

プロパティのデフォルト値。

指定可能値

入力には制限されません。

タグの省略

省略できます。

値の省略

省略できます。

4.1.10 DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

DB Connector に設定する<config-property>タグに指定できる値について説明します。

なお、Reliable Messaging を使用する上で必要な情報については、マニュアル「Reliable Messaging」を参照してください。

(1) HiRDB Type4 JDBC Driver を使用して HiRDB に接続する場合

- DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar

トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。

指定できるプロパティについては、表 4-1 を参照してください。

- DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar

グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。

指定できるプロパティについては、表 4-2 を参照してください。

- DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar

グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。

指定できるプロパティについては、表 4-3 を参照してください。

表 4-1 DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コ	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。有効範囲は 0～4095 です。	0～4095 の整数で指定します。	10	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
アンテナ共通機能)」 －「3.14.4」		0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。			
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや UAP 強制停止時にステートメントのキャンセルを実行するかどうかを設定します。 true を指定した場合： 実行中の SQL をキャンセルします。 false を指定した場合： 実行中の SQL をキャンセルしません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
DBHostName	java.lang.String	接続する HiRDB および XDM/RD E2 のホスト名を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDBHostName メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-00
description	java.lang.String	データベースへの接続に必要な接続付加情報を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDescription メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-00
encodeLang	java.lang.String	データ変換時の文字セット名称を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setEncodeLang メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10
environmentVariables	java.lang.String	HiRDB クライアント環境変数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setEnvironmentVariables メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10
HiRDBCursorMode	java.lang.Boolean	HiRDB がコミットを行った場合に ResultSet クラスのオブジェクトを有効とするかを指定します。設定された値は、HiRDB	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setHiRDBCursorMode メソッドに渡されます。			
JDBC_IF_TRACE	java.lang.Boolean	JDBC インタフェースメソッド トレースの取得の有無を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setJDBC_IF_TRACE メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-00
loginTimeout	java.lang.Integer	getConnection メソッドで Connection オブジェクトを取得する際の、HiRDB サーバとの物理接続確立の最大待ち時間(秒)を指定します。 設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	8	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ トレースのレベルを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	07-00
LONGVARIABLE_ACCESS	java.lang.String	JDBC SQL タイプ LONGVARIABLE (HiRDB データ型である列属性 BLOB, 列属性 BINARY) のデータベースアクセス方法を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARIABLE_ACCESS メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	REAL	07-00
LONGVARIABLE_ACCESS_SIZE	java.lang.Integer	HiRDB サーバに対して一度に要求する JDBC SQL タイプ LONGVARIABLE 型データの長さを指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	0	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARBINARY_AccessSize メソッドに渡されます。			
LONGVARBINARY_TruncError	java.lang.Boolean	JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY 型データ取得時に切り捨てが発生した場合に例外を投入することを指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLONGVARBINARY_TruncError メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-10
maxBinarySize	java.lang.Integer	JDBC SQL タイプ LONGVARBINARY 型データ取得時のデータサイズの上限を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setMaxBinarySize メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	DBCConnector_HiRDB_Type4_CP.rar, DBCConnector_HiRDB_Type4_XA.rar のデフォルト値：0 DBCConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBCConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar のデフォルト値：64000	07-10
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。有効範囲は 0～4095 です。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～4095 の整数で指定します。	10	07-00
SQLInNum	java.lang.Integer	実行する SQL の入力?パラメタの最大数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	300	07-10

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSQLInNum メソッドに渡されます。			
SQLOutNum	java.lang.Integer	実行する SQL の検索項目の最大数を指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSQLOutNum メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	300	07-10
SQLWarningIgnore	java.lang.Boolean	データベースから返される警告を Connection クラスで保持しないかどうかの情報を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSQLWarningIgnore メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-00
SQLWarningLevel	java.lang.String	SQL 実行時に発生した警告保持レベルを指定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSQLWarningLevel メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	SQLWARN	07-10
TRC_NO	java.lang.Integer	JDBC インタフェースメソッド トレースのエントリ数を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setTRC_NO メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	500	07-00
uapName	java.lang.String	アプリケーション名称を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setUapName メソッドに渡されます。	マニュアル「HiRDB UAP 開発ガイド」を参照してください。	(空文字列)	07-10

表 4-2 DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定で
きるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を 指定します。 DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。

表 4-3 DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定で
きるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を 指定します。 DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。
XACloseString	java.lang.String	XA クローズ文字列を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXACloseString メソッドに渡されます。
XALocalCommitMode	java.lang.Boolean	トランザクションがグローバルトランザクションではないと きにオートコミット機能を有効にするかどうかを設定します。 設定された値は HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXALocalCommitMode メソッドに渡 されます。なお、false を指定した場合、リソースの接続テス ト (cjtestres コマンド)、コネクション障害検知機能が正常に 動作しません。リソースの接続テスト (cjtestres コマンド)、 コネクション障害検知機能を使用する場合、false は指定しな いください。 また、 DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar の場合、false は指定しないでください。 デフォルト値：true
XAOpenString	java.lang.String	XA オープン文字列を設定します。設定された値は、HiRDB Type4 JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXAOpenString メソッドに渡されます。

(2) MySQL Connector/J を使用して、MySQL に接続する場合

- DBConnector_MySQL_CP.rar

トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。
指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。

表 4-4 DBConnector_MySQL_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
databaseName	java.lang.String	オンプレミス環境, Amazon RDS, または Amazon Aurora の MySQL サーバ上の特定のデータベース名を指定します。指定した値は, MySQL Connector/J の setName メソッドに渡されます。詳細については, MySQL Connector/J のマニュアルを参照してください。	MySQL のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	11-30
serverName	java.lang.String	オンプレミス環境の場合, MySQL サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。Amazon RDS または Amazon Aurora の場合, 接続先のエンドポイント (DNS 名) を指定します。指定した値は, MySQL Connector/J の setServerName メソッドに渡されます。詳細については, MySQL Connector/J のマニュアルを参照してください。	MySQL のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	11-30
portNumber	java.lang.Integer	オンプレミス環境, Amazon RDS, または Amazon Aurora の MySQL のポート番号を指定します。指定した値は, MySQL Connector/J の setPortNumber メソッドに渡されます。詳細については, MySQL Connector/J のマニュアルを参照してください。	MySQL のマニュアルを参照してください。	3306	11-30
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや UAP 強制停止時にステートメントのキャンセルを実行するかどうかを設定します。 true を指定した場合 実行中の SQL を取り消します。 false を指定した場合 実行中の SQL を取り消しません。 Amazon Aurora または Amazon RDS の場合に RDS	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	11-30

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		Proxy を使用するときは、false を指定してください。			
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	11-30

(3) Oracle JDBC Thin Driver を使用して Oracle に接続する場合

- DBConnector_Oracle_CP.rar, DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。
指定できるプロパティについては、[表 4-5](#) を参照してください。
- DBConnector_Oracle_CP.rar または DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用します。
DBConnector_Oracle_CP.rar で指定できるプロパティについては、[表 4-6](#) を参照してください。また、DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar で指定できるプロパティについては、[表 4-7](#) を参照してください。
- DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar
グローバルトランザクションを使用する場合に使用します。また、Reliable Messaging と連携する場合は、DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用します。
DBConnector_Oracle_XA.rar で指定できるプロパティについては、[表 4-6](#) および [表 4-8](#) を参照してください。また、DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar で指定できるプロパティについては、[表 4-7](#) および [表 4-8](#) を参照してください。

なお、プロパティで設定可能な値については、Oracle のマニュアルを参照してください。

表 4-5 DBConnector_Oracle_CP.rar, DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_Oracle_XA.rar または

DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コネクテナ共通機能)」 － 「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや業務アプリケーション強制停止時に、Statement クラス、CallableStatement クラスおよび PreparedStatement クラスで実行中の SQL をキャンセルするかどうかを指定します。 true を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルします。 false を指定した場合 実行中の SQL をキャンセルしません。 専用サーバ接続をする場合は、false を指定してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
ConnectionIDUpdate	java.lang.Boolean	コネクション ID を DataSource#getConnection メソッドごとに更新するかどうかを指定します。 true を指定した場合 DataSource#getConnection メソッドのたびにコネクション ID を生成します。 false を指定した場合 DataSource#getConnection メソッドで新規の物理コネクションを確立したときにコネクション ID を生成し、そのあとは更新しません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-00
databaseName	java.lang.String	Oracle サーバ上の特定のデータベース名 (SID) を指定します。設定された値は、Oracle JDBC	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setDatabaseName メソッドに渡されます。			
loginTimeout	java.lang.Integer	データベースへの接続試行のタイムアウト（単位：ミリ秒）を指定します。設定された値は秒単位に切り上げて、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。ただし、秒単位に切り上げた値を setLoginTimeout メソッドに渡します。	8000	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。 次の値が指定できます。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	07-00
portNumber	java.lang.Integer	Oracle のサーバが要求をリスニングするポート番号を指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setPortNumber メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。	1521	07-00
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 ー「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
serverName	java.lang.String	Oracle サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。設定された値は、Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setServerName メソッドに渡されます。	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
url	java.lang.String	Oracle JDBC Thin Driver がデータベースに接続するために必要な JDBC URL を指定します。設定された値は Oracle JDBC Thin Driver の DataSource 系インタフェースの setURL メソッドに渡されます。 このプロパティに値が設定された場合、databaseName, portNumber, serverName で指定された値は無視されます。また、ユーザが url で指定を行う場合は JDBC URL に thin ドライバを指定します。 (例) <pre>jdbc:oracle:thin:@ServerA:1521:service1</pre>	Oracle のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00

表 4-6 DBConnector_Oracle_CP.rar または DBConnector_Oracle_XA.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
appendZero	java.lang.Boolean	java.sql.ResultSet インタフェースの getString メソッドで、NUMBER 型または、FLOAT 型の列から、整数部が 0 である小数を取得する場合、整数部に 0 を補完するかどうかを指定します。 true を指定した場合 整数部に 0 を補完します。 false を指定した場合 整数部に 0 を補完しません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	09-50
forceFixedString	java.lang.Boolean	java.sql.PreparedStatement インタフェースの setString メソッドまたは、setObject メソッドで、CHAR 型（固定長文字列）の列の値を設定する際に、その値が列のサイズよりも小さい場合は、列のサイズに合わせて空白文字を埋め込むかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	09-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		true を指定した場合 固定長文字列の空白文字を埋め込みます。 false を指定した場合 固定長文字列の空白文字を埋め込みません。			

表 4-7 DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
linkedResourceAdapterName	java.lang.String	連携する Reliable Messaging リソースアダプタの表示名を指定します。 DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できます。

表 4-8 DBConnector_Oracle_XA.rar または DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
sessionTimeout	java.lang.Integer	Oracle サーバでのセッションタイムアウト（トランザクションブランチがアクティブでない状態でいられる最大時間）を秒単位で指定します。J2EE サーバのトランザクションタイムアウトよりも長い時間を指定する必要があります。デフォルト値は 300 秒です。設定された値は Oracle JDBC Thin Driver の XAResource.setTransactionTimeout メソッドに渡されます。

(4) PostgreSQL JDBC Driver を使用して、PostgreSQL に接続する場合

- DBConnector_PostgreSQL_CP.rar
トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。

表 4-9 DBConnector_PostgreSQL_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
databaseName	java.lang.String	オンプレミス環境, Amazon RDS, または Amazon Aurora の PostgreSQL サーバ上の特定のデータベース名を指定します。指定した値は, PostgreSQL JDBC Driver の <code>setDatabaseName</code> メソッドに渡されます。詳細については, PostgreSQL JDBC Driver のマニュアルを参照してください。	PostgreSQL のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	11-30
serverName	java.lang.String	オンプレミス環境の場合, PostgreSQL サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。Amazon RDS または Amazon Aurora の場合, 接続先のエンドポイント (DNS 名) を指定します。指定した値は, PostgreSQL JDBC Driver の <code>setServerName</code> メソッドに渡されます。詳細については, PostgreSQL JDBC Driver のマニュアルを参照してください。	PostgreSQL のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	11-30
portNumber	java.lang.Integer	オンプレミス環境, Amazon RDS, または Amazon Aurora の PostgreSQL のポート番号を指定します。指定した値は, PostgreSQL JDBC Driver の <code>setPortNumber</code> メソッドに渡されます。詳細については, PostgreSQL JDBC Driver のマニュアルを参照してください。	PostgreSQL のマニュアルを参照してください。	5432	11-30
PreparedStatementPoolSize	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの <code>PreparedStatement</code> のプールサイズを設定します。	0~2147483647 の整数で指定します。	10	11-30
CallableStatementPoolSize	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの <code>CallableStatement</code> のプールサイズを設定します。	0~2147483647 の整数で指定します。	10	11-30
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトや UAP 強制停止時にステートメントのキャンセルを実行するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true	true	11-30

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		true を指定した場合 実行中の SQL を取り消します。 false を指定した場合 実行中の SQL を取り消しません。	• false		
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	11-30

(5) SQL Server JDBC Driver を使用して、SQL Server に接続する場合

• DBConnector_SQLServer_CP.rar

トランザクション管理をしない場合、またはローカルトランザクションを使用する場合に使用します。指定できるプロパティについては、次の表を参照してください。なお、プロパティ情報にはパスワードを含むことがあるため、セキュリティポリシーに従って、ファイルのアクセス権を厳重に管理してください。

表 4-10 DBConnector_SQLServer_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
applicationIntent	java.lang.String	SQL Server 可用性グループまたは SQL Server フェールオーバークラスター機能使用時に、フェールオーバー先のデータベースへの接続を、読み取り専用、または読み取り／書き込みを指定します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setApplicationIntent メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のマニュアルを参照してください。 SQL Server JDBC Driver を使用する場合に指定できます。	次のどれかを指定します。 • ReadOnly • ReadWrite	ReadWrite	09-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
applicationName	java.lang.String	SQL Server に接続するアプリケーションの名前を指定します。設定された値は、SQL Server の管理ツールなどに表示されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setApplicationName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50
CallableStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの CallableStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
CancelStatement	java.lang.Boolean	トランザクションタイムアウトやアプリケーションの強制停止時にステートメントのキャンセル機能を実行するかどうかを設定します。 true を設定した場合 ステートメントのキャンセル機能が実行されます。 false を設定した場合 ステートメントのキャンセル機能は実行されません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
databaseName	java.lang.String	接続する SQL Server のデータベース名を指定します。値を指定しない場合には、すでに定義されたデータベースに接続されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setDatabaseName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00
encrypt	java.lang.String	クライアントとサーバ間で送信されるすべてのデータに対して SQL Server で TLS 暗号化が使用されるかどうかを指定します。 true を設定した場合 TLS 暗号化が使用されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	デフォルト値は使用する JDBC ドライバに依存するため、詳細については、SQL Server	11-30

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		false を設定した場合 TLS 暗号化が使用されません。 設定された値は、setEncrypt メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。		JDBC Driver のマニュアルを参照してください。	
failoverPartner	java.lang.String	データベースミラーリング構成で使用するフェイルオーバーサーバの名前を指定します。databaseName プロパティと組み合わせて使用してください。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setFailoverPartner メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50
hostNameInCertificate	java.lang.String	SQL Server の TLS/SSL 証明書の検証に使われるホスト名を指定します。このプロパティが指定されていない場合、serverName プロパティの値をホスト名として使用して SQL Server の TLS/SSL 証明書を検証します。 設定された値は、setHostNameInCertificate メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。	入力は制限されません。	(空文字列)	11-30
instanceName	java.lang.String	接続する SQL Server のインスタンス名を指定します。値を指定しない場合は、既定のインス	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		タンスに接続されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setInstanceName メソッドに渡されます。			
integratedSecurity	java.lang.Boolean	SQL Server へ接続するための認証方法を指定します。 true を設定した場合 Windows 認証を使用します。 false を設定した場合 SQL Server 認証を使用します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setIntegratedSecurity メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-50
lastUpdateCount	java.lang.Boolean	サーバに渡された SQL ステートメントから、最終的な更新数だけを返すかどうかを指定します。 true を設定した場合 サーバに渡された SQL ステートメントから、最終的な更新数だけを返します。 また、SELECT, INSERT, および DELETE ステートメントのどれか一つで使用して、サーバのトリガによって追加された更新数を無視することができます。 false を設定した場合 サーバのトリガによって返される更新数を含む、すべての更新数が返されます。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLastUpdateCount メソッド	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		に渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。			
lockTimeout	java.lang.Integer	データベースがロックタイムアウトを通知するまでに待機する時間（単位：ミリ秒）を指定します。-1 を指定するとタイムアウトは無限になります。0 を指定すると待機しないことになります。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLockTimeout メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	-1	07-50
loginTimeout	java.lang.Integer	データベースへの接続試行中に、データソースが待機する最長時間（単位：秒）を設定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setLoginTimeout メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	8	07-00
logLevel	java.lang.String	DB Connector が出力するログ・トレースのレベルを指定します。 次の値が指定できます。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	次のどれかを指定します。 • 0 または ERROR • 10 または WARNING • 20 または INFORMATION	ERROR	07-00
multiSubnetFailover	java.lang.Boolean	SQL Server 可用性グループまたは SQL Server フェールオーバークラスターインスタンスの可用性グループリスナーに接続する場合、true を指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setMultiSubnetFailover メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のマニュアルを参照してください。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	09-50

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		SQL Server JDBC Driver を使用する場合に指定できます。			
packetSize	java.lang.Integer	SQL Server との通信に使用されるネットワークパケットサイズ (単位: バイト) を指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setPacketSize メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	4096	07-50
portNumber	java.lang.Integer	接続する SQL Server のポート番号を指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setPortNumber メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	1433	07-00
PreparedStatementPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 － 「3.14.4」	java.lang.Integer	コネクションプールに割り当てられるコネクションごとの PreparedStatement のプール数を設定します。 0 を指定した場合、ステートメントをプールしません。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	07-00
selectMethod	java.lang.String	select 文の実行時に、データベースカーソルを使用するかどうかを指定します。 小文字で設定してください。 cursor データベースカーソルが作成されます。データベースの検索結果を分割してクライアントに返します。 direct データベースカーソルは作成されません。データベースの検索結果を一度の要求ですべてクライアントに返します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの	指定できる文字列を次に示します。 • cursor • direct	cursor	07-00

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		setSelectMethod メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。			
sendStringParametersAsUnicode	java.lang.Boolean	SQL Server に送信される文字列パラメータを Unicode で送るか、データベースのデフォルトの文字エンコーディングで送るかを指定します。 true を設定した場合 文字列パラメータは Unicode で送られます。 false を設定した場合 文字列パラメータはデータベースのデフォルトの文字エンコーディングで送られます。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setSendStringParametersAsUnicode メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
serverName	java.lang.String	オンプレミス環境の場合、接続する SQL Server のホスト名または IP アドレスを指定します。Azure SQL の場合、接続先のエンドポイント（DNS 名）を指定します。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setServerName メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-00
sslProtocol	java.lang.String	SQL サーバ接続時の TLS のプロトコルを指定します。設定された値は、setSSLProtocol メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。	指定できる文字列を次に示します。 • TLS • TLSv1 • TLSv1.1 • TLSv1.2	TLS	11-30
trustServerCertificate	java.lang.Boolean	サーバの TLS/SSL 証明書を検証するかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。	false	11-30

4. リソースの設定で使用する属性ファイル

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		true を設定した場合 TLS/SSL 証明書を検証しません。 false を設定した場合 TLS/SSL 証明書を検証します。 設定された値は、 setTrustServerCertificate メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。	• true • false		
trustStore	java.lang.String	trustStore ファイルへのパスを指定します。 設定された値は、setTrustStore メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。	入力制限されません。	(空文字列)	11-30
trustStorePassword	java.lang.String	trustStore データの整合性を確認するために使用するパスワードを指定します（認証機関によって署名された内容から変更されていないか、整合性をチェックします）。 設定された値は、setTrustStorePassword メソッドに渡されます。詳細については、SQL Server JDBC Driver のドキュメントを参照してください。 このプロパティは、SQL Server JDBC Driver のバージョンが 10.2 以降の場合だけ指定できます。	入力制限されません。	(空文字列)	11-30

config-property-name	config-property-type	config-property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
workstationID	java.lang.String	アプリケーションサーバのホスト名を指定します。設定された値は、SQL Server の管理ツールなどに表示されます。設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setWorkstationID メソッドに渡されます。	SQL Server のマニュアルを参照してください。	(空文字列)	07-50
xopenStates	java.lang.Boolean	java.sql.SQLException.getState() メソッドの戻り値の SQL 規格を指定します。 true を設定した場合 getState() メソッドは、X/Open 規格で定義された状態コードを返します。 false を設定した場合 getState() メソッドは、SQL 99 規格で定義された状態コードを返します。 設定された値は、SQL Server JDBC Driver の DataSource 系インタフェースの setXopenStates メソッドに渡されます。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	false	07-50

(6) TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>に指定できるプロパティ

TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティについて説明します。

表 4-11 TP1 インバウンドアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
backlog_count	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートの Listen キューの長さを、1～4096 の整数で指定します。デフォルト値は 50 です。 指定できるキューの長さの最大値は OS ごとに異なります。詳細は各 OS の listen() について説明しているマニュアル、および各 OS の TCP/IP について説明しているドキュメントを参照してください。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
connection_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の応答を送信するときのコネクション確立処理のタイムアウト時間（秒単位）を、0～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 8 です。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。
ipc_sockctl_watchtime	java.lang.Integer	一時クローズ応答の待ち時間（秒単位）を、0～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 180 です。 0 を指定した場合は動作しません。
ipc_tcpnodelay	java.lang.Boolean	OpenTP1 とのコネクションの接続で使用するソケットに TCP_NODELAY オプションを使用するかどうかを指定します。 • true を指定した場合 TCP_NODELAY オプションを使用します。 • false を指定した場合 TCP_NODELAY オプションを使用しません。 デフォルト値は false です。
max_connections	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートへの最大同時接続数を、1～2032 の整数で指定します。デフォルト値は 64 です。
node_id	java.lang.String	ノード識別子を 4 文字で指定します。 1 文字目は英字（A～Z a～z）、2 文字目以降は、英数字（A～Z a～z 0～9）、またはアンダースコア「_」で指定してください。TP1 インバウンドアダプタごとに一意な文字列を指定してください。デフォルトは Cos_ です。
receive_buffer_size	java.lang.Integer	受信時の受信バッファサイズを、8192～10485761 の整数で指定します。デフォルト値は 8192 です。
rpc_close_after_send	java.lang.Boolean	OpenTP1 へ電文を送信したあとにコネクションを切断するかどうかを指定します。 • true を指定した場合 OpenTP1 へ電文を送信したあと、コネクションを切断します。 • false を指定した場合 OpenTP1 へ電文を送信したあと、コネクションを切断しません。 デフォルト値は false です。08-50 と同様にする場合は true を指定してください。
rpc_max_thread_count	java.lang.Integer	最大同時 RPC 要求受け付けスレッド数を、1～1024 の整数で指定します。デフォルト値は 10 です。
rpc_receive_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の受信のタイムアウト時間（秒単位）を、0～65535 の整数で指定します。デフォルトは 180 です。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
rpc_receive_timeout_interval	java.lang.Integer	RPC 要求の受信のタイムアウト監視の監視間隔を、1～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 5 です。
rpc_sockctl_highwater	java.lang.Integer	RPC 受信コネクションの一時クローズ処理開始のしきい値（パーセント（%）単位）を、0～100 の整数で指定します。デフォルト値は 100 です。
rpc_sockctl_lowwater	java.lang.Integer	RPC 受信コネクションの一時クローズ処理を非対象とするコネクション数の割合（パーセント（%）単位）を、0～100 の整数で指定します。デフォルト値は 0 です。
scd_port	java.lang.Integer	RPC 要求を待ち受けるポートのポート番号を、5001～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 23700 です。
send_buffer_size	java.lang.Integer	応答時の送信バッファサイズを、8192～10485761 の整数で指定します。デフォルト値は 8192 です。
send_retry_count	java.lang.Integer	サーバの応答送信時に TCP/IP コネクションの接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を、0～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 1 です。 0 を指定した場合は、リトライしません。
send_retry_interval	java.lang.Integer	サーバの応答送信時に TCP/IP コネクションの接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔（ミリ秒単位）を、0～300000 の整数で指定します。デフォルト値は 0 です。 0 を指定した場合、間隔を空けないでリトライします。 このプロパティは、send_retry_count に 1～65535 を指定した場合に有効になります。
service_group	java.lang.String	TP1 インバウンドアダプタのサービスグループ名を 1～31 文字で指定します。 1 文字目が英字（A～Z a～z）、2 文字目以降は英数字（A～Z a～z 0～9）もしくはアンダースコア「_」で指定してください。 J2EE サーバ内で一意のサービスグループ名を指定してください。
tcp_receive_timeout	java.lang.Integer	コネクションを接続してから、またはデータを受信してから、次のデータを受信するまでのタイムアウト時間（秒単位）を、0～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 10 です。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。
tcp_send_timeout	java.lang.Integer	RPC 要求の応答送信時のタイムアウト時間（秒単位）を、0～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 10 です。 0 を指定した場合はタイムアウトしません。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
tcp_send_timeout_interval	java.lang.Integer	RPC 要求の応答送信時のタイムアウト監視の監視間隔を、1～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 5 です。 なお、08-53 以降ではこのプロパティの設定は無視されます。
trn_max_connections	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの最大同時接続数を、1～2032 の整数で指定します。デフォルト値は 64 です。
trn_max_thread_count	java.lang.Integer	最大同時同期点電文送受信スレッド数を、1～1024 の整数で指定します。デフォルト値は 1 です。
trn_port	java.lang.Integer	同期点待ち受けポートのポート番号を、5001～65535 の整数で指定します。デフォルト値は 23900 です。
trn_socketctl_highwater	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの一時クローズ処理開始のしきい値（パーセント（%）単位）を、0～100 の整数で指定します。デフォルト値は 100 です。
trn_socketctl_lowwater	java.lang.Integer	RPC 送信コネクションの一時クローズ処理を非対象とするコネクション数の割合（パーセント（%）単位）を、0～100 の整数で指定します。デフォルト値は 0 です。

4.1.11 CJMS プロバイダのリソースアダプタに設定する<config-property>タグに指定できるプロパティ

CJMS プロバイダのリソースアダプタ（CJMSP リソースアダプタ）に設定する<config-property>タグに指定できる値について説明します。

なお、CJMSP リソースアダプタのプロパティの設定では、テンプレートファイルを使用できます。テンプレートファイルについては、「[4.1.13 Connector 属性ファイルのテンプレートファイル](#)」を参照してください。

(1) リソースアダプタ（<resourceadapter>）の設定

リソースアダプタに設定できるプロパティについて説明します。

表 4-12 リソースアダプタ（<resourceadapter>）に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
connectionURL	java.lang.String	CJMS プロバイダと接続するための URL を指定します。URL には、ホスト名、ポート番号およびサービス名が含まれます。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
reconnectAttempts	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を、1～2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 6 です。
reconnectEnabled	java.lang.Boolean	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合にリトライを実行するかどうかを、true（リトライする）または false（リトライしない）で指定します。デフォルト値は false です。
reconnectInterval	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔（ミリ秒単位）を、0～2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 30000 です。

指定例を次に示します。

```
<resourceadapter-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.jms.ra.ResourceAdapter</resource
adapter-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ConnectionURL</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>mq://localhost:7676</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectEnabled</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>>false</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectAttempts</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>6</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectInterval</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>30000</config-property-value>
  </config-property>
```

注意事項

リソースアダプタのプロパティの設定で、キューまたはトピックごとの管理対象オブジェクト（AdminObject）の値を編集しないでリソースアダプタを開始しようとすると、例外がスローされます。この例外は、J2EE サーバのログディレクトリ下の cjexceptionN.log（N はログファイルの面数）に出力されます。

(2) ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) の設定

ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) に設定できるプロパティについて説明します。

表 4-13 ManagedConnectionFactory (<managedconnectionfactory-class>の<config-property>) に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
clientId	java.lang.String	CJMS プロバイダと接続するためのクライアントの ID を指定します。
reconnectAttempts	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ回数を、1～2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 6 です。
reconnectEnabled	java.lang.Boolean	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合にリトライを実行するかどうかを、true (リトライする) または false (リトライしない) で指定します。デフォルト値は false です。
reconnectInterval	java.lang.Integer	CJMS プロバイダとの接続でエラーが発生した場合のリトライ間隔 (ミリ秒単位) を、1～2147483647 の整数で指定します。デフォルト値は 30000 です。

指定例を次に示します。なお、clientId はデフォルトの状態では設定されていません。必要に応じて、背景色付きの太字の部分を追加してください。

```
<managedconnectionfactory-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.jms.ra.ManagedConnectionFactory</managedconnectionfactory-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectEnabled</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Boolean</config-property-type>
    <config-property-value>>false</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectAttempts</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>6</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"/>
    <config-property-name>ReconnectInterval</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.Integer</config-property-type>
    <config-property-value>30000</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <config-property-name>ClientId</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
```

```
<config-property-value>Test</config-property-value>
</config-property>
```

(3) 管理対象オブジェクト（<adminobject>）の設定

管理対象オブジェクト（<adminobject>の<config-property>）に設定できるプロパティについて説明します。

表 4-14 管理対象オブジェクト（<adminobject>の<config-property>）に設定できるプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
Description	java.lang.String	付加情報を指定するプロパティです。必要な説明を指定してください。空白も指定できます。
Name	java.lang.String	<adminobject>タグ下に指定した送信先を作成する際に使用する、送信先の名前を指定します。送信先は、このプロパティに指定した名前で作成されます。

管理対象オブジェクトの設定のタグ情報を次に示します。この例は、キューを作成する例です。トピックを作成する場合は、送信先の種類を変更してください。

```
<adminobject>
  <adminobject-name>TestQueue</adminobject-name>
  <adminobject-interface>javax.jms.Queue</adminobject-interface>
  <adminobject-class>com.cosminexus.jmsprovider.messaging.Queue</adminobject-class>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>Name</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value>TestQueue</config-property-value>
  </config-property>
  <config-property>
    <description xml:lang="en"></description>
    <config-property-name>Description</config-property-name>
    <config-property-type>java.lang.String</config-property-type>
    <config-property-value></config-property-value>
  </config-property>
</adminobject>
```

(4) ログに関する設定

ログについて設定するプロパティについて説明します。

表 4-15 ログについて設定するプロパティ

config-property-name	config-property-type	config-property-value
ExpLogFileNum	java.lang.Integer	例外ログを出力するログファイルの最大数を指定します。1～16の整数で指定します。デフォルト値は2です。

config-property-name	config-property-type	config-property-value
ExpLogFileSize	java.lang.Integer	例外ログを出力するログファイルの最大サイズをバイトで指定します。8192～4194304 の整数で指定します。デフォルト値は 1048576 です。 指定したサイズに到達すると、新しいファイルが作成され、ログの出力先が作成したファイルに切り替わります。
MsgLogFileNum	java.lang.Integer	メッセージログを出力するログファイルの最大数を指定します。1～16 の整数で指定します。デフォルト値は 2 です。
MsgLogFileSize	java.lang.Integer	メッセージログを出力するログファイルの最大サイズをバイトで指定します。8192～4194304 の整数で指定します。デフォルト値は 1048576 です。 指定したサイズに到達すると、新しいファイルが作成され、ログの出力先が作成したファイルに切り替わります。
MsgLogLevel	java.lang.String	ログのレベルを指定します。 指定したレベルに基づいた情報がログファイルに出力されます。 次のどれかの値を指定できます。 • ERROR • WARNING • INFO デフォルトは ERROR です。

■ 注意事項

- CJMSP リソースアダプタのログファイルは、<ejb.server.log.directory>ディレクトリ下の cjms ディレクトリに出力されます。cjms ディレクトリがない場合は、<ejb.server.log.directory>ディレクトリ下に cjms ディレクトリが作成され、ログが出力されます。
- リソースアダプタのプロパティの検証は、J2EE サーバと CJMSP リソースアダプタの両方で実施されます。J2EE サーバによるプロパティの検証で問題があった場合、J2EE サーバのログファイルにエラーメッセージが出力され、処理が停止します。CJMSP リソースアダプタによるプロパティの検証で問題があった場合、CJMSP リソースアダプタのログファイルに警告メッセージが出力されますが、プロパティの値をデフォルト値として処理は続行されます。

4.1.12 <property>タグに指定できるプロパティ

<property>タグに指定できる値について説明します。

表 4-16 <property>タグに設定する情報一覧

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
ConnectionPoolAdjustmentInterval	int	コネクション数調節機能の動作間隔を整数（単位：秒）で指定します。 0 を指定した場合は動作しません。	0～2147483647 の整数で指定します。	600	06-70
ConnectionTimeout	int	コネクション解放までのタイムアウト値を整数（単位：秒）で指定します。 コネクションの最終利用時刻からタイムアウト判定までの時間が指定値を超えるとコネクションスリーパによる削除対象になります。0 を指定した場合はタイムアウトしません。 3600 以上の値を設定することを推奨しています。	0～2147483647 の整数で指定します。	0	06-50
LogEnabled	boolean	LogWriter によるログ出力をするかどうかを指定します。 true を指定した場合： LogWriter によるログ出力をします。 false を指定した場合： LogWriter によるログ出力をしません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	05-05
MaxPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.14.1」	int	プール内のコネクションの最大数を指定します。なお、-1 を指定した場合は無制限となります。	指定できる値（整数）を次に示します。 • -1 • 0～2147483647	10	05-05
MaxThreadPoolSize [※]	int	スレッドプールで同時に実行される最大スレッド数を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class>が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。	1～2147483647 の整数で指定します。	10	07-50
MinPoolSize 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」	int	プール内のコネクションの最小数を指定します。	0～2147483647 の整数で指定します。	10	05-05

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
能)」 －「3.14.1」					
MinTPoolSize※	int	スレッドプールに存在する最小スレッド数を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class>が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。	0～1024の整数で指定します。	0	07-50
NetworkFailureTimeout	boolean	ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にするかどうかを指定します。 true を指定した場合： ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを有効にします。 false を指定した場合： ネットワーク障害検知機能のタイムアウトを無効にします。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	07-00
Password	String	パスワード。 <property-value>タグに値が設定されている場合は、セキュリティ上の理由で表示されません。変更する場合は、<property-value>タグを追加して、変更後の値を設定してください。 cjgetresprop, cjgetrarprop 実行時に、<property-name>タグに「User」または「Password」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。 値が設定されている場合： コメントタグ<!-- The property-value has already been set. --> 値が設定されていない場合： 空タグ<>	入力は制限されません。	なし	05-05
RequestQueueEnable	boolean	コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列を有効にするかどうかを指定します。	指定できる文字列を次に示します。 • true	true	06-50

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		true を指定した場合： コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を有効にします。 false を指定した場合： コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列機能を無効にします。	• false		
RequestQueueTimeout	int	コネクション枯渇時のコネクション取得待ち行列のとどまることのできる時間の最大値を整数（単位：秒）で指定します。0 を指定した場合、待ち行列で無制限に待ち続けます。	0～2147483647 の整数で指定します。	30	06-50
RetryCount	int	コネクション取得リトライ回数を整数（単位：回）で指定します。	0～2147483647 の整数で指定します。	0	05-05
RetryInterval	int	コネクション取得リトライ間隔を整数（単位：秒）で指定します。 RetryCount が 1 以上の場合に有効です。	1～2147483647 の整数で指定します。	10	05-05
SweeperInterval	int	コネクションスイーパー動作時間間隔を整数（単位：秒）で指定します。 指定した間隔でコネクションスイーパーが動作して、タイムアウトしたコネクションを削除します。0 を指定した場合は動作しません。 3600 以上の値を設定することを推奨しています。	0～2147483647 の整数で指定します。	0	06-50
TPoolKeepalive*	int	スレッドプールのスレッド解放までのタイムアウト値（秒）を整数で指定します。 ライフサイクル管理機能が有効でない場合 (<resourceadapter-class>が指定されていない場合)、プロパティ値は無視されます。	1～2147483647 の整数で指定します。	300	07-50
User	String	ユーザ名。 <property-value>タグに値が設定されている場合は、セキュ	入力は制限されません。	なし	05-05

4. リソースの設定で使用する属性ファイル

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		リティ上の理由で表示されません。変更する場合は、<code><property-value></code> タグを追加して、変更後の値を設定してください。 <code>cjgetresprop</code>, <code>cjgetrarprop</code> 実行時に、<code><property-name></code> タグに「User」または「Password」が設定されている場合、タグは次のように表示されます。 値が設定されている場合： コメントタグ<code><!-- The property-value has already been set. --></code> 値が設定されていない場合： 空タグ<code><></code>			
ValidationInterval	int	コネクションチェック間隔を整数（単位：秒）で指定します。	1～2147483647 の整数で指定します	3600	05-05
ValidationType 「機能解説 基本・開発編(コンテナ共通機能)」 －「3.15.1」	int	コネクションチェック契機。指定可能な値は次のとおりです。 0：コネクションチェック機能オフ 1：コネクション取得時にチェック 2：一定間隔でチェック	指定できる値（整数）を次に示します。 0 1 2	1	05-05
Warmup	boolean	コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にするかどうかを指定します。 true を指定した場合： コネクションプールのウォーミングアップ機能を有効にします。 false を指定した場合： コネクションプールのウォーミングアップ機能を無効にします。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	07-00
WatchEnabled	boolean	コネクションプール監視のアラート出力を有効にするかどうかを指定します。 true を指定した場合： 有効にします。	指定できる文字列を次に示します。 - true - false	true	06-50

property-name	property-type	property-value	指定可能値	デフォルト	バージョン
		false を指定した場合： 無効にします。			
WatchInterval	int	コネクションプール監視間隔を整数（単位：秒）で指定します。	1～2147483647 の整数で指定します。	30	06-50
WatchThreshold	int	コネクションプール使用状態を監視するしきい値を整数（単位：%）で指定します。	1～100 の整数で指定します。	80	06-50
WatchWriteFileEnabled	boolean	コネクションプール監視結果をファイル出力するかどうかを指定します。 true を指定した場合： ファイル出力します。 false を指定した場合： ファイル出力しません。	指定できる文字列を次に示します。 • true • false	true	06-50

（凡例）－：設定なし

注※ ライフサイクル管理機能が有効でない場合（<resourceadapter-class>が指定されていない場合）、プロパティ値は無視されます。

4.1.13 Connector 属性ファイルのテンプレートファイル

DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのプロパティを新規に設定する場合, Component Container が提供しているテンプレートファイルが利用できます。

このテンプレートファイルを使用すると, DB Connector をインポートする前に, Connector 属性ファイルを編集しておくことができます。テンプレートファイルはコピーして使用してください。テンプレートファイルは xml ファイル形式です。

なお, すでにプロパティが設定されている DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのプロパティを変更する場合は, テンプレートファイルは使用しないでください。インポートした DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタの Connector 属性を取得して, Connector 属性ファイルを編集してください。

ここでは, DB Connector, TP1 インバウンドアダプタ, および CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイルの格納先と, テンプレートファイルについて説明します。

(1) DB Connector のテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合

<Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%templates%

- UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CC/admin/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している DB Connector のテンプレートファイルを次に示します。

表 4-17 DB Connector のテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（ローカルランザクション用）。
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（グローバルランザクション用）。
DBConnector_MySQL_CP_cfg.xml	MySQL Connector/J 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレート（ローカルランザクション用）。
DBConnector_Oracle_CP_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（ローカルランザクション用）。
DBConnector_Oracle_XA_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（グローバルランザクション用）。
DBConnector_PostgreSQL_CP_1130_cfg.xml	PostgreSQL JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性ファイルのテンプレート（ローカルランザクション用）。
DBConnector_SQLServer_CP_cfg.xml	SQL Server JDBC Driver 用 DB Connector の Connector 属性のテンプレートファイル（ローカルランザクション用）。
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（ローカルランザクション用）。
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM_cfg.xml	HiRDB Type4 JDBC Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（グローバルランザクション用）。
DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性ファイルのテンプレートファイル（ローカルランザクション用）。
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM_cfg.xml	Oracle JDBC Thin Driver 用 DB Connector for Reliable Messaging の Connector 属性のテンプレートファイル（グローバルランザクション用）。

(2) TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合
 <Application Server のインストールディレクトリ>%CC%admin%templates%
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/admin/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイルを次に示します。

表 4-18 TP1 インバウンドアダプタのテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
TP1InboundAdapter_cfg.xml	TP1 インバウンドアダプタの Connector 属性ファイルのテンプレートファイル。

(3) CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイル

ファイルの格納先

- Windows の場合
 <Application Server のインストールディレクトリ>%CC%cjmsp%lib%templates%
- UNIX の場合
 /opt/Cosminexus/CC/cjmsp/lib/templates/

テンプレートファイル

Component Container が提供している CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイルを次に示します。

表 4-19 CJMS プロバイダのリソースアダプタのテンプレートファイル一覧

テンプレートファイル名	説明
Cosminexus_JMS_Provider_RA_cfg.xml	Cosminexus_JMS_Provider_RA 用の属性ファイルのテンプレートファイル。

(4) 注意事項

テンプレートファイルで提供している属性ファイルをサーバ管理コマンド以外の方法で使用する場合、DOCTYPE 宣言内の URL の指定を、使用している環境に合わせて書き直す必要があります。

例

変更前

C:/Program%20Files/Hitachi/Cosminexus

変更後

<Application Server のインストールディレクトリ>

4.1.14 DD との対応

Connector 属性ファイルと Deployment Descriptor の対応を次に示します。

(1) Connector1.0 の場合

Connector 属性ファイル			Deployment Descriptor	
タグ名	出現パターン		タグ名	出現パターン
<hitachi-connector-property>	1 回		<connector>	1 回
└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 または 1 回
└ <display-name>	0 回以上		└ <display-name>	0 または 1 回
└ <icon>	0 回以上		└ <icon>	0 または 1 回
└ └ <small-icon>	0 または 1 回		└ └ <small-icon>	0 または 1 回
└ └ <large-icon>	0 または 1 回		└ └ <large-icon>	0 または 1 回
└ <vendor-name>	1 回		└ <vendor-name>	1 回
└ <spec-version>	1 回		└ <spec-version>	1 回
└ <eis-type>	1 回		└ <eis-type>	1 回
└ <version>	1 回		└ <version>	1 回
└ <license>	0 または 1 回		└ <license>	0 または 1 回
└ └ <description>	0 回以上		└ └ <description>	0 または 1 回

Connector 属性ファイル						Deployment Descriptor				
タグ名				出現パターン		タグ名			出現パターン	
		<license-required>				1 回			<license-required>	1 回
	<resourceadapter>				1 回		<resourceadapter>			1 回
			<outbound-resourceadapter>			0 または 1 回		—		—
				<connection-definition>		1 回以上		—		—
					<managedconnectionfactory-class>	1 回		<managedconnectionfactory-class>		1 回
					<config-property>	0 回以上		<config-property>		0 回以上
					<description>	0 回以上			<description>	0 または 1 回
					<config-property-name>	1 回			<config-property-name>	1 回
					<config-property-type>	1 回			<config-property-type>	1 回
					<config-property-value>	0 または 1 回			<config-property-value>	0 または 1 回
					<connectionfactory-interface>	1 回		<connectionfactory-interface>		1 回
					<connectionfactory-impl-class>	1 回		<connectionfactory-impl-class>		1 回
					<connection-interface>	1 回		<connection-interface>		1 回
					<connection-impl-class>	1 回		<connection-impl-class>		1 回
					<connector-runtime>	0 または 1 回		—		—
			(省略)			—		—		—
		<transaction-support>				1 回		<transaction-support>		1 回

Connector 属性ファイル						Deployment Descriptor				
タグ名				出現パターン		タグ名			出現パターン	
			—		—		┌	<authentication-mechanism>		0 回以上
								┌	<description>	0 または 1 回
			—		—			┌	<authentication-mechanism-type>	1 回
								┌	<credential-interface>	1 回
			—		—			┌	<reauthentication-support>	1 回
								┌	<security-permission>	0 回以上
			<security-permission>	1 回				┌	<security-permission>	0 回以上
			<description>	0 回以上				┌	<description>	0 または 1 回
			<security-permission-spec>	1 回				┌	<security-permission-spec>	1 回
			<resourceadapter-runtime>	0 または 1 回					—	—
—	—	—	—	—		—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

(2) Connector1.5 の場合

Connector 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
<hitachi-connector-property>		1 回	<connector>		1 回
┌ └	<description>	0 回以上	┌ └	<description>	0 回以上
┌ └	<display-name>	0 回以上	┌ └	<display-name>	0 回以上
┌ └	<icon>	0 回以上	┌ └	<icon>	0 回以上

Connector 属性ファイル			Deployment Descriptor		
タグ名		出現パターン	タグ名		出現パターン
	└ <small-icon>	0 または 1 回		└ <small-icon>	0 または 1 回
	└ <large-icon>	0 または 1 回		└ <large-icon>	0 または 1 回
└ <vendor-name>		1 回	└ <vendor-name>		1 回
└ <spec-version>		1 回	(<connector>タグの version 属性)		—
└ <eis-type>		1 回	└ <eis-type>		1 回
└ <version>		1 回	└ <resourceadapter-version>		1 回
└ <license>		0 または 1 回	└ <license>		0 または 1 回
	└ <description>	0 回以上		└ <description>	0 回以上
	└ <license-required>	1 回		└ <license-required>	1 回
└ <resourceadapter>		1 回	└ <resourceadapter>		1 回
	└ <resourceadapter-class>	0 または 1 回		└ <resourceadapter-class>	0 または 1 回
	└ <config-property>	0 回以上		└ <config-property>	0 回以上
				└ <description>	0 回以上
				└ <config-property-name>	1 回
				└ <config-property-type>	1 回
				└ <config-property-value>	0 または 1 回
	└ <outbound-resourceadapter>	0 または 1 回		└ <outbound-resourceadapter>	0 または 1 回

Connector 属性ファイル						Deployment Descriptor										
タグ名				出現パターン		タグ名				出現パターン						
			┌	<connection-definition>		1 回以上				┌	<connection-definition>		1 回以上			
				┌	<managedconnectionfactory-class>		1 回					<managedconnectionfactory-class>		1 回		
				┌	<config-property>		0 回以上					<config-property>		0 回以上		
					┌	<description>		0 回以上					┌	<description>		0 回以上
					┌	<config-property-name>		1 回					┌	<config-property-name>		1 回
					┌	<config-property-type>		1 回					┌	<config-property-type>		1 回
					└	<config-property-value>		0 または 1 回					└	<config-property-value>		0 または 1 回
				┌	<connectionfactory-interface>		1 回					<connectionfactory-interface>		1 回		
				┌	<connectionfactory-impl-class>		1 回					<connectionfactory-impl-class>		1 回		
				┌	<connection-interface>		1 回					<connection-interface>		1 回		
				┌	<connection-impl-class>		1 回				└	<connection-impl-class>		1 回		
				└	<connector-runtime>		0 または 1 回				—				—	
											—				—	
											—				—	
				┌	<transaction-support>		1 回				<transaction-support>				1 回	
				—		—					<authentication-mechanism>				0 回以上	
				—		—						<description>				0 回以上
				—		—						<authentication-mechanism-type>				1 回

Connector 属性ファイル						Deployment Descriptor					
タグ名						出現パターン					
					—	—			└	<credential-interface>	1 回
		└			<reauthentication-support>	1 回		└		<reauthentication-support>	1 回
		└			<inbound-resourceadapter>	0 または 1 回		└		<inbound-resourceadapter>	0 または 1 回
		└			<messageadapter>	0 または 1 回		└		<messageadapter>	0 または 1 回
		└			<messagelistener>	1 回以上		└		<messagelistener>	1 回以上
				└	<messagelistener-type>	1 回			└	<messagelistener-type>	1 回
		└			<activationspec>	1 回		└		<activationspec>	1 回
				└	<activationspec-class>	1 回			└	<activationspec-class>	1 回
		└			<required-config-property>	0 回以上		└		<required-config-property>	0 回以上
				└	<description>	0 回以上			└	<description>	0 回以上
		└			<config-property-name>	1 回		└		<config-property-name>	1 回
		└			<adminobject>	0 回以上		└		<adminobject>	0 回以上
		└			<adminobject-name>	0 または 1 回				—	—
		└			<adminobject-interface>	1 回		└		<adminobject-interface>	1 回
		└			<adminobject-class>	1 回		└		<adminobject-class>	1 回
		└			<config-property>	0 回以上		└		<config-property>	0 回以上
		└			<description>	0 回以上		└		<description>	0 回以上

Connector 属性ファイル							Deployment Descriptor						
タグ名							出現パターン						
			┌	<config-property-name>	1 回					┌	<config-property-name>	1 回	
			┌	<config-property-type>	1 回					┌	<config-property-type>	1 回	
			┌	<config-property-value>	0 または 1 回					┌	<config-property-value>	0 または 1 回	
			└	<config-property-value>	0 または 1 回					└	<config-property-value>	0 または 1 回	
	└			<security-permission>	0 回以上			└			<security-permission>	0 回以上	
			┌	<description>	0 回以上					┌	<description>	0 回以上	
			└	<security-permission-spec>	1 回					└	<security-permission-spec>	1 回	
└				<resourceadapter-runtime>	0 または 1 回						—		—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

4.1.15 cosminexus.xml との対応

Connector 属性ファイルと cosminexus.xml の対応を示します。

Connector 属性ファイル					cosminexus.xml				
タグ名					出現パターン				
<hitachi-connector-property>					1 回				
┌ <description>					0 回以上				
┌ <display-name>					0 回以上				
—					—				
					┌ <module-name>* ¹				
					1 回				

Connector 属性ファイル				cosminexus.xml			
タグ名		出現パターン		タグ名		出現パターン	
	<resourceadapter>	0 または 1 回			<resourceadapter>*2	0 または 1 回	
	<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回			<outbound-resourceadapter>	0 または 1 回	
	<connection-definition>	1 回以上			<connection-definition>	1 回以上	
	-	-			<connectionfactory-interface>	1 回	
	<connector-runtime>	0 または 1 回			-	-	
	<property>	0 回以上			<connector-property>	0 回以上	
	<property-name>	1 回			<property-name>	1 回	
	<property-type>	1 回			-	-	
	<property-value>	0 または 1 回			<property-value>*2	1 回	
	<property-default-value>	0 または 1 回			-	-	
	<resource-external-property>	0 回以上			<resource-external-property>	0 回以上	
	<description>	0 または 1 回			-	-	
	<optional-name>	1 回			<optional-name>	1 回	
	<res-auth>	0 または 1 回			<res-auth>	0 または 1 回	
	<res-sharing-scope>	0 または 1 回			<res-sharing-scope>	0 または 1 回	
	<adminobject>	0 回以上			<adminobject>	0 回以上	
	<adminobject-name>	0 または 1 回			<adminobject-name>*2	1 回	

Connector 属性ファイル							cosminexus.xml						
タグ名							出現パターン						
			(省略)				—		—				—
	└		<security-permission>				0 回以上		—				—
			(省略)				—		—				—
└			<resourceadapter-runtime>				0 または 1 回		—				—
	└		<property>				0 回以上	└	<resourceadapter-property>				0 回以上
		└	<property-name>				1 回		└	<property-name>			1 回
		└	<property-type>				1 回			—			—
		└	<property-value>				0 または 1 回		└	<property-value>*2			1 回
		└	<property-default-value>				0 または 1 回	—					—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(凡例)

—：対応するタグがありません。または、対応するタグがないか、タグを省略しているため、出現パターンの説明を省略しています。

(省略)：タグを省略しています。

注※1

application.xml の<application>-<module>-<connector>に対応し、属性ファイルには存在しない cosminexus.xml 独自のタグとなります。リソースアダプタを特定するためのキーとなります。

注※2

cosminexus.xml はカスタマイズしたい要素だけを記述する形式となるため、属性ファイルと出現パターンが異なります。

タグ名			出現パターン	説明
		ト <description> 	0 または 1 回	リソース環境の別名の説明。
		└ <optional-name>	1 回	リソース環境の別名。 設定する場合、英数字 (0~9, A~Z, a~z), および次の特殊文字を使用できます。 スペース (), エクスクラメーションマーク (!), ダブルクォーテーション ("), シャープ (#), ドル記号 (\$), パーセント (%), アンパサンド (&), シングルクォーテーション ('), パーレン (()), アスタリスク (*), プラス (+), コンマ (,), ハイフン (-), ピリオド (.), スラッシュ (/), コロン (:), セミコロン (;), レスザン (<), イコール (=), グレーターザン (>), クエスチョン (?), 単価記号 (@), ブラケット ([]), 円マーク (¥), キャレット (^), アンダースコア (_), バッククォート (`), プレイス ({ }), ストローク (), チルダ (~) ただし、次の名前は指定できません。 • 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 • 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 • スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 • スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の前後に空白、改行がある場合はエラーとなりませんが、取り除かれます。文字列の途中に空白、改行がある場合はエラーとなります。 同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37602-W) が出力されます。 (例) 別名 1 : AAA 別名 2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255

タグ名			出現パターン	説明
		└	1 回	リソースの別名。 設定する場合、英数字 (0～9, A～Z, a～z), アンダースコア (_), ハイフン (-), ピリオド (.), および階層区切り文字としてスラッシュ (/) が使用できます。 ただし、次の名前は指定できません。 • 予約語である” HITACHI_EJB” (大文字・小文字を区別します) で始まる名前 • 先頭または末尾に、スラッシュ (/) またはピリオド (.) を指定した名前 • スラッシュ (/) だけ、またはピリオド (.) だけの名前 • スラッシュ (/) が連続している名前 文字列の前後に空白、改行がある場合はエラーとなりますが、取り除かれます。文字列の途中に空白、改行がある場合はエラーとなります。 同一リソース内に<resource-external-property>の指定が複数あり、<optional-name>の指定値がほかの<optional-name>の指定値の下位階層となるような関係の場合は、警告メッセージ (KDJE37602-W) が出力されます。 (例) 別名 1 : AAA 別名 2 : AAA/BBB 1 ≤ 文字列長 ≤ 255
		└	0 または 1 回	リソースを使用するための認証元を、アプリケーション上で行うか、コンテナに任せるかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • Application • Container デフォルトは Container です。
		└	0 または 1 回	リソース接続を共有するかどうかの指定。 指定できる文字列を次に示します。 • Shareable • Unshareable デフォルトは Shareable です。

索引

記号

<property>タグに設定する情報一覧 453

C

Connector 属性の詳細 [cosminexus.xml] 174

Connector 属性ファイル 376

Connector 属性ファイルの指定内容 376

Connector 属性ファイルのテンプレートファイル 457

cosminexus.xml 16

cosminexus.xml との対応 [Connector 属性ファイル] 466

cosminexus.xml との対応 [EJB-JAR 属性ファイル] 232

cosminexus.xml との対応 [Entity Bean 属性ファイル] 283

cosminexus.xml との対応 [MessageDrivenBean 属性ファイル] 302

cosminexus.xml との対応 [Session Bean 属性ファイル] 256

cosminexus.xml との対応 [WAR 属性ファイル] 363

cosminexus.xml との対応 [アプリケーション属性ファイル] 214

cosminexus.xml との対応 [サーブレット属性ファイル] 374

cosminexus.xml との対応 [フィルタ属性ファイル] 370

D

DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar,
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar, DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 424
DBConnector_HiRDB_Type4_CP.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_CP_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 429

DBConnector_HiRDB_Type4_XA.rar または
DBConnector_HiRDB_Type4_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 429

DBConnector_MySQL_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 430

DBConnector_Oracle_CP.rar,
DBConnector_Oracle_CP_Cosminexus_RM.rar,
DBConnector_Oracle_XA.rar または
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 431

DBConnector_Oracle_XA.rar または
DBConnector_Oracle_XA_Cosminexus_RM.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 435

DBConnector_PostgreSQL_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 436

DBConnector_SQLServer_CP.rar を使用する場合に指定できるプロパティ 437

DD との対応 [Connector 属性ファイル] 460

DD との対応 [EJB-JAR 属性ファイル] 224

DD との対応 [Entity Bean 属性ファイル] 278

DD との対応 [MessageDrivenBean 属性ファイル] 297

DD との対応 [Session Bean 属性ファイル] 250

DD との対応 [WAR 属性ファイル] 342

DD との対応 [アプリケーション属性ファイル] 213

DD との対応 [サーブレット属性ファイル] 373

DD との対応 [フィルタ属性ファイル] 369

E

EJB-JAR 属性の詳細 [cosminexus.xml] 75

EJB-JAR 属性ファイル 216

EJB-JAR 属性ファイルの指定内容 216

Entity Bean 属性の詳細 [cosminexus.xml] 99

Entity Bean 属性ファイル 260

Entity Bean 属性ファイルの指定内容 260

F

Filter 属性の詳細 [cosminexus.xml] 171

J

J2EE アプリケーションの設定で使用する属性ファイル 207

JavaBeans リソース属性ファイル 469

JavaBeans リソース属性ファイルの指定内容 469

M

MessageDrivenBean 属性ファイル 288

MessageDrivenBean 属性ファイルの指定内容 288

Message-driven Bean 属性の詳細
[cosminexus.xml] 124

R

ResourceAdapter インスタンスに関するコンフィグレーションプロパティの定義 [Connector 属性ファイル] 401

S

Servlet 属性の詳細 [cosminexus.xml] 172

Session Bean 属性の詳細 [cosminexus.xml] 77

Session Bean 属性ファイル 234

Session Bean 属性ファイルの指定内容 234

W

War 属性の詳細 [cosminexus.xml] 140

WAR 属性ファイル 306

WAR 属性ファイルの指定内容 306

あ

アウトバウンドリソースアダプタの定義 [Connector 属性ファイル] 403

アプリケーション属性ファイル 211

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) 16

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) で指定する各属性の詳細 67

アプリケーション属性ファイル (cosminexus.xml) の指定内容 17

アプリケーション属性ファイルの指定内容 211

アプリケーション統合属性の詳細 [cosminexus.xml] 67

アプリケーション統合属性ファイル 208

アプリケーション統合属性ファイルの指定内容 208

い

インバウンドリソースアダプタの定義 [Connector 属性ファイル] 414

か

管理対象オブジェクトの定義 [Connector 属性ファイル] 417

さ

サーバ管理コマンド実行時の引数に指定するファイル 9

サブレット属性ファイル 371

サブレット属性ファイルの指定内容 371

せ

セキュリティパーミッションの定義 [Connector 属性ファイル] 420

そ

属性ファイル 207

属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先 (UNIX の場合) 11

属性ファイルに対応する DTD ファイルの格納先 (Windows の場合) 11

ふ

フィルタ属性ファイル 368

フィルタ属性ファイルの指定内容 368

め

メール属性ファイル 472

り

リソースアダプタの実行時情報 [Connector 属性ファイル] 421

リソースアダプタの設定 [Connector 属性ファイル] 400

リソースアダプタの定義 [Connector 属性ファイル] 395